

令和7年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和7年度 道徳の礎（いしずえ）

【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて

【実践編】 令和7年度道徳教育推進校報告

【Q&A】 道徳科の教育課程Q&A

福島県教育委員会



道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- 【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
- 【実践編】令和7年度道徳教育推進校実践報告
- 【Q&A】教育課程Q&A

以上の3編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の5つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

インデックス

1 おさえる

道徳科の授業の充実に向けて

「道徳のとびら」や「道徳のかけ橋」及び「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別推進協議会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

道徳教育や道徳科の理論が分からない…



1頁
～26頁

2 すすめる

道徳教育推進校の実施計画書等

令和7年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど…



27頁
～55頁

3 はぐくむ

多様な指導方法に基づいた授業実践

令和7年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの…



56頁
～70頁

4 いかす

ふくしま道徳教育資料集等を活用した授業実践

令和7年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集等の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい…



71頁
～85頁

5 さぐる

新教育課程Q&A（道徳科編）

既に学校に周知している新教育課程Q&Aから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してください。

道徳科の教育課程で分からないことがあります…



87頁
～93頁

道徳教育の疑問や迷いから **逆引き** 「さらにパワーアップ」の手がかりを探そう!

Know-How (どのように) だけでなく、Know-Why (なぜするのか?) がキーワード

このページを開いたあなたは、子ども達のために、道徳教育や道徳科授業の指導を工夫されていることでしょうか。もしかすると「目の前の子ども達に合わせて工夫したのに上手くいかない…」と感じているのではないのでしょうか。それは、日々努力されているからこそです。御自身の取組に自信をもって、この道徳の礎から、「さらにパワーアップ」の手がかりを探してみましょう。



それぞれの付箋の色は、その内容がどのインデックスに掲載されているかを色で表しています。複数の色がある場合は、それぞれのインデックスの頁に掲載されています。

ひとりでパワーアップしたい! と思ったら ~自己研修~

子どもの実態	子どもの実態を把握する方法は? どう生かせばよい? 「研究推進にあたって」「資料」には、各推進校の実態把握の方法等が掲載されています。	「把握した実態をどのように生かして授業を行うのか」について、学習過程や考察を参考に考えてみましょう。	実態を踏まえた工夫が大切 教科書の指導書等は、想定された子どもを基に書かれています。「目の前の子どもだったら」という視点で欠かせません。
	どう指導をすればいいの? 「1おさえる」には、理論と実践事例が掲載されています。研修動画を視聴してイメージをもつことも大切です。	授業案はどう書けばいいの? 小・中学校の教科書や「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業の指導案が掲載されています。	
授業づくり (指導と評価)	どんな指導方法があるの? 評価を記入する上での留意点や望ましい評価文等を確認し、先行事例の例文をみんなで考えてみましょう。	発問や学習活動の工夫は? 「道徳科ならではの学習活動」を位置付け、一人一人の道徳性を育むために、発問を工夫しています。	ICT活用のポイントは? 実践事例から、ICTを手段としてどのように活用すればよいかを確認しましょう。
指導方法 板書・発問 ICT活用等	学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (文部科学省)	授業案から学ぶ 授業者が、子どもの実態と教材、ねらいを踏まえ、どのように授業をつくっているか、教師の明確な意図を学ぶことができますね。	



小学校



中学校



高校(総則編)

推進する立場になって「どうしよう…」と思ったら

~道徳教育推進教師~

任命されたら	何をしたらよいのかな? 「はじめの一步」「アイデアノート」を参考に、取組を考えてみましょう。	どんな取組があるの? 「研究推進にあたって」「資料」には、実態を踏まえた取組が掲載されています。	掲示物等はどうすれば? 「アイデアノート」や、各推進校の取組が写真で掲載されています。できそうな取組を探してみましょう。
	年度始めに、全職員で確認すべきことは何ですか? 目標や内容項目、質的転換のポイント、評価の視点及び想定される児童生徒の姿等を確認しましょう。	「学習上の困難さを伴う子ども」等への配慮について、授業でどのように見取るかを話し合みましょう。	別葉ってどう使うの? 「研究推進にあたって」に別葉の活用上の工夫点等を参考に、「どうすれば活用しやすくなるか」を話し合みましょう。
年度始め等	通知表に書く文章とは? 自分が書いた通知表の文章と掲載されている評価文を読み比べながら、子ども一人一人を「認め励ます」文章を考えてみましょう。	評価の質の高め方は? 評価を記入する上での留意点や望ましい評価文等を確認し、先行事例の例文をみんなで考えてみましょう。	「子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から」を読んで、チャレンジしたい取組を見つけてみましょう。
学期末・学年末			

みんなで共に学びたい！と思ったら ～校内研修～

1

おさえる

2

すすめる

3

はぐくむ

4

いかす

5

さぐる

年度
始め

どんな研修内容があるの？

推進校は学校の実態に合わせた研修に取り組んでいます。自分の学校でもできる内容を探してみましょう。

「疑問や迷い」の実態把握で研修効果UP！

年度始めや学期末などに、先生方から「どんな疑問や迷いがあるか」アンケートを行って、その状況から校内研修の内容を決めることもできますね。みんなで学ぶからこそ、自分の指導のよさや課題が明らかになります。



年間

おすすめ / 教職員が集まる会議等で、5分だけチャレンジしてみませんか？

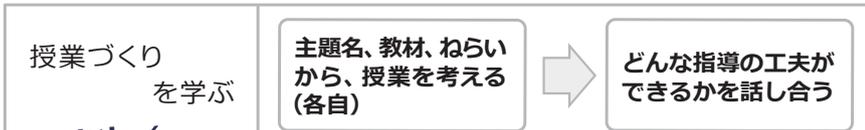
5分コース「ワンポイント研修」



30分コース「ミニ研修」



60分コース「たっぷり研修」



おすすめ /



Let's 実践！



実践にチャレンジしたあなたに拍手！実践に、失敗はありませんよ。

「実践にチャレンジした意欲」「小さくてもできたこと」を自分で認め、「次は〇〇を試してみよう」という気づきを大切にしましょう。



あなたの指導を支える資料等



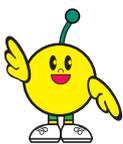
道徳教育アーカイブ
(文部科学省)



県版「道徳教育アーカイブ」
(福島県教育庁義務教育課)



学校教育指導の重点
(福島県教育庁義務教育課)



授業を見て学ぶチャンスは、「アーカイブ」にもあります！

校内研修等で道徳科授業を参観すると「こんな授業をすればいいんだ」「そう発問すると、こんな考えが引き出せるんだ」と学ぶことができます。文部科学省や福島県教育庁義務教育課の「道徳教育アーカイブ」にも、研修動画が掲載されています。ぜひ御活用ください。

推進する校内体制を整えたい！と思ったら

～管理職、教務主任、道徳教育推進教師等～

計画
(年度始め・教育課程編成時)

チームで授業を行う際の配慮すべきことは？

- 担任が授業をすることを原則としながら、チームで取り組む目的を確認しましょう。取り組むことは手段です。
- チームでの取組は「情報交換」「共通認識」を行うことで、教師の指導力向上にもつながります。

全体計画や別業の作成はどのように進めるのかな？

全体計画や別業を作成する際の配慮する点を参考に、特に「自校の別業の活用状況」を把握した上で作成しましょう。

家庭地域との連携

家庭や地域とどのように連携すればよいのかな？

- 「学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業」の頁を参考に、学校の実態に照らして取組を考えましょう。
- 「家庭・地域との連携」「全体計画」「資料」を参考に、学校のよさを生かした取組を考えてみましょう。

別業の目的を踏まえ、「自分たちが活用しやすい別業とは？」を話し合い、形式を考えることもできます。

道徳教育を

先生方お一人お一人のよさを生かし、

みんなで推進していきましょう。



令和7年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地区	学校名	内容	掲載頁
県北	伊達市立伊達小学校	実施計画・全体計画・別葉等	27～32
		質の高い多様な授業実践	56～58
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	71～73
県中	郡山市立大槻中学校	実施計画・全体計画・別葉等	33～38
		質の高い多様な授業実践	59～61
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	74～76
県南	矢吹町立三神小学校	実施計画・全体計画・別葉等	39～44
		質の高い多様な授業実践	62～64
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	77～79
会津 南会津	喜多方市立塩川中学校	実施計画・全体計画・別葉等	45～50
		質の高い多様な授業実践	65～67
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	80～82
相双 いわき	県立相馬総合高等学校	実施計画・全体計画等	51～55
		質の高い多様な授業実践	68～70
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	83～85



異学年交流「わかあゆタイム」

伊達小学校は、「わかあゆファミリー」という縦割り班で清掃活動を行っています。

月に一度の「わかあゆタイム」では、ファミリーごとにどんなことをして遊ぶのかについて話し合い、1年生から6年生までの子ども達が楽しく交流しています。交流を通して、お互いのよさに気付いたり、理解し合ったりして、子ども同士のつながりが強くなっていると感じています。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて



【第1部 理論編】 道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

道徳教育の目標

(小(中)学校学習指導要領第1章総則 第1 教育課程編成の基本方針 2 抜粋)
 学校における道徳教育は、**特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)**
を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、
 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に
 応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。
 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基
 づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として
 他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述・「総則」編に記載
- 「特別の教科 道徳」の記述・「特別の教科 道徳」編に記載
- 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- 育むものは、内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

(小(中)学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第1 目標」)
 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるた
 めの基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自
 己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方
 についての考えを深める学習を通して**、道徳的な判断力、心情、実践意欲と
 態度を育てる。

道徳性を養うために行う**道徳科における学習**



【本時のねらいは…】

○○○を通して、(道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度)を育てる。

学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科 道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科 道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳的実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

赤字で記述された「○○学習を通して」の部分が特に大切です。

具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、

- 自己を見つめること
- 物事を多面的・多角的に考えること

以上の2つを押さえることがとりわけ大切です。

この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。



各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	<p>「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。</p> <p>【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加</p> <p>【小・中学年】20項目 「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加</p> <p>【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加</p> <p>【中学校】22項目</p>
体系的なものへの改善 手掛かりとなる 言葉の付記	<p>記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。</p>

小学校低学年は19項目(3項目追加)、中学年は20項目(2項目追加)、高学年・中学校は22項目(高学年は1項目追加)です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。

なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉(キーワード)を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



道徳教育全体計画を作成する際、配慮する点を教えてください。

小（中）学校学習指導要領第1章総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 1 抜粋

- 道徳教育の**全体計画**の作成
 - ⇒ **重点目標の設定**
 - ⇒ 各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示
- 活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）
 - 例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別業にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいもの**とすることが考えられる。
- **校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。**
道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）
 - 道徳教育の指導計画の作成に関すること
 - 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
 - 道徳科の充実と指導体制に関すること
 - 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
 - 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
 - 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
 - 道徳教育の研修の充実に関すること
 - 道徳教育における評価に関すること など

小・中
共 通

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別業」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容で計画的・組織的に作成したいものです。



【道徳教育全体計画の内容】

1 基本的把握事項について

- 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
- 学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
- 児童生徒の実態と課題

2 具体的計画事項について

- 学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- 道徳科の指導の方針
- 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
- 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
- 学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
- 道徳教育の推進体制
- その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

3 「別業」について

- 各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- 道徳教育の推進体制や家庭、地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

道徳教育全体計画			郡山市立大槻中学校						
<p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 教育関係法規 学習指導要領 いじめ防止対策推進法 郡山市いじめ防止基本方針</p>			<p>本校の教育目標 明るく ねばり強く 深く考える</p>						
<p>生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直に話を聞くことができる。 ・友達の話や発表をよく聞き、友達の考えに共感し前向きに取り組む。 ・より高い目標を目指し、努力できる。 			<p>地域の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校卒業の保護者や祖父母の割合が多く、幼少から地域愛が育まれている。 ・地域の協力が得られやすい。 ・新興住宅地や市営アパートへの転居者も多く、多様な生活環境で育っている。 						
<p>各教科</p> <ul style="list-style-type: none"> 国 他者の心情を理解し、思いやりある表現を身につける 社 公共心を養い、社会の一員として責任を果たす態度を養う 教 論理的に考え、誠実に課題に取り組む姿勢を培う 理 自然や生命の尊さを理解し、環境を大切にすることを育てる 音 協調性を育み、互いの感性を尊重する態度を養う 美 活動を通して自己を表現し、他者の多様な表現を尊重する心を育てる 体 スポーツを通して規律やフェアプレー、一精神を身につける 技 生活に必要な知識や技能を学び、勤労や協力の大切さを理解する 英 異文化理解を深め、国際社会で共生する態度を育てる 			<p>総合的な学習の時間</p> <p>自己理解と自己実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を設定し、主体的に探究することで、自分の可能性を認識し、自己を尊重する態度を育てる。 <p>他者理解と協働の心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査や体験活動を通して多様な人々と関わり、協力し合いながら課題を解決する姿勢を養う。 						
<p>道徳教育の重点目標</p> <p>A 希望と勇氣、克己と強い意志 基本的な生活習慣を身につけ、より高い目標に向かって努力する生徒を育てる。</p> <p>B 思いやり、感謝 教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めながら、まわりの人々に対して感謝と思いやりを持ち、心を持って接することのできる生徒を育てる。</p> <p>D 生命の尊さ 生命の尊さを理解し、美しいものに素直に感動する心豊かな生徒を育てる。</p> <p>C よりよい学校生活、集団生活の充実 集団の意義についての理解を深め、自己の役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める生徒を育てる。</p> <p>C 公正、公平、社会正義 いじめについて自分自身のこととして捉え、いじめを許さない気持ちを持って行動することのできる生徒を育てる。</p>			<p>家庭的な学習の時間</p> <p>家庭の協力・地域社会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「職場体験活動」による地域貢献 ・学校だよりへの記載 ・学校運営協議会での話題提供 ・地域における小中学校の連携と協力（授業参観の互見） 						
<p>各学年の指導の重点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>第一学年</th> <th>第二学年</th> <th>第三学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 自主、自律、自由と責任 望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す態度を育てる。</td> <td>B 相互理解、寛容 相手の立場に立ってお互いのよさを認め、励まし合い、高め合うこととする態度を育てる。</td> <td>C 社会参画、公共の精神 人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深めようとする心情を育てる。</td> </tr> </tbody> </table>			第一学年	第二学年	第三学年	A 自主、自律、自由と責任 望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す態度を育てる。	B 相互理解、寛容 相手の立場に立ってお互いのよさを認め、励まし合い、高め合うこととする態度を育てる。	C 社会参画、公共の精神 人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深めようとする心情を育てる。	<p>生徒指導</p> <p>自分を大切にできる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、自己肯定感を育てる ・健康や生命を尊重し、主体的に生活する <p>他者を思いやる力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や気持ちを尊重し、協力する。 ・いじめや差別を許さず、互いに尊重し合う <p>社会の一員としての責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールやまもりを守って行動する ・地域に貢献する <p>正しく判断し行動する力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えなくても正しい判断のもとに行動する ・自律的に考え、実践する姿勢を身につける
第一学年	第二学年	第三学年							
A 自主、自律、自由と責任 望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す態度を育てる。	B 相互理解、寛容 相手の立場に立ってお互いのよさを認め、励まし合い、高め合うこととする態度を育てる。	C 社会参画、公共の精神 人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深めようとする心情を育てる。							
<p>特別活動</p> <p>〈学級活動〉 学級の一員として互いを尊重し、協力してよりよい集団を築く態度を育てる</p> <p>〈生徒会活動〉 自治的活動を通じて公共心を養い、学校全体のために責任ある行動を取る姿勢を培う</p> <p>〈学校行事〉 行事への参加を通じて協調性や連帯感を深め、思い出を共有する喜びを大切にすること</p>			<p>評価計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考え、議論し、自己の生き方を深める過程をみとり累積する ・学習状況や成長の様子を認め励ます表現を工夫する ・教師の授業改善に役立てる 						
道徳の実践へ									

道徳教育全体計画例「郡山市立大槻中学校」（36頁に掲載）

道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】

- ① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
 - ② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
- ※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に、内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

(道徳のかけ橋第4号(平成26年12月15日)より抜粋)

道徳のかけ橋第4号では、「別葉」の特集を組み、左のA～Dの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。ぜひ、全教員が共通認識に立ち、作成してください。A～Dの4つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
- ▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
- 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

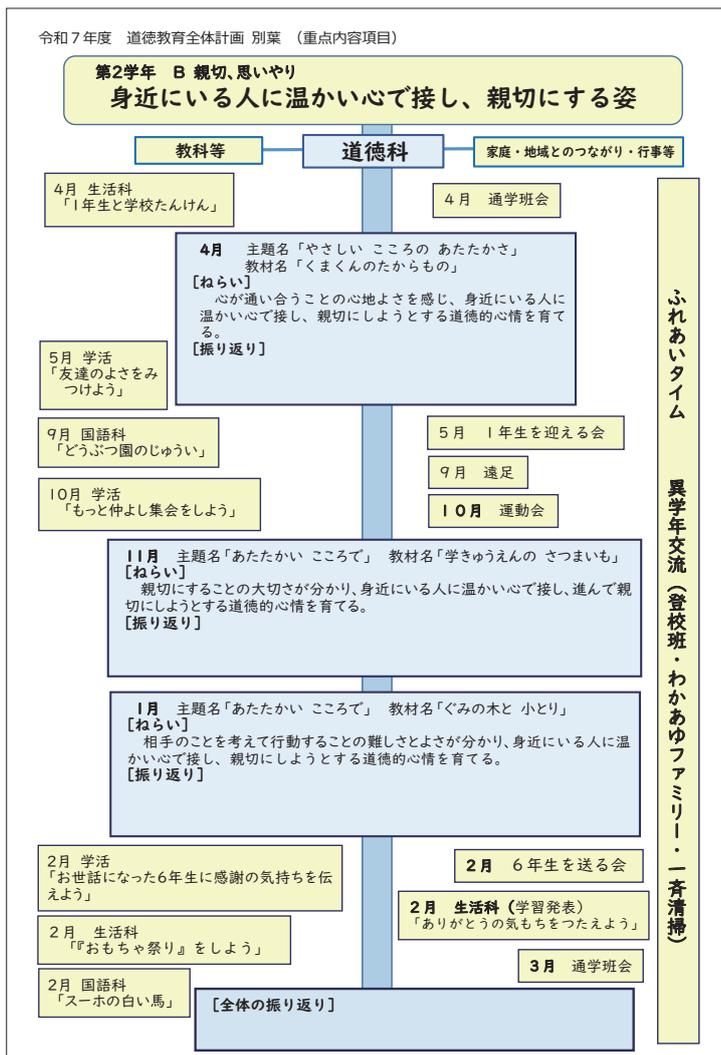
- 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
- ▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
- 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- すべての内容項目の関連が分かる。
- ▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
- 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならではの」別葉を作成したいものです。



Dの別葉例「伊達市立伊達小学校より」(31頁に掲載)



自校の教育課題の解決に向けた取組として参考にしてください。

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠

教科書の法的根拠	学校教育法34条（教科用図書・教材） 小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する 教科用図書を使用しなければならない 。（中学校等にも準用）
教科書の定義	教科書の発行に関する臨時措置法2条（定義） この法律において「教科書」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、 教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材 として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であつて、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成します。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて工夫することが大切です。



教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道德教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点 1 教材の開発と活用の工夫）

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導
道德科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、**道德教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる**。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道德的価値について考えを深めることができるため、**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい**。

（同 2 道德科に生かす教材）

(3) 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）
なお、**教科用図書以外の教材を使用するに当たっては、「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年3月4日 初等中等教育局長通知）**など、関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用することが重要である。

- 「主たる教材」としての教科用図書教材
⇒ 今後は主題、教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要
- 「副教材」として、ふくしま道德教育資料集をはじめ、市町村発行の道德教育資料集等を積極的に位置付けたい。
⇒ 意図的・計画的・組織的な計画と活用を

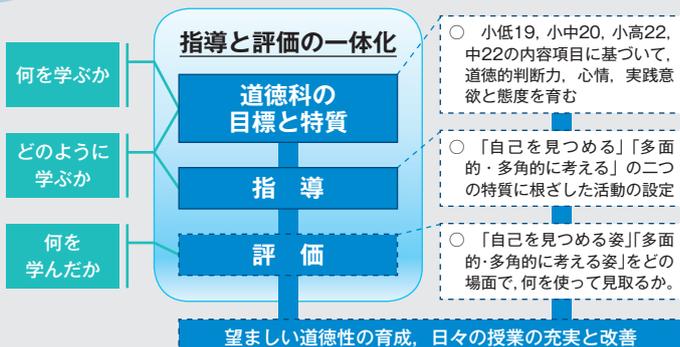
「ふくしま道德教育資料集」「市町村発行の道德資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道德（WEB版）」や「小（中）学校 道德読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」 ～主体的・対話的で深い学びの実現～



指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらい－指導－評価」が、「道德的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道德科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。



「特別の教科 道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など 多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習指導要領解説「特別の教科道徳編」第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第3節 指導の配慮事項 5 問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりを心がけることが大切です。

10、11頁に「(H28.7.22) 特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～18頁に掲載していますので指導の参考としてください。



「特別の教科 道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

- 改訂後の学習指導要領（特別の教科 道徳）
児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

(H27.6～H28.7)

【基本的な方向性】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要

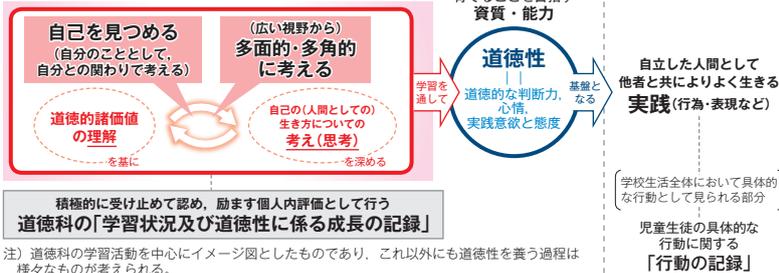
※ 専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

- 道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
- 道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論する」ことを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって、道徳性を養うことを目指すものである。
- このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行う
道徳科の「学習状況及び道徳性に係る成長の記録」

注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
- 観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
- 道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
- 学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性に係る成長の記録」を見るものです。



別紙3

小学校児童指導要録(参考様式)(イメージ)

学年	氏名	各教科の学習の記録						特別の活動記録					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
1													
2													
3													
4													
5													
6													

- 指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
- 道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号(平成28年8月10日付)で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者(各学校を所管する市町村教育委員会)が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことを教えてください。

【指導要録の根拠及びその性質】

- ① 校長は、その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。(学校教育法施行規則第24条)
- ② 指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立つための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。(平成22年5月11日 文部科学省初等中等教育局長通知)

【通知表(票)の根拠と性質】

- ① 法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
- ② 児童生徒の学習指導の成果、学習生活の状況、健康状況等を保護者に連絡し、保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり、その呼び方や内容、形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】

- ① 校長の指導の下、通知表(票)の評価をどのように行うか。
- ② 保護者に道徳科の評価について、どの時期に、どのような内容で周知し、理解を図るか。
- ③ 通知表(票)の記述を、どのように指導要録につなげるか。

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等に集積して学習状況を把握すること。
- 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
- 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取することを心掛けるようにすること。
- 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内7地区で開催した「平成30年度の『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非、評価を行う際の参考にしてください。

○ 平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉

学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○ 研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大のほめ言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現を心がけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○ 研修会参加者が作成した評価文

- 「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いた、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧ください。ご家庭での話題にしていだければと思います。

- 「〇〇〇」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、友だちの発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。
- 「〇〇〇」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見を持ち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。
- 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友だちの考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。
- 「〇〇〇」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。 など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。 など

今後の道徳科の授業では、「道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の二つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら二つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。



道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・ ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- ・ 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- ・ 様々な登場人物の立場で考えている。
- ・ 自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- ・ 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- ・ 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。 など

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- ・ 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- ・ 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- ・ 自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- ・ 自分だったらどうするかなど考えている。 など

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。



望ましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、二つの評価文をお示しします。二つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子を感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子を感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。



特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気が付き、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもって、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこのあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を2事例（C、D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の二つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。



表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

- 授業中の発言がほとんどない児童生徒
- 文章表現が得意ではない児童生徒
- 表情にも表れにくい児童生徒

- ・ 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要である。
- ・ 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていきたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について(例)」を掲載します。指導の参考としてください。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※ 以下の指導方法は、本専門委員会における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の姿を踏まえ、授業の主題やねらいに適切な指導方法を選択することが重要。

※ 以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

ねらい	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>
<p>導入</p>	<p>登場人物の心情理解のみの指導</p>	<p>問題の発見や道徳的価値の想起など</p>	<p>道徳的価値を実践する行為に関する問題場面の提示など</p>
<p>展開</p>	<p>登場人物の自我関与</p>	<p>問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など）</p>	<p>道徳的な問題場面の把握や考察など</p>
<p>終末</p>	<p>振り返り</p>	<p>【教師の主な発問例】</p>	<p>問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実践など</p>
<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>	<p>×</p>

指導方法の効果	×	読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
	登場人物の心情理解のみの指導				
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会った道徳的な問題に对应しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 ・他者と対話や協働しつつ問題解決の中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 ・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。 	<p>主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い</p>	
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教師に明確な主題設定がなく、指導頼に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確なテーマ設定のもと、多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。 ・といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明確なテーマのもと ・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。 ・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。 		

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

困難さの状況	学習上の困難さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
考えられる障害	学習障害（LD）等	注意欠陥多動性障害（ADHD）等	自閉症等
道徳指導上の困難	読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 読書が苦手な自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流暢に表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となるなど	注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していることを受け止められないことがある。 相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのかわからないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 ものごとを最後まで注意していないために、結果を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。	相手の気持ちを想像することが苦手、字義通りの解釈をすることがある。 明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 こだわり行動または感覚の過敏にできないことがある。 分かっていてもその通りにできないことがある。 誤って学習したこと、修正が困難な傾向があるなど
指導上の必要な配慮	言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他の者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振るなど	適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないうえに済むようにする。 チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築くなど	他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 「〇〇ですと言ったのは、△さんが『～だ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようになる。 ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。など

※発達障害等には上記以外の障害もあるが本専門委員会において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
※「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門委員会）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版） ～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第22号（令和2年2月20日発行）より抜粋】

主題名 やさしくすると… 【B-（6）親切、思いやり】

ねらい 親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して、他者に優しくすると自分も相手も気持ちよくなることに気づき、身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材 「はしのうえのおおかみ」（わたしたちの道徳1・2年）文部科学省
※ 福島県教育委員会オリジナル紙芝居（画：福島県立福島西高等学校 デザイン科学科3年 小林美歩さん）



こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！



- A** 集中力を持続させることがむずかしい。
- B** 気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。
- C** 一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

1 他者に優しくできていないオオカミの姿から、本時の学びの視点をもつ。

(1) 橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると どんなきもちになるのかな？

2 優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。

(1) 橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。

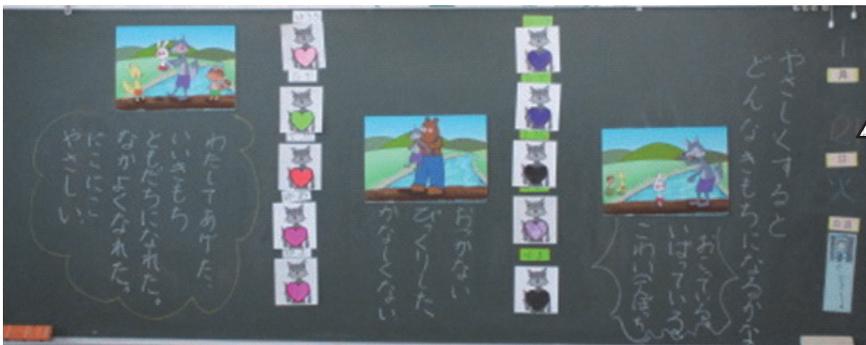
(2) 橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。

3 自分はオオカミに似ているときがあるか考える。



A 導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【板書】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。

可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。



◆◆◆ 授業の実際 ◆◆◆



A 紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇ 紙芝居による演出 ◇

- ① 話の内容に合わせてながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
- ② 登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。(クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡る場面など)

T : (紙芝居を読んでいる途中で) 一本橋って、わかる？
 C1 : あの細い丸太でしょ。
 T : そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

T : このとき、オオカミの顔はどんな顔？
 C4 : おこってる。
 C2 : いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。



B

色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の様子を考えやすくしたりしました。



オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

T : このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
 C2 : (水色のハート型色紙を合わせて…) ちがうな。(群青色を合わせて…) これだな。
 C : (5人全員がオオカミの気持ちの色を決める。)
 T : C3さんは、どうしてこの色(黒)にしたの？
 C3 : ひとりぼっちだと思って…。友達がない。
 C4 : (C4も同じく黒) オオカミは怒っているから黒。
 T : どうして怒っているんだろうね？
 C4 : 怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。



ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確かめながら考えていました。



オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

T : 前のオオカミと違うところはあるかな？
 C : (子どもたち5人全員大きくうなずく)(全員、折り紙を使って色を探す。)
 T : なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
 C1 : (ピンク) オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
 C5 : (赤) いい気持ちになったから、黒から赤になった。
 C2 : (黄緑) 友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
 T : オオカミはやさしくなったの？
 C : (全員大きくうなずく)
 T : やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
 T : このときのオオカミをやってみよう。(役割演技をしたり、見たりする。)

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。



C

一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

- 気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児～はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。
- 反応が少ないC3児～名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。
- 描材(クレヨン)で遊んでしまいそうなC6児～始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。(当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。)



A

授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

- 授業後の活動も含めて45分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。

【想定していた活動】

一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき



授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。

(URL) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>



質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例 ～新地町立尚英中学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第25号（令和4年4月発行）】

深い学びのある道徳科の授業をつくろう

道徳科における 1人1台端末の活用

1人1台端末が導入され、試行錯誤の日々が続いていると思います。不安や難しさを感じてしまうこともあるでしょう。

本号では、道徳科における1人1台端末、ICT活用の事例を紹介します。令和3年度道徳教育推進校の新地町立尚英中学校はICT活用を活発に進めている学校です。しかし、常に「この場面で本当にICTが必要だろうか」と考え、生徒の実態を基に授業をつくってきました。特に「道徳科の学習では、フェイス・トゥ・フェイスの話合いを大切にしたい」という教師の思いがありました。

尚英中学校 第2学年3組の授業実践 指導者：平塚健次郎 教諭

主題 友情を育てるために【友情、信頼】

教材名 ゴール（東京書籍）

ねらい 登場人物5人のそれぞれの思いについて話し合うことを通して、友情を培うために自分はどうかあればよいかを考え、より一層深い友情を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

教材のあらすじ

本教材は、バスケットボール部に所属する5人の女子中学生の話である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたてチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだと思った4人は、リカを誤解していたことに気づき、後悔する。友だち関係の問題や困難を乗り越え、正しく理解することによって、より豊かな人間関係が築かれることを考えることができる教材である。



授業改善のポイント①

教材を自分事として捉えることができるように、生徒の体験と登場人物の気持ちを重ね合わせて考え、自己を見つめることができるようにする。

授業改善のポイント②

多面的・多角的に考えることができるように、構造的な板書やICT（協働学習支援ツール）活用により、意図的指名を行い、話合いをコーディネートする。

授業の実際（授業レポート）

導
入

● 事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。

教師 「友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。」という質問ですが、どのような結果だと思いますか？

→ほぼ100%が「はい」と回答した。回答の理由「自分のことを分かってもらうことで、以前よりも仲よくなった」を伝えると、生徒たちはうなずきながら共感していた。

教師 「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。」についての結果も見てみましょう。

→半分以上が「はい」という答えであった。他のアンケート項目についても紹介し、自己の経験を振り返り考えることができるようにした。

教師 みなさんも、友達に支えられたり、友人関係で失敗したりしたことがあるのですね。今日は、友達関係がうまくいかなかった話を使って友情について考えていきましょう。

アプリのアンケート機能を活用すると、生徒の実態把握がしやすく、集計が効率的にできます！

① 事前のアンケートをきっかけとし、自分の生活を振り返ることにより、本時の学習を自分事として捉えることができましたようにしました。

① この導入をきっかけにして、「アンケート結果」、「教材」、「自分」が重なっていききました。

● 教材「ゴール」の範読を聞き、トラブルが起きた原因について考える。

- 教師 なぜこのような状況になってしまったのだろう。
- 生徒 コミュニケーションが足りないと思う。
- 教師 どうすればよかったのかな。
- 生徒 お互いに説明が足りないからこうなったと思う。
- 教師 どうしてそう思うの？
- 生徒 キャプテンとして配慮がなさ過ぎるのではないか。
- 生徒 誰かを外した LINE グループをつくるのはよくないと思う。

① 教師は、登場人物の心情理解のみにならないように、「教材の中の登場人物が立たされた状況」に共感させ、それと同じような「自分の経験や体験を想起して、自分の気持ちを考える」ことを最後まで大切にしていました。
この段階では、自己と重ねることが難しかった生徒も、友だちとの話合いで「自分は…」と問う姿につながっていききました。

授業改善のポイント②

● 登場人物に共感し、道徳的価値の問題場面について考える。

- 教師 なるほど。友だちとコミュニケーションをとることは大切だとわかっているのに、5人はどんな思いをもっていたのかな。
→ある班の話合いの様子
- 生徒1 友達の様子がおかしい時に、声をかけられない気持ちってわかるな。
- 生徒2 それ、あるよね。でもキャプテンなら頑張って声をかけてほしいよね。
- 生徒3 SNS でやり取りするからこうなるんじゃない？
- 生徒2 このグループチャットをつくること自体がおかしくない？
- 生徒3 確かに。面倒になりそうだから、僕だったら入らないな。

平塚先生のこだわり！
② 生徒の考えを対比させたり様々な立場の考えを位置づけたりできるよう、板書を構想しました。しかし、話合いの抛り所となる構造的な板書についてはこれからの課題です。

授業改善のポイント③

● 協働学習支援ツールの効果的な活用

- 教師 でも、友だちだよ。断ることができるの？
→話合いが次第に、自分を重ね合わせた発言に変わっていく。
- 生徒1 ダメだとわかっているけども実際断れないよね。
- 教師 どうしてそう思うの？
- 生徒2 でも、自分の知らないところでそんなグループチャットができていたらショックだよ。
- 生徒3 このグループチャットをつくって、何かいいことあるの？ひどくない？
- 生徒1 それはわかるけど、でも自分が誘われたらどうする？
- 生徒3 僕は入らない。「なんでそんなグループ作るの？」って言う。
- 生徒1 本当に言えるの？自分の部活だったらどうなの？
- 生徒3 確かに…。難しい…。友だちだから言いづらいか…。
→友達の考えを聞き、自分を見つめ直す姿は、多面的・多角的に考え、自己を見つめる姿である。

② 教師は協働学習支援ツールによって、生徒全員の考えを手元のタブレットで把握しています。
多面的・多角的に考えが広がるように、授業全体をとおして意図的に指名しました。このようなことが瞬時にできるもの、ICTのメリットの1つです。



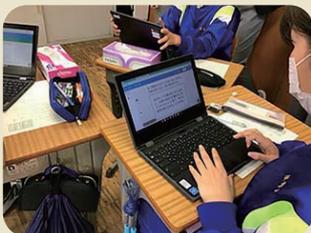
ICTと板書を効果的に活用している平塚教諭

授業改善のポイント①

● 自己を見つめる学習活動の工夫

- 教師 今の自分から、過去の自分に手紙を書いてみましょう。
→過去に友人関係で失敗してしまった経験を想起し、その時の自分に手紙を書くことで、これからの自分の生き方について考える場とした。

① 自己を見つめることができるよう、活動を工夫しました。話合いをとおして、再度、自分を見つめ直し、自分の考えを深める大切な時間です。



生徒のワークシートから
(協働学習支援ツールで共有)

まず、自分の気持ちを相手に伝えてみるといいよ。相手も、誤解しちゃっているところがあると思うし、伝わるとスッキリすると思う。そしたら、相手の気持ちをよく聞いてみよう。自分が誤解しているところや、本当の気持ちが変わると、もっと仲よくなれると思う。



道徳科における ICT 活用の注意点！

子どもの意見が一律に共有されることはとても便利です。しかし、共有されることに抵抗感をもつ子どもも中にはいるかもしれません。目の前の子どもの実態を考慮し、活用方法を検討してください。また、ワードクラウド（出現頻度が高い単語を複数呼び出し、その頻度に応じた大きさで図示する）機能は、大きな文字で現れたものがあたかも正解のように、多数決的に感じる子どももいます。使い方によっては「自分の考えは間違っていた」という誤解を与えてしまう可能性があります。道徳科では、言葉にならなくても何とか絞り出した心の声や表情を教師が見取り、話合いにつなげることが大切です。試行錯誤しながら、よりよい道徳科の授業づくりを進めていきましょう。

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例 ～福島市立平田小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第26号（令和5年4月発行）より抜粋】

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業実践



社会の情報化が進展する中、子どもは、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や子どもの実態に応じた対応が学校教育の中で求められています。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものですが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要があります。

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業について、一緒に考えてみませんか。

授業について

福島市立平田小学校 第4学年の授業より 指導者 鳴原 則子 教諭

- 主 題 名 自信にすることにしたがって
- 内 容 項 目 A(1) [善悪の判断、自律、自由と責任]
- 教 材 名 「カマキリ」(出典：新・みんなの道徳4 学研)
- ね ら い 正しくないと考えられることを人から勧められる場面を役割演技で疑似体験をし、そのときの「ぼく」や「友達」の心の中を考えるを通して、よく考えて正しいと判断したことは、周りに流されないで行うことの大切さに気づき、自信をもって行おうとする態度を育てる。
- 児童の実態 学級で小さなトラブルが起きると、自分たちで話し合い、原因を考えたり行動を改めたりする姿がある。その中で善悪を判断する場面があるが、友達関係や自分の弱さから、正しい行動ができないこともある。また、正しくないという判断をして自分はその行動を起こさなかったとしても、友達の行動をとめることはより難しい。

○ 指導の意図（児童の実態を踏まえて）

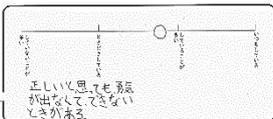
正しいことを行えないときの後ろめたさや正しいことを行ったときの充実した気持ちを振り返り、正しいと信じて判断したことを行おうとする態度を育てたい。



〈あらすじ〉

主人公の「ぼく」がインターネットを使う際、自分の判断は正しいと思いながらも周りの友達に流されて個人情報を入力してしまい、自分の行動に後悔の念を抱いてしまうという話である。

ここがポイント！ 子どもが「問題意識をもって授業に臨む」ために



〈事前アンケート〉



〈事前アンケートの提示〉

〈事前アンケート〉

「正しいと思うことをいつでもしているか」について、心のものさしを使って事前アンケートを行いました。

〈導 入〉

アンケート結果を、一つの心のものさしに集約したものを提示しました。

「どうして正しいと思っても、できないことがあるのかな。」

「自分だけじゃない。」

「人によって位置が違うな。」

友達の考えや全体の傾向を知ることで、「善悪の判断」に係る子どもの問題意識が高まりました。そこで、本時の学習課題「正しいと分かっているのに…」が設定されました。

道徳は、教材の内容を理解させることに終始せず、教材を活用して生き方を学ぶ時間です。だからこそ、子どもが「問題意識をもつ」ことが大切になります。



道徳科の特質

ここがポイント！「多面的・多角的に考える」ために

主人公が友達とインターネットでカマキリを検索していると、先に進むためには名前を入れなければならない画面に遭遇します。授業者は、この状況を**役割演技で、疑似体験**をさせたいと考えました。PC上に、カマキリの画像や、「ご利用ありがとうございます。お名前をご登録しました。」という文章が並ぶ画面を作成し、臨場感のある状況を設定しました。

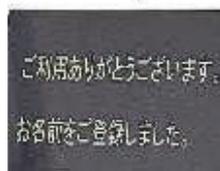
〈役割演技1回目〉 「ぼく」役：子どもたち 「友達」役：教師

〈役割演技2回目〉 「ぼく」役：A児 「友達」役：A児以外の子どもと教師

【評価の視点】 個人情報の入力をめぐる場面のぼくや友達の心の中について、それぞれの立場で考えている。 (発言)



〈PCに作成した画面〉



〈役割演技を通して考える姿〉

〈2回目の役割演技より（一部抜粋）〉

友達役： 早くやって、やって。(みんなで)

ぼく役： 見たくても無理。

友達役： 見たいなあ。見ようよ。(みんなで)

教師： すごい写真があるかもしれないよ。もっとす

(友達役) ごい新聞ができるよ。(ゆさぶり)

ぼく役： 変な請求がきたら困るから、自分の気持ちを優先した方がいいな。

友達役： いい新聞を作るって約束したでしょ。下の名前だけなら大丈夫だよ。大丈夫だよ (みんなで)

ぼく役： ん…。

〈役割演技後に〉

教師： ぼく役のAさん、やってみてどうでしたか。

ぼく役： さっきまで、個人情報だからいけないと思っていたけれど、みんなに言われて、すごく迷った。まっ、いいかなって気持ちになった。

教師： 周りにいた友達は、ぼくの心の中はどうだったと思いますか。

友達役： だめって電源を切ったら嫌われるし、絶交される。嫌われたくないって思ったと思う。(続く)



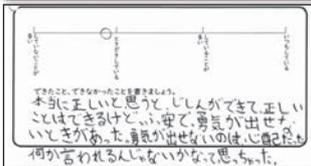
単にPC操作を目的として行うのではなく、役割演技を通して友達に勧められるとなかなか実行できない自分の心の弱さに気付くことができるようにしたり、役割を交代することでぼくと友達のそれぞれの立場から考えることができるようにしたりしていることが素晴らしいですね。

道徳科の特質

ここがポイント！「自己を見つめる」ために

「これまでの自分は、正しいと判断したことは自信をもって行っていましたか。」と投げかけ、心のものさしを使いながら、自己を見つめることができるようにしました。また、子どもにとって身近な友達関係や情報モラルに関わる経験を、具体的に想起できるような言葉掛けをしました。

【評価の視点】 正しいと判断したことを実行しているか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。 (ワークシート、発言)



ぼくより小さい子に、「ろうかは走らないよ。」と、正しいと思ったことを言えた。

ぼくがまだ小学生ではないときに、友達がからかわれていて、ぼくは、助けたかったけれど、ぼくもからかわれたらどうしようと思って、自信をもてなかった。(続く)



授業者は、「できた体験」「できなかった体験」の両面について振り返るように促していました。具体的な体験と結び付けて考えることで、子どもたちは知的な理解に止まらずに、自分との関わりで実感をもって考えを深めることができました。



◆◆◆◆◆ 道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業とするために ◆◆◆◆◆

道徳科で行う情報モラルの学習は、**情報機器の使い方やインターネットの操作、危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行う時間ではなく、内容項目(例えば「礼儀」や「親切、思いやり)」について「自分はどうか」と自己を見つめることを通して、自分の価値観を明らかにしていく時間**です。具体的に意思決定していく学級活動(2)の特質との違いを明らかにして授業をつくります。(学習指導要領解説p97参照)

道徳科の目標に「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深めるためには、どんなことに気を付けたらよいのですか。



授業を振り返り、自己を見つめる時に、こんなことはありませんか。

- ・振り返りの時間が無くなってしまった。
- ・子どもに何を書かせるかがあいまいで、とりあえず本時の感想を書かせている。
- ・子どもが「これからはこうしたい！」と前向きなことを振り返るので自己を見つめていると思う。

道徳科のわらいに迫り、道徳性を育成していくためには、自己を見つめる時間がとても重要です！

一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが道徳科のゴールになっていることが考えられます。

ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

- 道徳的価値の意義を問うなど、教材から離れて自分の生活や体験等を振り返るようにしていますか。
- 子どもは、道徳的価値について自身のこれまでの経験や価値観と照らし合わせて考えを深めていますか。
- 子どもは、「自分はこうだと思うけれど迷う。」「分からなくなってきた。」「自分には難しい。」等人間の心の弱さに気付いていますか。
- 子どもが道徳的価値について他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるように構造的な板書を工夫するなどの手立てを考えていますか。

これらのことに気を付けながら、自己を見つめる時間をつくっていくことが大切です。子どもが、「あの時は○○○と考えて、□□□したな。」と、これまでの具体的な経験とつなげることで、「今思うと・・・」あるいは、「だから・・・」と、実感を伴いながら考えを深めることができるようにしていきます。

「自己を見つめる」ことを大切にしている先生方の実践を紹介します。



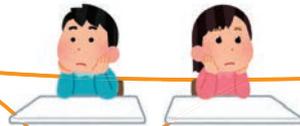
振り返りの時間を大切にしています！



本校では、1時間の授業の10～15分を「自己を見つめる時間」として振り返りの時間を設定しています。

始めは何も振り返ることができない子どももいて悩みました。そこで、心のものさしを使って考えるなど、子どもが自分の考えを示すことができるような工夫から始めました。振り返りでは、自分の考えや話し合いをもとに、「これまでの自分はどうか」を振り返っています。

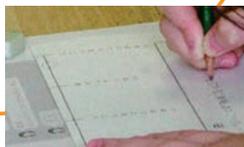
マイナス面を書くことをためらう子どももいましたが、どんな考えも認め合える学級の雰囲気が出てきたので、次第に素直な言葉があふれてきました。1年間繰り返すことで、自己内対話が深まっているように感じています。今では、振り返った後に、自然と振り返りを共有し認め合う姿が見られるようになりました。



こんな時は・・・

「自己を見つめる」時にはワークシートを活用しています！

私の学校では、自分を客観的に見つめじっくりと考えたことを表出できるよう、ワークシートに書く活動を取り入れ累積しています。



- 振り返りを書くことができない。
 - ・授業中の発言に着目してみましょう。
 - ・授業後にどのように考えていたか、そっと問いかけて見取ることもできます。
 - ・焦らず、長期スパンで見取るようにしましょう。
- 振り返りが前向きでない。
 - (例) 今のぼくは、みんなのようにできないと思う。
 - ⇒今の自分には実現することが難しいと感じている、自分に気付いている姿です。自己を見つめている姿を認め、長期スパンで道徳性に係る成長の様子を見取っていきましょう。



学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業をどのように進めればよいのですか？

学習指導要領には、家庭や地域社会との連携による指導が明記されています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳教育を進めることで、子どもの豊かな道徳性の育成につながります。各学校、学級の実態をしっかりと捉えた上で、家庭や地域との連携を探っていきましょう。



道徳教育推進校で進めた家庭との連携の取組例

1 道徳科の授業の前に、家庭で教科書を保護者と共に読む活動を設定する。その後、感想を話し合う。



教材文が長く、一読に時間がかかる教材の場合は、事前に読むことで自分の考えを整理しやすくなります。一方、全員で確認しながら読むことのよさ、初めて読む楽しさもありますので、実践には吟味が必要です。

親子で感想を交流したり、保護者の考えを聞いたりすることは、道徳性の育成につながる家庭での道徳教育となります。

2 授業への参加を依頼する。

○ゲストティーチャー（以下GT）として参加

地域人材：郷土の伝統を守ろうと努力をしている地域人材
自然保護に取り組んでいる町役場の人
これからの町づくりのために活動している人

保護者：内容項目に関わる仕事や経験をもつ人
人々の生活を支えている医療現場で働いている人
震災を経験した立場としてその時の様子や感じたことを話すことができる人

○ロールプレイに参加

※令和2年度「道徳のとびら」参照

○心のものさしに保護者や地域の人も考えを示すなど学習活動に参加

1 単位時間の全てをGTに依頼するのではなく、内容項目について子どもが話し合う時間や話し合いを経て自己を見つめる時間をしっかりと確保することが重要です。

教材を通して、子どもが考えを広げ、自己を見つめるきっかけとなるような活用ができるようにしましょう。

3 道徳科の授業後に家庭で保護者と共に考える学習を設定する。

家庭学習として、教材やワークシートを持ち帰り、子どもが自分の考えを伝え、保護者の考えをインタビューする 等

4 道徳科の授業の様子や子どもの道徳性に関わる成長の様子やエピソード等を学校便り、ホームページで発信する。



保護者が考えを示す時には、価値観の異なる考えの一つとして多面的・多角的に考えるきっかけとなるようにコーディネートしていきましょう。

これらの家庭、保護者との連携を、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら進めることが大切です。道徳科は道徳教育の要の時間です。学校教育全体で行う道徳教育との関連を見極めて、自校の実態に合わせた連携を考えていきましょう。



1～4を全て実施することが必要なわけではなく、あくまでも各学校の実態に応じた連携の在り方を見いだしていくことが大切です。

校長先生から「道徳教育推進教師」に任命され、解説87～88頁を読みました。でも、何から手をつけたらよいか、よくわかりません。

学校の先生方みんなの力を借りて、わかりやすく推進することを心掛けてみませんか。一緒に考えてみましょう。



学習指導要領解説には、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実が明記されています。解説87～88頁で確認しましょう。

授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役になったり、情報提供をしたりして援助することや、道徳科に関する授業研修の実施、道徳科の授業公開や情報発信などを、道徳教育推進教師が中心となって協力して進めることが考えられる。

道徳教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育においても調整役などの役割を果たすことになるが、道徳科においてその充実を図る際も、校長は学校として道徳教育推進教師の位置付けを明確にし、適切な人材を充てるとともに、そのリーダーシップや連絡調整の下で全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。中でも、道徳科の指導力向上のために全ての教師が、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に1回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な取組も望まれる。そのために、例えば、道徳科の授業改善を推進するための推進委員会などの組織を設けることも大切である。

道徳教育推進教師はじめての一步

- 1 自校で「どのような子ども」を育てるのかを設定します。
 - 教育目標の具現化を図り、目指す子どもの姿を描きます。
 - 学校運営ビジョンを基に、道徳教育部会や管理職と相談しながらつくりま
- 2 重点内容項目を設定します。
 - 目指す子どもの姿から、道徳の19～22ある内容項目の中で、特に関わりのある内容をいくつか選びます。重点なので、できる限り絞り込むことがポイントです。
 - 家庭や地域の願いを基に設定することも大切です。
- 3 1、2について全教職員、家庭や地域と共通理解を図ります。
 - 選定した「重点内容項目」に関わる指導を、教育活動全体を通じてみんなで指導するという共通理解を図ります。
 - それぞれの学年や部会ごとに、どのような場面で「重点内容項目」に関わる指導ができそうかを考えます。
 - このための指導計画で、指導の内容と時期を具体的に示したものが、全体計画「別葉」になります。
 - 家庭や地域へも、共に取り組んでいくことを依頼します。
- 4 実践します。
 - 各教科等の授業の中で、あるいは、生徒指導等をとおして、子どもたちに指導していきます。



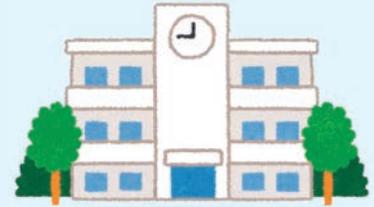
「目指す子どもの姿」を基に、重点内容項目を選定していくことが、はじめての一步なのです。みんなで推進していくために、重点内容項目に限定した「わかりやすく活用したくなる別葉」を作成してみたいと思います。

道徳教育推進教師としての様々な取組を紹介することも役割の一つです。まずは、できそうだと思うことから、一つ決めて取り組んでみましょう。



道徳教育推進アイデアノート

- 重点内容項目から教育活動を構想する
 - ・PDCAサイクルで振り返りましょう。
- 道徳教育に関わる情報提供
- 掲示物、教材コーナーの整備
 - ・場面絵のストック
 - ・板書写真の掲示 等
- ワークシート等のデータを共有フォルダに累積
- 道徳科の授業を開く（互見授業のコーディネート）
- 道徳便りの発行
 - ・道徳教育における情報の発信
 - ・求める子どもの姿
 - ・一人の人間として内容項目について考えたこと 等



道徳教育推進教師の先生の声



小学校

推進教師になった時は、これを機会に勉強してみようと思い、ワクワクしました。それでも、道徳科の授業には課題を感じていました。

そこで、始めに取りかかったのは、自分の悩みや課題について整理してみようということです。私は、「発問」「問い返し」に課題意識をもっていたので、本の情報や授業の考察を道徳便りで発信しました。自分の考えを整理する意味でもとてもよかったです。

また、目指したのは、年間35時間いつでも誰でもできる範囲の中で毎回の授業の質を上げていくことです。いかに短い時間で効率よく効果的な準備をできるかを考えました。毎回とはいきませんが、板書写真や子どものワークシートを職員室に掲示することで、授業について自然と職員間で語り合うようになりました。推進教師として取り組んだことで、子どもとつくる授業の大切さ、子どもの成長を実感することができました。



中学校

私は正直なところ、道徳科に苦手意識がありました。でも、若い先生方が進んで研究授業に取り組むので、一緒に授業づくりをしてきました。私が取り組んだことは、校内研究のコーディネートです。改まった研修の場ではなくベテランの先生も若い先生も、普段から相談できる体制があることも本校の研究を進める強みとなりました。ある先生は、何度も授業を繰り返すことで、板書がどんどん変化していきました。

推進教師として特別なことをしたわけではなく、聞き役になり授業改善を応援してきました。学校みんなで一丸となって取り組めたので、これからも校内で研究を深めていきたいです。



「みんなの力を借りて」という言葉が、心に響きました。焦らずに、取り組んでいきたいと思います。



道徳教育推進教師に関わる実践事例 ～令和5年度道徳教育推進校の取組～

【道徳のかけ橋第29号（令和6年7月発行）より抜粋】

『あなただからこそできる』道徳教育推進教師～自分の強みを生かす～

道徳教育推進教師とは？

道徳教育推進教師とは、一言で言うと「学校の道徳教育の中心的な役割を果たす教師」のことです。

道徳教育推進教師を中心に、自校の実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、実効性のある指導体制を構築し、全ての教師の協力の下、組織的に道徳教育を推進することが大切です。

こんな悩みや迷いはありませんか？



Q:そもそも、私にできるのでしょうか…
→「A-1」へ



Q:何から手をついたらよいか分かりません…
→「道徳の礎」p21へ



Q:どんな取組がありますか？
→「A-2」へ

A-1：あなたの「強み」を生かして、『あなただからこそ』の推進をしていきましょう

「任された役割をしっかりと行いたい」という道徳教育推進への思いを胸に秘めながらも、道徳教育推進教師の役割が広範囲で多岐にわたるため、「どうすればよいのか…」という悩みや迷いが生じている先生方は多いのではないのでしょうか。そこで提案です。あなたの得意なことや好きなことといった「自分の強み」を、道徳教育推進教師としての取組に生かしてみませんか。『あなただからこそ』できる道徳教育の推進へのきっかけを次の中から見つけてみましょう。

学習指導要領（第3章 第6節 1（1）道徳教育の指導体制）

- ・ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ・ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ・ 道徳教育における評価に関すること など

集める・記録する【コレクター】

必要な教材 場面絵、ワークシート等の収集や累積

伝える・広げる【スポークスマン】

理解と協力を得るための資料や広報誌の発行、説明

「自校ならではの」をつくる【デザイナー】

重点目標の設定、特色を生かした推進を構造的に描く

道すじを考え提案する【プランナー】

全体計画や年間指導計画の作成、授業研究会の企画

同僚と一緒に考える【アドバイザー】

道徳科の効果的な指導法や指導案の検討、アドバイス

推進の雰囲気をつくる【ムードメーカー】

学校全体に推進への意気込みや雰囲気を醸成する

改善の方向を示す【ナビゲーター】

目標に向かっていくか見届け、導き、評価して改善する



フォロアーのススメ ～推進は「独り」よりも「教職員みんな」で～

道徳教育推進教師が役割を全て独りで担うには限界があります。ぜひ、皆さんがそれぞれの立場から道徳教育推進教師をフォローして「チーム」で推進していきましょう。



A-2：令和5年度 道徳教育推進校は、こんな取組をしていました 詳細は「道徳の礎」を参照ください

令和5年度の道徳教育推進校では、様々な組織的取組が行われました。道徳教育の推進を主に担当している教師や校長先生がどのような取組をどんな思いで行っていたのかをご紹介します。



より一層推進するための、参考になる取組はあるかな？



「思いをつなぐ」「教師も自分事として」～道徳教育推進教師の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 道徳教育推進教師】

道徳教育推進教師として、年度初めは不安でいっぱいだったが、学校全体で道徳教育に取り組んでみて、その大切さ・奥深さを感じた。推進教師として二つの思いがあった。一つは、「みんなと授業を共有したい」ということ。授業の資料や道徳的価値について、みんなで考えて構想シートをつくったり、授業後の事後研究会で自由に話し合ったりすることを大切にしてきた。もう一つは、「子どもの実態を一番知る授業者の思いを大切にしたい」ということ。授業者の思いと先生方の考えをつなぐこと、経験年数に関係なく、授業について自由に語り合う場をつくることを意識して取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 道徳教育推進教師】

心がけたことは、組織的に道徳教育を推進することだ。そのために、先生方にどのように道徳教育に関わってもらおうかを意識してきた。道徳の授業はもちろん、ゲストティーチャーとしての役割を果たしたり、授業改善の視点を明確にして道徳の授業について話し合ったりすることができるようにした。一人一人が担任、担任外に関わらず自分事として道徳の授業について考えることができるようにしたいと考え、実践に取り組んだ。



「管理職も一緒に」「『やっぴら』と背中を押す」～校長の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 校長】

先生方に、学校全体で取り組む道徳教育であることを伝え、特別なことを始めるのではなく、今まで取り組んできたことを振り返り、道徳教育の視点から取組を価値付け、よりよい取組にしていく過程を紹介していこうと働きかけた。まず、管理職も一緒に、研究の取りかかりとなるように「先生方の道徳の授業を撮影し、アーカイブにしての互見授業を進める」推進教師とともに、より使いやすく、これからも使い続けられる別業の形式を提案する」「授業の構想シートづくりに管理職も参加する」ことを行った。さらに、学校の道徳教育を地域や保護者に知ってもらうために「参観日の全大会で保護者に道徳科の授業体験(校長が授業者)」「来校者に学校の道徳教育を知ってもらえるよう、校長室・職員室付近に道徳コーナー設置」「学校だけよりを通して学校で推進している道徳教育の様子の発信」に取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 校長】

心がけてきたことは、道徳教育推進教師をはじめとした先生方の主体性を大切にすることだ。教師が「やってみたい」と考え、提案してきたものを受け止め、県の施策や学習指導要領を踏まえた指導助言をしつつ、どのようにすれば提案した教師の思いが実現できるかを考えてきた。先生方が「できるかな」と感じている背中を「やっぴら」とポンと押してやり、その中で多くのことを学んでほしいと考えている。



「指導を振り返る」のススメ ～2学期を見据えた組織的取組～

目の前の子どもの姿について、全教職員が集まる会議等の際に、「育てたい子どもの姿」や重点内容項目に照らして、これまでの指導を振り返ってみましょう。

その上で、別業を活用して「いつ(授業や行動等)」「どのような」指導をすれば、子ども一人一人の道徳性を養うことにつながるかをみんなで考えてみましょう。

参考になる取組が満載！



道徳の礎

(令和5年度版)

道徳教育に関わる「校内研修」実践事例 ～令和7年度道徳教育推進校の取組～

【道徳のかけ橋第31号（令和7年11月発行）より抜粋】

「校内研修は何をしたらいいの…」 「そんな時間は正直ない…」、でも分からないこともある…」からはじめる

道徳だからこそできる校内研修のススメ

チームで指導力を高める「自分の学校ならではの」機会をつくる

「学校の全ての教職員」が参画できる

道徳教育の要である道徳科の指導は「学級担任の教師が行うことが原則」ですが、管理職や他の教職員が関わり合う指導体制が欠かせません。
教科の分け隔てなく、全教職員が参画できる「道徳だからこそできる」よさがあります。

みんなで話す話題をつくる

「職員室での雑談」「日々の授業参観」も研修のチャンス

教育課題が山積み、簡単に増やせない校内研修。でも、日々悩みはつきません…。 「時間を設定」しないと研修はできないのでしょうか？ 日常に目を向けると、同僚との雑談にはぎゅっばらんに話せるよさ、隣の学級の授業や板書を見て学べるよさ等があります。

「『自分の学校ならではの』機会」と「話題」を考える



短い時間

できることを考える
集中力も高まる



集まる場所

職員会議や学年打合せ等の
すきま時間で「少し」雑談



時期を捉える

通知表所見を書く前等の
「迷い」が生じる時もチャンス



声を集める

先生方の生の声を得た方が、
必要感と実効性が高まる



(どのように)

(なぜするのか?)

「だったら、こんな指導ができるのでは…」と

Know-How だけではなく、Know-Why を学ぶと『様々な工夫』が生まれる



でも、話題を一から考えるのは大変です…



福島県教育庁義務教育課 HP

話題を
探しに

「福島県版『道徳教育アーカイブ』」「道徳の礎」をのぞいてみよう



福島県版
「道徳教育アーカイブ」
(福島県教育庁義務教育課)



道徳の礎



「道徳の礎」には、『疑問や迷いから逆引きできるページ』『道徳科研修動画』を追加した他、学習指導案も掲載されています。



例えば、研修動画を教職員で視聴する研修はどうでしょう。「動画の授業者の指導のよさを見つける」という視点を設定して視聴し、感想を交流すれば、先生方の着目点の違いから、多様な指導方法の工夫を学ぶことができます。

実践事例から、校内研修の『機会』『話題』を**考えるタネ**を見つけよう

令和7年度道徳教育推進校でも、校内研修を工夫して実施しています。

伊達市立伊達小学校



キーワード

“短い時間で”教材研究

研修時間

研修の目的

児童の実態に応じて授業を構想する

10分

方針・思い

校長「道徳科の授業づくりについて、みんなで検討し、日々の授業力向上につなげたい」
推進教師「事後研究会を、全ての先生方が自分の授業づくりについて考える場にしたい」

研修の流れ

「自学級で」同じ教材、同じ内容項目で授業を行う場合、どのようなねらい、中心発問にするのかを考え交流する。

様子や声

「同じ内容項目で自分が授業を行うときに、どんな発問をするとういのか考えやすくなった」

郡山市立大槻中学校



キーワード

“意識して道徳の話”をする

研修時間

研修の目的

道徳の授業づくりについて考える

5～50分

方針・思い

校長「先生方の強みを生かした道徳の授業づくりをしてほしい」
推進教師「先生方が行っている生徒の心を育てるための工夫を共有したい」

研修の流れ

示範授業やローテーション道徳の予定を週報で共有。授業の前後で授業について授業者や先生方と「ちょっとした会話」を交わす。

様子や声

「校長先生にアイデアや助言をいただけるのはありがたい」
「ちょっとした会話から授業づくりについての気付きがある」

矢吹町立三神小学校



キーワード

“短時間で” “どんなことでも”

研修時間

研修の目的

道徳科の授業作りや指導法について話して共に考える

10分

方針・思い

校長「チーム三神」の良さを生かし、指導力向上を図りたい」
推進教師「気軽に悩みを話せる場で、悩みを共有したい」

研修の流れ

道徳科の授業での素朴な疑問や悩みを共有する。
道徳科の授業を振り返ることで成果と改善ポイントを共有する。

様子や声

「先生方と話しているうちに、解決できることが多かった」
「自分でも実践してみようと思った」

喜多方市立塩川中学校



キーワード

“全教員で考える”道徳科の授業法

研修時間

研修の目的

自己を見つめ、深い学びを実現させるための道徳教育について考える。

30分

方針・思い

校長「相手の話をよく聴き自分の考えを深め、他者との関わりを深めるようにしたい」
推進教師「互いに認め合える関係性を構築したい」

研修の流れ

研究授業を全教員で参観し、自己を見つめるための工夫、他者の考えに触れさせる活動の工夫、考えを深めるための発問の工夫について、検討・協議する。

様子や声

「道徳の授業での校内研究はありがたい」「ローテーション道徳なので、みんなで授業参観・事後研究できるのは研修になる」

福島県立相馬総合高等学校



キーワード

“他校種”の道徳の授業づくりに学ぶ

研修時間

研修の目的

系統性を意識して道徳性を育むことができるようにする

60分

方針・思い

「教科指導や日々の教育活動の中で、子どもの道徳性の高まりをどのように見取り、価値付けるか、共通理解を図りたい」

研修の流れ

小・中学校の「特別の教科道徳」を模擬授業で体験し、日々の教科指導に生かせる働きかけについて、考えを交流する。

様子や声

「小・中学校の道徳の授業を体験できて、指導の具体がイメージできた」「日々の教科指導にも意識して取り入れていきたい」



小さな一歩でも、子どもと教師の笑顔につながる「着実な歩み」

【実践編】

令和7年度道徳教育推進校報告



県北地区道徳教育推進校「伊達市立伊達小学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	伊達市立伊達小学校		
所在地	伊達市館ノ内20番地		
校長名	伊藤 栄		
教育目標	心豊かに たくましく 生き生きと学ぶ 若あゆの子		
学級及び児童 生徒数	学 級 数	2 3	
	児 童 数	5 6 1 名	

2 研究テーマ

主体的に学びに向かい、自己を見つめることのできる児童の育成
～互いのよさを認め合いながら、多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は、伊達市の中心部に位置する児童561名の大規模校である。今年度の学校経営の重点目標として、「自己マネジメント力を高め、自らの人生を切り拓く力の育成」(自立と感謝)を掲げ、3つの努力目標を設定し、日々の教育活動に取り組んでいる。

なかでも「自他のよさを認め合い、つながり合う子どもの育成」の実現に向けては、児童同士、児童と教師の関係が希薄になっている現状を踏まえて、今年度から毎週水曜日に「ふれあいタイム」を位置付け、学級ごとに全員で楽しむことができる活動を計画し、児童が主体的につながり合う場を設定している。

道徳科の授業においては、児童が他者とつながり、多様な感じ方や考え方に触れることを通してお互いのことを理解し、自分自身の考えを広げたり深めたりすることができる授業や、考えたことをもとに自己を見つめるための時間を確保した授業を積み重ねることで、他者と関わることのよさを感じ、他者と共によりよく生きようとする児童を育成したいと考え、本テーマを設定した。

4 研究計画

月日(曜日)	主な研究内容
4月 9日(水)	全体協議会
5月 28日(水)	全体協議会
6月 30日(月)	第1回校内授業研究会 6年3組 秋葉 征典 教諭 講 師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様 指導助言 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花 洋介
7月 16日(水)	第2回校内授業研究会 3年3組 阿部 淳子 教諭 指導助言 伊達市教育委員会 主幹兼指導主事 上遠野 直人 様
8月 9日(土)	道徳授業パワーアップセミナー 東京学芸大学参加(2名)
9月 2日(火)	第3回校内授業研究会 1年1組 富田 彩 教諭 講 師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様
10月 7日(火)	第4回校内授業研究会 4年1組 寺田 英司 教諭 指導助言 伊達市教育委員会 主幹兼指導主事 上遠野 直人 様
10月 21日(火)	道徳教育地区別推進協議会(県南)参加(2名)
11月 10日(月)	第5回校内授業研究会 5年3組 門馬 経宏 教諭 指導助言 福島県教育庁県北教育事務所 指導主事 甚野 美穂子
11月 28日(金)	道徳教育地区別推進協議会 6学級授業公開 講 師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様 指導助言 伊達市立月館学園小学校 教 頭 武澤 ひろみ 様 伊達市教育委員会 主幹兼指導主事 上遠野 直人 様 福島県教育庁県北教育事務所 指導主事 落合 和将 福島県教育庁県北教育事務所 指導主事 甚野 美穂子 福島県教育庁県北教育事務所 社会教育主幹指導主事 伊藤 絵美 福島県教育センター 指導主事 猪俣 和弘

5 研究推進にあたって

【視点1】 道徳教育の組織的取組について

- ① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用
〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉
 - 教育活動全般で道徳教育を意識できるように、学校教育目標との関連を図り、道徳教育全体計画を作成する。また、重点内容項目を一つにしぼり、各教科等や家庭・地域とのつながり・行事等との関わりを意識することができる別葉を作成する。〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉
 - 実施状況の振り返りを別葉に記入することで、重点的で系統的な指導ができるようにする。
- ② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
 - 現職教育の研究教科に道徳科を位置付け、研修主任と道徳教育推進教師が連携して授業研究会を実施することで、授業改善と教師の授業力向上に取り組む。
 - 校外で行われる研修会に道徳教育推進教師が参加し、全職員で情報を共有する。
- ③ 「ふれあいタイム」の充実
 - 毎週水曜日に各学級の時間として「ふれあいタイム」を位置付け、学級の児童同士がつながり、お互いのよさを認め合うことができるような活動を意図的、計画的に実施する。

【視点2】 自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

- ① 主題の重視と中心発問の吟味
 - 主題を重視することで指導の意図を明確にし、授業の焦点化を図り、道徳的価値について多様な感じ方や考え方を引き出すことができるような発問を吟味するとともに、児童一人一人が自分自身を振り返るための時間を確保する。
- ② 教師のコーディネート工夫
 - 道徳的価値について多面的・多角的に考える場において、教師が揺さぶりや問い返しを行い、児童の表情を見て考えをつなぐことを意識することで、児童一人一人の考えを広げたり深めたりできるようにする。
- ③ 自己を見つめることができる発問の工夫
 - 児童が自己を振り返る場において、「今までの自分」「今の自分」「これからの自分」を見つめられるような発問をすることで、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。

【視点3】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① 評価の視点と方法、どのように記述するかについて、全職員で共通理解を図る。
- ② 道徳ノートやワークシートを累積し、年間を通して児童一人一人の学習状況や成長の様子を捉える。

【視点4】 「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

- ① 道徳科の年間指導計画の中に「ふくしま道徳教育資料集」の活用を位置付け、積極的に活用する。
- ② 防災教育や放射線教育など各教育活動や震災関連施設への見学学習と関連させながら活用する。

【視点5】 家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① スクールコミュニティを生かして育成したい児童の姿を地域の方と共有し、地域の人材をゲストティーチャーとして活用するなどして、地域と連携した道徳教育を推進する。
- ② 保護者参加型の道徳科の授業を授業参観日に実施し、道徳的価値について児童と保護者が一緒に考える機会を設定することで、学校で推進する道徳教育について保護者の理解を深め、児童の道徳性を家庭と連携して育むことができるようにする。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

学校で行っている道徳教育について家庭や地域と共有することで、三者が同じ方向を向いて児童に関わることができるようにするとともに、道徳科の授業で考えたことを家庭や地域での実践につなげることができるようにする。

【概要】

- ・ スクールコミュニティの機能を生かし、地域の学習ボランティアの方々と学校がつながることで、道徳教育について知っていただく機会とした。
- ・ 授業参観で道徳科の授業を参観していただいたり、保護者からの手紙という形で道徳科の授業に参加していただいたりすることで、家庭と連携して道徳科の学習を推進することができるようにした。
- ・ 学校ホームページで道徳科の授業の様子を発信した。



〈ボランティアによる町探検引率〉

【成果と課題】

- スクールコミュニティのコーディネーターと連携し、地域ボランティアを発掘し、地域の方とのつながりを築くことができた。今年度は町探検の引率等にご協力をいただいたので、今後は更に連携を深め、道徳性に関わる児童のよさを見取り、価値付けながら、地域全体で児童を育てられるようにしていきたい。
- 保護者に手紙を書いていただくことは、家庭と連携して児童に道徳性を育む上で大変有効であった。何度も繰り返して読む児童や読みながら涙する児童も見られた。このような児童の姿を家庭と共有することで、更なる連携につながっていくと思われる。
- 道徳科の授業を参観していただいたり、一緒に参加していただいたりすることで、家庭でも道徳教育についての話題が増えていくと考える。本校では行事の見直しを行い授業参観の回数を減らしたため、年間の授業参観予定の中に計画的に道徳科の授業を位置付ける等の改善策を講じて、道徳科の授業の様子を家庭に伝えられるようにしたい。
- 学校ホームページで発信する内容について検討する必要がある。家庭と連携して児童の道徳性を育むためには、児童の学ぶ姿を発信するだけでなく、授業のねらいや児童の反応などを伝えることも必要である。



〈保護者からの手紙を真剣に読む姿〉

7 成果と課題

- 現職教育の研究教科に道徳科を位置付けたことで、全職員が同一歩調で道徳科の研究に取り組むことができた。互いの授業を見合ったり、講師や指導助言者の方々からいただいたご指導を共有したりすることを通して、道徳科の授業の作り方や進め方への理解が深まった。
- 主題名を意識して授業を構想することで、導入から振り返りまで授業のねらいがぶれることなく一貫した指導を行うことができるようになった。
- 自分の考えをハートメーターや心情スケールを用いて可視化できるようにしたことで、児童同士が互いの考えを比較しながら物事を多面的・多角的に考えることにつながった。また、教師が意図的指名をしやすくなり、話し合いをコーディネートすることにも有用な手立てであった。
- ノートやワークシート等の累積した学習記録をどのように活用していくかについてや、どのように評価に生かしていくかについては更なる研究が必要である。
- 地域の方をゲストティーチャーに迎えて効果的な活用を図るためには、スクールコミュニティとの連携を強化したり、教師が積極的に地域と関わって情報収集したりするなど、人材発掘に努めていく必要がある。



〈心情スケールで考えを可視化〉

令和7年度 道徳教育全体計画

伊達市立伊達小学校

児童の実態

- 素直で、友達と協力しながら学習や運動に一生懸命に取り組む児童が多い。
- 話を聞いたり、自分でよく考えて正しく行動したりすることができない児童が多い。
- 思いやりのある言動をしようとする意識が低い。

教師の願い

- ・ 正しく判断し、よいと思うことを進んで行う姿を児童に期待している。
- ・ 相手の気持ちを考え行動できる、思いやりの心を育みたい。
- ・ 違いを受け入れ、認め合う集団にしたい。

特別活動

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、必要な資質・能力を育成する。

学級活動(1)

よりよい学級・学校での生活を求めた学級会や実践的な活動を通して、互いの考えを生かし、よりよく合意形成を図る態度を育てる。
自己のよさを生かした係活動を展開する中で、互いに協力し、よりよく生活しようとする態度を育てる。

学級活動(2)(3)

生活の中や自己の目標から課題を見つけ、取り組みについて意思決定し実践する活動を繰り返す中で、自己指導能力を育成するとともに、正しい業と判断したことを進んで行う態度を育てる。

児童会活動

異年齢による自主的・実践的な活動を行う中で、お互いの考えを生かして、よりよい学校生活をつくるため、合意形成し実践する態度を養う。

クラブ活動

共通の興味・関心を有する異学年児童による自主的・実践的な活動を行う中で、お互いのよさや考えの違いを理解し合い、協力してよりよい活動をつくらうとする態度を養う。

学校行事

よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感を深めるとともに、一人一人のよさを生かして、よりよい生活を築こうとする態度を育てる。

現職教育・学力向上との関連

- ・ 自分の考えをもち、多様な感じ方や考え方の他者とかかわり、交流・共有を図りながら、自分とは異なる考えのよさを認め、自分の考えや理解を深める授業を充実する。
- ・ 自分の学びを価値付け、新たな課題に向かうこと、多様な考えをもとに理解を再構築することを目的に、まとめ振り返りを充実し、言葉を用いて正しく伝えることができるよう指導を工夫する。

学校教育目標

心豊かに たくましく 生き生きと学ぶ 若あゆの子

- 自ら考え 学びとる子ども
- 思いやりがあり 共に生きる子ども
- 健康で たくましい体をもつ子ども

重点目標

自己マネジメント力を高め、自らの人生を切り拓く力の育成

- 自分を知り、自ら学び、共に高め合う子どもの育成
- 自他のよさを認め合い、つながり合う子どもの育成
- 自分を見つめ、健康の増進と体力の向上に努める子どもの育成

道徳教育の目標

自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

道徳科の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自分を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本年度の重点目標

「自分を見つめ、他者を理解し、よりよい生活を求めることができる子どもの育成」

- ・ 相手意識をもち、相手に対する思いやりの心をもち、親切にすることができる。
- ・ よりよい学級や学校をつくるために、人間関係づくりに大切なことを考え、集団生活の充実に努める。

各学年の重点目標

学年	指導の重点	重点内容項目
低学年	◎ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 ○ 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。 ○ よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。	親切、思いやり
中学年	◎ 相手のことを思いやり進んで親切にすること。 ○ 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。 ○ 正しいと判断したことは自信をもって行うこと。	規則の尊重
高学年	◎ 誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。 ○ 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと。 ○ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。	善悪の判断、自律、自由と責任 友情、信頼

道徳科の指導方針

- 各教科や児童の体験活動との関連を図りながら、年間計画に基づき、計画的・発展的な指導によって道徳的価値の補充・深化・統合を図る。
- 一人一人の児童が道徳的価値の自覚を深め、道徳的判断・心情に関する学びを通して、態度や意欲の向上を図る。
そのために、以下の指導上の姿勢を大切にす。
・ 一人一人の感じ方を共感的に受け止める指導
・ 価値に対する、多面的・多角的な思考を促す発問の工夫
・ 自己の道徳的価値観を見つめたり、多様な感じ方や考え方に触れたりしながら考えを深めたりする学習過程
・ 一人一人の道徳性に係る成長の様子や学習状況を評価し、指導の改善を図る

道徳的価値の自覚、補充・深化・統合、自己の生き方

家庭・地域との連携、他の学校や関連機関

- ・ 家庭と協力して基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ・ 地域の自然・文化・人との交流学習を通して、郷土を愛する心を育て、好ましい人間関係を形成する。
- ・ 授業参観等で道徳科の授業を公開したり、保護者参加型の授業を行ったりすることで、家庭や地域と連携して道徳性を養う機会を増やすとともに、児童の成長が認められるよう働きかける。

教育関係法規

日本国憲法、教育基本法、学校教育法
学習指導要領、教育委員会の教育目標
いじめ防止対策推進法

現代社会の要請

基本的な生活習慣の確立、学力向上、個性の伸長
規範意識の醸成、豊かな人間関係の形成
情報モラルの醸成、いじめの未然防止

各教科における道徳教育

国語

人と人との関係の中で、言葉を用いて伝え合う力を高めるとともに、他人を思いやる心情を育てる。

社会

先人の地域に対する功績や工夫への理解を通して、自分たちの生活を支える役割に気付く集団をよりよくしようとする心情を育てる。

算数

互いの考えのよさを認め合いながら、よりよい考えを生み出す活動を通して互いを尊重し合う態度を育てる。

理科

飼育や栽培などの体験活動を通して、生命を尊重する態度を育てる。

生活

自然体験や生活体験を通して自立への基礎を養うとともに、自他のよさに気付く心情を育てる。

音楽

音楽の美しさ、楽しさを感じ取る心を養い、豊かな情操を培う中で、互いの感じ方の違いに気付く、生かそうとする態度を育てる。

図画工作

多様な表現や鑑賞活動を通して、自分のよさに気付くとともに、互いの感じ方や発想のよさを尊重しようとする態度を育てる。

家庭

家族の一員としての自覚をもち、協力しながら、よりよい生活を築こうとする実践的な態度を育てる。

体育

健康安全について理解し、様々な運動に親しむ中で、互いに協力し、よさを生かそうとする態度を育てる。

総合的な学習の時間

問題解決的な学習や探究活動を行う中で、地域とのつながりを意識するとともに、社会の新しい課題に気付く、自己の生き方について考える中で、よりよく生きようとする態度を育てる。

学級・学校の人間関係形成や学級経営、生活指導、生活全般における指導方針

- ・ Q-Uテストや各種アンケートを活用し、一人一人が受容され、自己有用感を感じる学級経営に努める。
- ・ 児童にめあてをもって取り組ませる活動を充実し、達成感を味わわせ、価値付け自己肯定感を高める指導を充実させる。
- ・ 相手の立場を思いやる心を育て、望ましい人間関係を育てる。
- ・ 基本的な生活習慣を確実に身につけさせる。
- ・ 自ら課題を見つけ、自主的な学習態度を養う。

第2学年 B 親切、思いやり

身近にいる人に温かい心で接し、親切にする姿

教科等

道徳科

家庭・地域とのつながり・行事等

4月 生活科
「1年生と学校たんけん」

4月 通学班会

4月 主題名「やさしい ころの あたたかさ」
教材名「くまくんのたからもの」
[ねらい]
心が通い合うことの心地よさを感じ、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育てる。
[振り返り]

5月 学活
「友達のよさをみつけよう」

9月 国語科
「どうぶつ園のじゅうい」

5月 1年生を迎える会

9月 遠足

10月 学活
「もっと仲よし集会をしよう」

10月 運動会

11月 主題名「あたたかい ころで」 教材名「学びゆうえんの さつまいも」
[ねらい]
親切にすることの大切さが分かり、身近にいる人に温かい心で接し、進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。
[振り返り]

1月 主題名「あたたかい ころで」 教材名「ぐみの木と 小とり」
[ねらい]
相手のことを考えて行動することの難しさおよびよさが分かり、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育てる。
[振り返り]

2月 学活
「お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝えよう」

2月 6年生を送る会

2月 生活科
「『おもちゃ祭り』をしよう」

2月 生活科(学習発表)
「ありがとうの気持ちをつたえよう」

2月 国語科
「スーホの白い馬」

3月 通学班会

[全体の振り返り]

ふれあいタイム

異学年交流(登校班・わかあゆファミリー・一斉清掃)

2

すすめる

【資料】

〈今年度の主な取組〉

【道徳教育の組織的取組について】・・・「他者理解に向けた取組」

今年度の学校全体の取組として、学期ごとに「他者とつながり、他者を理解し、深めていく」ためのテーマを設け、道徳教育との関連を図った。

この場合の「他者」は、友達にとどまらず、保護者や地域の方々も含んだ上で「他者理解」と考えた。道徳科だけでなく教育活動全体を通して「他者理解」を行うことで、相手を思いやる心を育んできた。

学期ごとのテーマ

- 1 学期…「つながり」
- 2 学期…「協力」
- 3 学期…「深める・感謝」

何をした？

児童同士、児童と担任、児童と保護者、保護者と担任のつながりを深めるために、「学級ふれあいタイム」を設定した。遊びを通して他者理解できるようにした。



「学級ふれあいタイム」

【自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫】

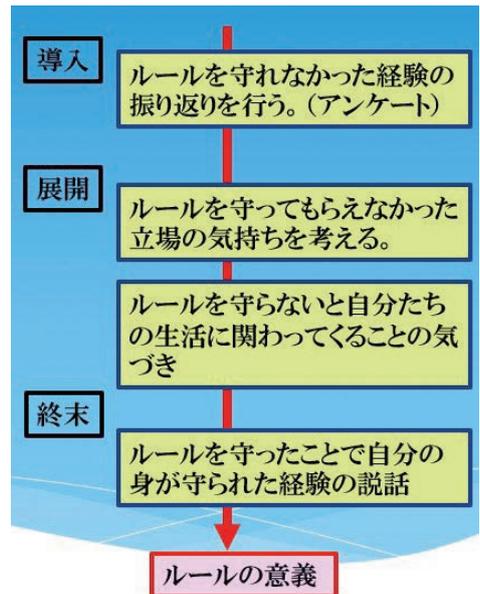
・・・「主題を重視し、一貫性をもたせた授業の取組」

「主題名」は、「本時のねらいと教材で構成した主題を、授業の内容が概観できるように端的に表したものであることから、「主題名」を十分吟味することで、授業の焦点化を図り、一貫性をもたせた授業が展開できるようにして、自己を見つめ、深い学びを実現する授業を目指した。

改善前：「社会のきまり」
改善後：「**社会のきまりの意義**」

主題名を吟味した例

主題を重視し、指導の意図を明確にすることで、一貫した授業をすることができた。



【家庭・地域との連携を生かした取組について】

・・・「スクールコミュニティを生かした地域人材発掘の取組」

今年度は、スクールコミュニティのコーディネーターと連携して、地域の人材発掘を行った。そして、多くの学年で、学習活動に地域ボランティアとして協力してもらえる体制を構築することができた。

今後は、この体制を生かし、家庭、地域と育成したい児童の姿を共有し、地域と連携した道徳教育を推進していく。

町探検などに地域のボランティアの方が協力してくださった。そのつながりを道徳教育に生かしていく。



県中地区道徳教育推進校「郡山市立大槻中学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	福島県郡山市立大槻中学校
所在地	郡山市大槻町字西ノ宮4-1
校長名	積田 育子
教育目標	明るく ねばり強く 深く考える
学級及び 児童生徒数	学 級 数 17 児童(生徒)数 374名

2 研究テーマ

日常にちりばめる道徳教育の推進

～自他との対話を通して自分を明らかにしていく生徒を支え導く～

3 研究テーマ設定の理由

本校は、郡山市街の西部に広がるかつての大槻原を主な学区として、昭和22年に開校した学校創立78周年を迎える歴史と伝統のある学校である。

学校教育目標の「明るく ねばり強く 深く考える」は開校以来変わることなく受け継がれており、この目標の達成に向け、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の三つの資質を育成することを念頭に、目指す生徒像として「明るい生徒」「ねばり強い生徒」「深く考える生徒」というキーワードを掲げて教職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んでいる。

生徒は、素直で友達の話や発表をよく聞き、友達の考えに共感して前向きに取り組んでいる。地元出身の保護者が多く3世代同居の家庭も少なくないため、幼少から地域愛が育まれている。

情報が錯綜し、めまぐるしく変化する時代を生き抜くためには、出来事に関心を持ち、考えることを習慣化するとともに、一人の考えには限界や偏りがあることを知り、他との交流で学びを深めようとする必要があると考える。道徳科の授業を要とする対話から、自分を明らかにしていく生徒を支え導く教育活動を展開していく。

4 研究計画

月日(曜日)	主な研究内容
5月14日(水)	研究テーマ、研究内容等の検討
5月28日(水)	道徳科校内授業研究会(第3学年 積田育子 校長)
7月4日(金)	先進校視察:岩手県盛岡市立上田中学校(2名)
7月11日(金)	第1回校内道徳教育研修会 講 師 日本大学工学部 教授 渡邊真魚 様
8月29日(金)	第2回校内道徳教育研修会 講 師 愛知県弥富市立十四山東部小学校 教諭 鈴木賢一 様
10月6日(月)	第3回校内道徳教育研修会(全日訪問) 指導助言 郡山市教育委員会 指導主事 佐藤真一 様 郡山市立安積第二中学校 教 諭 星 紀子 様
11月10日(月)	第4回校内道徳教育研修会 指導助言 福島県教育庁県中教育事務所 指導主事 藤井千絵
11月18日(火)	道徳教育地区別推進協議会(県中地区)3学級授業公開 講 師 日本大学工学部 教授 渡邊真魚 様 指導助言 福島県教育庁県中教育事務所 指導主事 藤井千絵 福島県教育庁県中教育事務所 指導主事 渡邊卓也 郡山市教育委員会 指導主事 伊藤 慧 様
11月28日(金)	研究のまとめ

5 研究推進にあたって

<p>【視点1】 道徳教育の組織的取組について</p> <p>① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用 〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉 ○学校教育目標をうけ、目指す生徒像を「明るい生徒：楽しく前向きに物事を捉える生徒」「ねばり強い生徒：良好な人間関係の構築に努力する生徒」「深く考える生徒：相手の立場で物事を考える生徒、感謝、敬意を表出できる生徒」と示している。 ○「道徳科の授業づくり」「教育活動全般においての目標」「評価計画」等を明記する。 〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉 ○別葉は、重点目標を朱筆する。 ○(特に1年生では)使用教科書の変更に伴う新たな教材との出会いをチャンスとして捉え、使用しながら朱書きで加除訂正し、学年で情報共有する。 ○9月、11月はローテーション道徳実施のため、教材を一枠にまとめて表記する。</p> <p>② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組 ○各学年の道徳部員と協働して、ローテーション道徳を軌道に乗せる。テーマは、「強みを生かすローテーション道徳」とする。 ○校外研修で得られた情報を全職員で共有して授業の改善や指導力の向上に生かす。</p> <p>③ 組織的取組の具体策 ○先生方の「強みを生かすローテーション道徳」を実施する。 ○道徳的行為が可視化できる「道徳の根っこ」を掲示し、校内外の“いいところ”を貼りためる。</p>
<p>【視点2】 自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫</p> <p>① 「生徒の自我関与を促し、生徒が自分事として学びに向かう工夫」として、ワークシートに記入したり、思考ツールを操作したりする時間を十分に確保する。</p> <p>② 授業の終末の振り返りで、「テーマについて、今日の授業を通して、誰のどんな発言のおかげで、どのようなことを学べたのか」と問い、自身の学びをワークシートに記入することを、毎時間積み重ねる。</p>
<p>【視点3】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価について</p> <p>① 生徒が自分事として考え、さらに仲間の考えを知ること、生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているかを見取る。 ア 複数の道徳的価値の対立場面について自分事として捉え判断させる。(思考ツール、心情メーター等の活用) イ アの判断を基に「違う意見を聴く」対話活動を行う。</p> <p>② 道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかを見取る。 ア 自我関与の時間を十分に確保する。 イ 振り返りとして、ワークシートへの記載を促す。</p>
<p>【視点4】 「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について</p> <p>① 東日本大震災との関連を図る。 ○3月11日頃に「東日本大震災を語り継ぐ日」として全校道徳(集会)を行う。そして、3月の第2週に「ふくしま道徳資料集」の資料による道徳科の授業を行い、「震災」への思いを将来に継承する機会とする。</p>
<p>【視点5】 家庭・地域との連携を生かした取組について</p> <p>① 授業参観時の授業公開を行う。 ② 地域の支えを、職場体験活動を通じて理解し、協働の姿勢を育む。 ③ ローテーション道徳の様子や振り返りからの抜粋を「学年だより」に掲載する。 ④ 「学校だより」に「大槻中の宝はやっぱり生徒」のコーナーを設け、素敵なエピソードを発信する。 ⑤ 学校運営協議会で、大槻中学校・大槻小学校での道徳教育の取組を伝え、地域の方々への支えに対する感謝を伝える機会とする。</p>

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

学校で推進している道德教育の取組を家庭や地域に広く理解していただき、協力と支援を深める。さらに、生徒には家庭や地域に支えられていることを実感させ、社会の一員としての自覚を育みながら道德性の向上を図る。

【概要】

- ・ 授業参観時に道德科の授業公開を行った。
- ・ 職場体験の活動場所の多くを地元または保護者の勤務先に設定した。
- ・ ローテーション道德の様子や「道德の根っこ」からの抜粋を「学年だより」や「学校だより」に掲載した。
- ・ 学校運営協議会で大槻中学校・大槻小学校での道德教育の取組を伝えた。

【成果と課題】

- 職場体験学習を通して、生徒は地元の支えを実感し、協働の意識が育まれた。
- 「学年だより」「学校だより」への掲載や学校運営協議会での話題提供により、保護者や地域の方に「温かな心を育む学校」という姿勢への理解が深まった。
- 「道德の根っこ いいねでいい根」の掲示により、生徒相互の関心が深まり、些細な“いいね”の気付きが増えた。文化祭で来場者に協力いただいたことで、活動への理解が深まり、生徒の笑顔が増えた。
- 学校運営協議会での「元気な挨拶や将来の地域を支える若者に力をもらっている」という委員の発言を生徒に伝えたことで、生徒は、地域に見守られていることを実感し、地域のために自分ができることをしようという思いが強まった。
- 次年度は、地域行事との連携やオンライン発信なども取り入れ、家庭・地域と一体となった道德教育を推進していきたい。



〈道德の根っこ〉



〈ローテーション道德を
学年だよりに掲載〉



〈職場体験学習〉

7 成果と課題

〈教員の学び〉

- 第1回研修で「強みを生かすローテーション道德」を具体的に理解し、自らの強みを認識できた。
- 重点目標を踏まえたローテーション道德計画表を作成した。「できることに無理をせず取り組む」姿勢が定着し、実践の深化につながった。
- 第2回研修で「教材のどこに着目し、子どもに何を考えさせるか」をテーマとしたプレ授業・示範授業を通して、授業のテーマやキーワードをイメージしながらの授業構想の工夫や対話を生み出す時間設定について深い学びを得た。また、教材研究の視点が広がり、子どもとの主体的な関わりを促す手立てを確認できた。

〈生徒の変化〉

- ローテーション道德の繰り返しの実践によって授業者が的確な指示と言葉選びを意識したことで、「思考の変化」「発語の変化」が見られた。
- 振り返りの型を示し、十分な記入時間を確保したことで、生徒が自分と向き合い、多面的・多角的な考えに発展させ、生き方を深める一助となった。
- 「道德の根っこ」が楽しみ・励みとなり、日常にちりばめられた道德への気付きが増えた。誰かからの「ありがとう」を他の誰かに返そうとする「恩送り」の効果も見え始めている。

〈学校文化への影響〉

- 道德的行為の可視化によって、生徒相互の関心が高まり、学校全体で温かな雰囲気醸成されている。
- 研修や実践を通じて、教員間で「強みを生かす」「教材研究を深める」といった共通理解が広がり、道德教育の推進校としての文化が形成されつつある。
- 今後は、ローテーション道德の評価方法を職員間で共有する研修を行うことで、学校全体の教育文化をさらに豊かにしたい。

道徳教育全体計画

郡山市立大槻中学校

日本国憲法 教育基本法
学校教育法 教育関係法規
学習指導要領
いじめ防止対策推進法
郡山市いじめ防止基本方針

本校の教育目標 明るく ねばり強く 深く考える

《目指す生徒の姿》

明るい生徒	ねばり強い生徒	深く考える生徒
○楽しく前向きに物事を捉える生徒	○良好な人間関係の構築に努力する生徒	○相手の立場で物事を考える生徒 ○感謝、敬意を表出できる生徒



道徳科の授業づくり

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深められるよう、次のことを大切にする。

- ① 目の前の生徒の実態に合わせた授業構想・・・ねらい（テーマ）の熟考
- ② 自我関与を促し、生徒が自分事として学びに向かう工夫
- ③ 多様な思いを生み、考えを深めるための対話のさせかたの工夫
- ④ 学びの自覚化を生む十分な振り返り（記載）の時間の提供

道徳教育の重点目標

A 希望と勇気、克己と強い意志

基本的な生活習慣を身につけ、より高い目標に向かって努力する生徒を育てる。

B 思いやり、感謝

教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めながら、まわりの人々に対して感謝と思いやりの心を持って接することのできる生徒を育てる。

D 生命の尊さ

生命の尊さを理解し、美しいものに素直に感動する心豊かな生徒を育てる。

C よりよい学校生活、集団生活の充実

集団の意義についての理解を深め、自己の役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める生徒を育てる。

C 公正、公平、社会正義

いじめについて自分自身のこととして捉え、いじめを許さない気持ちを持って行動することのできる生徒を育てる。

+

各学年の指導の重点

第一学年	第二学年	第三学年
A 自主、自律、自由と責任 望ましい生活習慣を身につけることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す態度を育てる。	B 相互理解、寛容 相手の立場に立ってお互いのよさを認め、励まし合い高め合おうとする態度を育てる。	C 社会参画、公共の精神 人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深めようとする心情を育てる。

生徒指導

自分を大切にする力

- ・自己理解を深め、自己肯定感を育てる
- ・健康や生命を尊重し、主体的に生活する

他者を思いやる力

- ・相手の立場や気持ちを尊重し、協力する
- ・いじめや差別を許さず、互いに尊重し合う

社会の一員としての責任

- ・ルールやきまりを守って行動する
- ・地域に貢献する

正しく判断し行動する力

- ・考えなくても正しい判断のもとに行動する
- ・自律的に考え、実践する姿勢を身につける

特別活動

〈学級活動〉

学級の一員として互いを尊重し、協力してよりよい集団を築く態度を育てる

〈生徒会活動〉

自治的活動を通じて公共心を養い、学校全体のために責任ある行動を取る姿勢を培う

〈学校行事〉

行事への参加を通じて協調性や連帯感を深め、思い出を共有する喜びを大切にする

生徒の実態

- ・素直に話を聞くことができる。
- ・友達の話や発表をよく聞き、友達の考えに共感し前向きに取り組む。
- ・より高い目標を目指し、努力できる。

地域の実態

- ・本校卒業の保護者や祖父母の割合が多く、幼少から地域愛が育まれている。
- ・地域の協力が得られやすい。
- ・新興住宅地や市営アパートへの転居者も多く、多様な生活環境で育っている。

各教科

国語	他者の心情を理解し、思いやりある表現を身につける
社会	公共心を養い、社会の一員として責任を果たす態度を養う
数学	論理的に考え、誠実に課題へ取り組む姿勢を培う
理科	自然や生命の尊さを理解し、環境を大切にすることを育てる
音楽	協調性を育み、互いの感性を尊重する態度を養う
美術	活動を通じて自己を表現し、他者の多様な表現を尊重する心を育てる
保健体育	スポーツを通じて規律やフェアプレー精神を身につける
技・家	生活に必要な知識や技能を学び、勤労や協力の大切さを理解する
英語	異文化理解を深め、国際社会で共生する姿勢を育てる

総合的な学習の時間

自己理解と自己実現

- ・自ら課題を設定し、主体的に探究することで、自分の可能性を認識し、自己を尊重する態度を育てる。

他者理解と協働の心

- ・調査や体験活動を通じて多様な人々と関わり、協力し合いながら課題を解決する姿勢を養う。

家庭の協力・地域社会との連携

- ・「職場体験学習」による地域貢献
- ・学校だよりへの記載
- ・学校運営協議会での話題提供
- ・地域における小中学校の連携と協力（授業参観の互見）

評価計画

- ・生徒が考え、議論し、自己の生き方を深める過程をみとり累積する
- ・学習状況や成長の様子を認め励ます表現を工夫する
- ・教師の授業改善に役立てる

道徳的実践へ

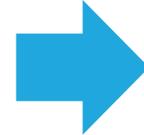
令和7年度道徳教育 別様1年（重点項目は朱筆）

道徳別業（学校行事・教科等との関連） 中学校1学年

道徳教育の重点目標	1年の重点目標
①基本的な生活習慣を身に付け、より高い目標に向かって努力する生徒を育てる。A-(4) ②教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めながら、まわりの人々に対して感謝と思いやりの心を持って接する生徒を育てる。B-(6) ③生命の尊厳を理解し、美しいものに素直に感動する心豊かな生徒を育てる。D-(19) ④集団の意義を深め、自己の役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める生徒を育てる。C-(15) ⑤いじめについて自分自身のこととして捉え、いじめを許さない気持ちを持って行動することのできる生徒を育てる。C-(11) 公正、公平、社会正義	①基本的な生活習慣を身に付け、より高い目標に向かって努力する 生徒を育てる。A-(4) ②教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めながら、まわりの人々に対して感謝と思いやりの心を持って接することのできる生徒を育てる。B-(6) ③生命の尊厳を理解し、美しいものに素直に感動する心豊かな生徒を育てる。D-(19) ④集団の意義を深め、自己の役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める生徒を育てる。C-(15) ⑤望ましい生活習慣を身に付けることの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正す態度を育てる。A-(1)

中2 2 大槻中学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	01 道徳ははじまりの時間 小 な勇気【自主、自律、責任】A・(1) 02 バスと赤ちゃん【思いやり、感謝】B・(6) 03 おかしな礼儀【礼儀】B・(7)	04 挑戦することによって生まれる一歩先【希望と勇気、克己と強い意志】A・(4) 05 ヨント【公正、公平、社会正義】C・(11) 06 ある日のバスターボウズ【公正、公平、社会正義】C・(11)	07 魚の涙【よりよく生きる喜び】D・(22) 08 高層での出来事【自主、自律、責任】A・(1) 09 目標は小堀みに【希望と勇気、克己と強い意志】A・(4)	11 自分自身の思いのちのバトン【生命の尊厳】D・(19) 12 ネット探検【自主、自律、責任と責任】A・(1)	13 言葉の向こうに【相互理解、寛容】B・(9) 14 ライオンが逃げた【道徳精神、公徳心】B・(8) 15 二人の通学路【友情、信頼】B・(8) 16 アップルローザ作戦【騎士の伝統と文化の尊重、騎士を愛する態度】C・(16) 17 三六五×二十四回分ありがとろ【家族愛、家庭生活の充実】C・(14)	18 バランゴの足跡【道徳精神、公徳心】B・(8) 19 高層作 ある朝の出来事【道徳精神、公徳心】C・(10) 20 銀色のシャープペンシル【伝統と文化の尊重、騎士を愛する態度】D・(22)	21 三六五×二十四回分ありがとろ【家族愛、家庭生活の充実】C・(13) 22 町内会デビュー【社会参画、公共の精神】C・(12) 23 初めての夏祭—山中野祭【真理の探究、創造】A・(5) 24 木箱の中の除霊たち【向上心、個性の伸長】A・(3) 25 ふたりの子どもたちへ【生命の尊厳】D・(19)	26 日本製の旗【故郷の伝統と文化の尊重、国旗を愛する態度】C・(17) 27 夏のくぼみの風【思いやり、感謝】B・(6) 28 振りかける目【生命の尊厳】D・(19)	29 旗【思いやり、感謝】B・(6) 30 国際協力がてどうしよう？【国際理解、国際貢献】C・(18)	31 あのハンドルのまに—ワンガリ・マーチ【自然愛護】D・(20) 32 ガジエマの木【感動、畏敬の念】D・(21) 33 美しい母の顔【家族愛、家庭生活の充実】C・(14)	34 いっつわりのバスターボウズ【よりよく生きる喜び】D・(22) 35 二枚の写真【よりよい学校生活、集団生活の充実】C・(15)	
学校行事	入学式 / B・(7) 健康診断	交通安全、防犯教室 中体連他 大会 / A・(4)	中体連他 大会 / A・(1) A・(4)	大掃除 終業式	始業式	終業式 大掃除 合唱コンクール / B・(8)	終業式 大掃除	終業式 大掃除	終業式 大掃除	始業式	終業式 大掃除	卒業式 / C・(15) D・(22) 大掃除 修了式 / C・(15) 離任式 / C・(15)



・ローテーション道徳の計画作成にあたり、年間指導計画を変更した。
 ・年2回の実施のため、9月と11月を実施月と考え、その月の道徳科の授業は、授業者優先でローテーション道徳を実施している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	01 道徳ははじまりの時間 小 な勇気【自主、自律、責任】A・(1) 02 バスと赤ちゃん【思いやり、感謝】B・(6) 03 おかしな礼儀【礼儀】B・(7)	04 挑戦することによって生まれる一歩先【希望と勇気、克己と強い意志】A・(4) 05 ヨント【公正、公平、社会正義】C・(11) 06 ある日のバスターボウズ【公正、公平、社会正義】C・(11)	07 魚の涙【よりよく生きる喜び】D・(22) 08 高層での出来事【自主、自律、責任】A・(1) 09 目標は小堀みに【希望と勇気、克己と強い意志】A・(4)	11 自分自身の思いのちのバトン【生命の尊厳】D・(19) 12 ネット探検【自主、自律、責任と責任】A・(1)	13 言葉の向こうに【相互理解、寛容】B・(9) 14 ライオンが逃げた【道徳精神、公徳心】B・(8) 15 二人の通学路【友情、信頼】B・(8) 16 アップルローザ作戦【騎士の伝統と文化の尊重、騎士を愛する態度】D・(22) 17 三六五×二十四回分ありがとろ【家族愛、家庭生活の充実】C・(14)	18 バランゴの足跡【道徳精神、公徳心】B・(8) 19 高層作 ある朝の出来事【道徳精神、公徳心】C・(10) 20 銀色のシャープペンシル【伝統と文化の尊重、騎士を愛する態度】D・(22)	21 三六五×二十四回分ありがとろ【家族愛、家庭生活の充実】C・(13) 22 町内会デビュー【社会参画、公共の精神】C・(12) 23 初めての夏祭—山中野祭【真理の探究、創造】A・(5) 24 木箱の中の除霊たち【向上心、個性の伸長】A・(3) 25 ふたりの子どもたちへ【生命の尊厳】D・(19)	26 日本製の旗【故郷の伝統と文化の尊重、国旗を愛する態度】C・(17) 27 夏のくぼみの風【思いやり、感謝】B・(6) 28 振りかける目【生命の尊厳】D・(19)	29 旗【思いやり、感謝】B・(6) 30 国際協力がてどうしよう？【国際理解、国際貢献】C・(18)	31 あのハンドルのまに—ワンガリ・マーチ【自然愛護】D・(20) 32 ガジエマの木【感動、畏敬の念】D・(21) 33 美しい母の顔【家族愛、家庭生活の充実】C・(14)	34 いっつわりのバスターボウズ【よりよく生きる喜び】D・(22) 35 二枚の写真【よりよい学校生活、集団生活の充実】C・(15)	

【資料】

《チーム大槻の取組》



「強みを生かすローテーション」道徳

テーマ「強みを生かすローテーション道徳」 ローテーション道徳の計画表（第1学年の場合）

【1学年】 師：外部講師による示範授業 **改訂版** 郡山市立大槻中学校

担当	教材名(中心価値)	10月9日(水)	10月16日(水)	10月23日(水)	10月30日(水)	11月6日(水)	11月13日(水)	11月20日(水)
第1回 ローテーション道徳計画								
1組	ライオンが逃げた(C10)	*	1組	2組	4組	*	*	*
	銀色のシャペル(D22)	師4組	*	*	*	*	3組	*
2組	美しい母の顔(C14)	*	2組	4組	3組	1組	*	*
3組	ふたりの子どもたちへ(D19)	*	3組	1組	2組	4組	*	*
4組	言葉の向こうに(B9)	*	4組	3組	1組	2組	*	*
第2回 ローテーション道徳計画								
1組	夜のくたもの屋(B6)	師1組	*	4組	3組	*	*	*
	銀色のシャペル(D22)	*	*	*	2組	*	1組	*
2組	裏庭での出来事(A1)	*	3組	1組	*	2組	*	4組
3組	語りかける目(D19)	*	1組	*	4組	3組	*	2組
4組	鳥耕作 ある朝の出来事(C10)	*	2組	3組	*	4組	*	1組
主任	日本探しの旅(G17)	*	4組	2組	1組	*	*	3組

↑中教研道徳部会公開授業

実践紹介①

- 道徳教育の重点目標
(学年共通のもの)
- A - (4) 希望と勇氣 克己と強い意志
 - B - (6) 思いやり 感謝
 - D - (19) 生命の尊さ
 - C - (15) 集団生活の充実
- (1学年の目標)
- A - (1) 自主 自律 自由と責任

「強みを生かすローテーション道徳」を軌道に乗せるための研修会を『作戦会議』と称して、全職員で行ったことで、職員が「強み」を自覚する機会となった。重点目標も鑑みて計画を練り、「できることに無理をせず取り組んだ」ことで実践が深まった。

授業構想と「問い」の精選

「教材のどこに着目し、子どもに何を考えさせるか」をテーマに、プレ授業と示範授業を実施した。参観授業と講義から、授業のテーマやキーワードをイメージしながら構想を練ること、生徒が自分ごととして受け止め、対話を生み出す時間の設定について特に深い学びを得た。また、教材研究の視点が広がり、子どもとの主体的な関わりを促す手立てを確認できた。

※「プレ授業」とは、授業者が参観者に向けて授業の見どころや構想を簡易な模擬授業形式で示す時間である。この方法は、参観者の視点を育て、授業の理解を深めることができるため、効果的だった。



「道徳の根っこ」『いいね で いい根』の仕掛け



校内6カ所に掲示し、校内放送や学校だよりで内容を紹介したことで生徒の、楽しみ・励みとなっている。また、文化祭で来場者に呼びかけたことで地域の方々との協働が生まれた。

道徳的行為の可視化によって、生徒相互の関心が高まり、日常にちりばめられた道徳への気づきが増えた。誰かからのありがとうを他の誰かに返す「恩送り」の効果も見え始めている。

県南地区道徳教育推進校「矢吹町立三神小学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	矢吹町立三神小学校		
所在地	西白河郡矢吹町神田西130-2		
校長名	菊池 呂之		
教育目標	「豊かな人間性を備え 心も体も健康で 共に伸びようとする子ども」の育成		
学級及び児童生徒数	学 級 数	6	
	児童(生徒)数	96名	

2 研究テーマ

思いやりの心を持ち、よりよく生きていこうとする子どもの育成
～多様な考えを交流しながら、自己を見つめ、考えを深める授業を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は「豊かな人間性を備え 心も体も健康で 共に伸びようとする子ども」の育成を教育目標とし「(徳)思いやりのある子(知)考える子(体)たくましい子」の3つを柱として、日々教育活動に取り組んでいる。徳に関する「思いやりのある子ども」については、あいさつや返事の励行、温かい言葉(ぼかぼか言葉)があふれる人間関係の育成に力を入れて取り組んでいる。この取組と道徳教育を関連付けながら推進していきたい。

本校児童は、全体的に素直で明るく、学年を超えて仲がよく、自分の思いや考えを持ち、その思いを伝えることができる。また、係活動や委員会活動等については、進んでアイデアを出し合い、創意工夫した活動を企画し、実施することができる。しかし、自分の思いは主張するが、相手の気持ちを考えた行動ができず、正しくないと分かっているにもかかわらず、「これくらいならいいだろう」と場の雰囲気にならされてしまう傾向がある。道徳科の授業については、道徳的価値の大切さが分かり、よりよい意見は出せるが、それを自分の生活の場面に結び付けて考えられず、日常生活に生かせない児童もいる。

そこで、道徳科の授業を要とし、話し合い活動を通して、多様な考えに触れ、自己を見つめることで、一人一人がよりよく生きようとする道徳性を養い、さらに、教育活動全体を通して、児童の様々な姿を価値付けていくことで、道徳的判断力・実践意欲と態度が育成されていくものと考え、研究テーマを設定した。

4 研究計画

月日(曜日)	主な研究内容	備考
4月 3日(木)	第1回校内研究全体会	
6月 13日(金)	校内授業研究会 2年 木村 美和子 教諭 指導助言 県南教育事務所 指導主事 榊 邦宏	
7月 15日(火)	校内授業研究会 5年 後藤 太成 教諭 指導助言 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花 洋介 県南教育事務所 指導主事 榊 邦宏	
9月 12日(金)	講師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様 校内授業研究会 1年 渡部 美佳 教諭 指導助言 県南教育事務所 指導主事 榊 邦宏	
9月 26日(金)	講演会 講師 いわき伝承みらい館 石塚 洋悦 様	
10月 21日(火)	道徳教育地区別推進協議会 公開授業 2年 木村 美和子 教諭 6年 米倉 紘之 教諭 指導助言 矢吹町教育委員会 指導主事 中井 雅之 様 県南教育事務所 指導主事 榊 邦宏	
11月 27日(木)	講師 秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様	
2月 9日(月)	講演会 講師 矢吹町教育委員会 副主査 千葉 麻美 様 第2回校内研究全体会(研究のまとめ)	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について

- ① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用
〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉
 - 全体計画では、学校の教育目標を受け道徳教育での重点目標や児童の実態を考慮し、「B親切、思いやり」の内容項目を学校の重点とする。
 - 別葉では、行事との関連を図り、地域・家庭との連携も分かる形式とする。〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉
 - 別葉を月案に綴じ込み、重点項目と学校・学年行事との関連を見直したり、重点項目の授業の反省を記入したりするなど、教育活動全体をとおし、道徳教育を捉える。
- ② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
 - 道徳教育推進教師は、道徳主任が担い、本校の道徳教育の重点目標が達成できるよう、全学年で研究実践を進める。
- ③ 学校全体で道徳性を養う取組としての道徳コーナーの設置
 - 全校生が「親切、思いやり」の友達のよい行いに対する思いを可視化できるように、「ぼかぼかの木」を設置し、「友達からのぼかぼか言葉で嬉しかったこと」や「友達のよい行いの感想」等を伝え合う掲示板を設置し、学校全体で共有できるようにする。

【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫について

- ① 自己を見つめるための工夫
 - 自分事として捉え、主体的な学びへつながるような導入や登場人物に自分を重ねられるように発問を工夫する。また、多様な考えに触れ、自分の考えの深まりを実感できる振り返りとなるように工夫する。
- ② 多面的、多角的に考えることができる話し合い活動の工夫
 - 話し合い活動の形態（ペア・トリオトーク）を工夫することで多様な考えに触れさせ、教師が考えを深めさせるための問い返しや切り返しをすることで、多面的・多角的な見方につながるよう話し合いのコーディネートをする。また、ICTを活用することにより、視覚的に多様な考えに触れさせることができるようにする。
- ③ 考えを深めることができる発問の工夫
 - 多様な考えに触れられるような中心発問、補助発問の精選及び考えを深めさせるための問い返しを行う。

【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① 道徳科の授業の評価に当たっては、「より多面的・多角的な見方に発展して考えることができたか」（思考ツール等の活用により児童の考えの変化を「見える化」する工夫）、「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」（自分事として考える発問の工夫や振り返りの工夫）の二つの視点を重視していく。
- ② 一人一人の学びや成長を認め、受容的・共感的な姿勢で受け止めるようにする。また、授業の中での児童の道徳的価値の高まりを教育活動全体へ生かしたり、他教科の取り組みや実生活へ生かしたりできるようにする。

【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

- ① 年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」を教材として扱う時間をそれぞれの教材に合った時期に設定し、全学年で年1回位置付ける。
- ② 道徳科の授業に限らず、防災教育や放射線教育など、東日本大震災に触れる学習の際に活用を図り、震災当時の人々の心情を考えるようにする。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① 学校便りや学校のHPを通して、本校の道徳教育推進の取り組みを発信し、本校が目指す道徳教育に対する関心を高める。
- ② 授業参観で年1回は道徳科の授業を実施したり、通知表や個別懇談などで、道徳科の授業の様子を家庭へ伝えたりすることで、保護者の関心を高める。
- ③ 道徳科の授業で活用したワークシートや道徳ノートへの家庭からの返信をお願いし、家庭との連携を図る。
- ④ ゲストティーチャー（地域人材）を招いたり、学校運営協議会で本校の取組を話題にして頂いたりすることで、本校の道徳教育の取組を地域へ発信していく。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

学校、家庭、地域が一体となって共通理解を図り、相互の連携を深めながら、児童の主体的な姿につなげたり、保護者や地域住民の理解が深まったりする道德教育の実現を目指す。

【概要】

- ・ 年1回授業参観において、道德科の授業を保護者に見ていただく機会を設定した。
- ・ 個別懇談や通知表を通して、道德科の学習の様子を伝えた。道德科のノートやワークシートも保護者に見ていただき、児童の学習の取組を伝え、保護者から自分のお子さんにメッセージを書いてもらった。
- ・ 年4回の学校運営協議会において、授業参観していただき、道德科の取組について伝え、保護者だけでなく、地域の方々にもホームページや学校便りで取組を発信してきた。
- ・ 1年生の道德科の授業においては、見守り隊でお世話になっている方をゲストティーチャーとしてお招きし、授業を実施した。
- ・ いわき震災伝承みらい館の語り部の会の方をお招きし、4, 5, 6年生を対象とし、震災講話を聞く会を開いた。震災についての学習と「ふくしま道德教育資料集」での授業を関連付けて実施した。



〈ゲストティーチャーの活用〉

【成果と課題】

- 児童の道德の学習の様子を保護者へ伝えることで、保護者の道德教育への関心が高まると共に、家庭教育でも考えていただきたい道德的価値を理解していただくことができた。また、保護者からのメッセージにより、児童の道德科の学習への励みとなった。
- 講話や授業の参加等によるゲストティーチャーの活用を図ったことで、より学習効果が高まり、子どもたちの道德的価値についての理解を深めることができた。
- 学校、家庭、地域が一体となった道德教育の更なる充実を図るべく、様々な取組を模索していきたい。

7 成果と課題

- 今年度、道德教育推進校となり、本校の道德教育の重点目標が達成できるように全職員で道德教育のあり方を考え、一丸となって取り組むことができた。「短時間で」「どんなことでも」をキーワードに、道德科についていつでも気軽に話すことができる環境（場所や時間）づくりを心がけたことで、道德科の授業の発問について考えたり、授業の感想を伝え合ったりすることができ、道德科の授業づくりへ生かすことができた。
- 道德コーナー「ぼかぼかの木」の設置により、「友達のよい行い」を全校で共有することで、友達や自分のよい行いを再確認することができ、よい行いを学校全体に広めることができた。
- 導入で、本時の主題に関わるアンケートを事前に実施し、その結果を導入で確認することで、児童が本時の学習課題を自分事として捉え、課題把握へつなげることができた。
- トリオトークを取り入れて話し合い活動を行うことで、ペアで話すよりも、話しやすくなり、活発な話し合いを行うことができた。更にトリオトーク後、全体で話し合うことで、より深い話し合いとなった。
- 教師が教材や発問の吟味・精選をすることにより、児童の発言や反応に対して、児童に考えを深めさせることのできる問い返しができることを学んだ。今後も教材と発問の両輪で研究をしていきたい。
- 思考ツールやICTの活用においては、活用することが目的とならないように、ねらいを達成するための手段として活用していきたい。



〈トリオトークの様子〉

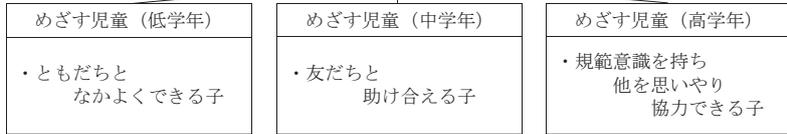
道徳教育全体計画

矢吹町立三神小学校

【教育法規】・日本国憲法
・教育基本法・学校教育法
・学習指導要領・教育機関諸法
規・いじめ防止対策推進法

学校教育目標
「豊かな人間性を備え 心も体も健康で 共に伸びようとする子ども」の育成
・思いやりのある子
・考える子
・たくましい子

社会の要請、教師の願い
保護者の願い
学校・地域の実態
児童の実態



道徳教育目標【道徳教育全学年に共通した重点事項】
心身共に健康で 思いやりの心をもつ 児童の育成

学年重点目標		
低学年	中学年	高学年
○友だちの気持ちを考えてあたたかい言葉を使ったり、あいさつや返事をしたりする態度を育てる。 ○友だちと仲よくし、進んで係活動をしようとする態度を育てる。	○友だちの立場に立って考え、あたたかい言葉を使ったり、自らあいさつや返事をしたりする態度を育てる。 ○みんなのために進んで当番や係活動をしようとする態度を育てる。	○場に応じたあいさつや返事をしたり、あたたかい言葉を使ったりする態度を育てる。 ○創意を生かし、協力して係活動や児童会活動を行う態度を育てる。

各教科指導	道徳科
国語 ・思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かすることで道徳的心情や道徳的判断力を育てる。 社会 ・郷土愛や愛国心、歴史への理解を通して、国家や社会の形成者としての自覚を高める。 算数 ・見通しをもち、筋道を立てて考察する力を育てることを通して道徳的判断力を高める。 理科 ・体験活動を通して自然を愛する心情を育てることで生命尊重や自然環境保全に寄与する態度の育成と道徳的判断力を育てる。 生活 ・体験活動を通して、生活上必要な習慣を身に付け、生活を豊かにする資質・能力を育成する。 音楽 ・音楽を愛好する心情や音楽に対する感性や音楽科の学習を通して培われる情操により、道徳性を養う。 図工 ・つくり出す喜びを味わうことで美的情操や崇高なものを尊重する心を育て、道徳性を養う。 家庭 ・家庭生活を愛する大切にする心情を育むことで、家族を敬愛する態度を育てる。 体育 ・集団の運動を通した忍耐力・礼儀・協力性・規律を育てながら、生活習慣の大切さを知り、自己の生活を見直そうとする態度を育てる。	豊かな心を持ち、道徳的実践力のある児童の育成 重点化に対応した指導内容 B-主として人との関わりに関すること B 親切、思いやり 発達段階に応じた重点内容 《低学年》A 節度、節制 《中学年》A 節度、節制 《高学年》B 礼儀 C よりよい学校生活、集団生活の充実 指導方針 ○全教育活動が示された別業を活用し、道徳教育の補充・深化・統合し、要としての役割を果たす。 ○道徳的価値の自覚・自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成する。 指導の工夫 【自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫】 ・自己を見つめるための工夫 ・多面的、多角的に考えることができる話し合い活動の工夫 ・考えを深めることができる発問の工夫 【一人一人を受け止めて認め、励ます評価】 ICT活用 ゲストティーチャー活用

外国語活動
外国語を話したり聞いたりしながら異文化に触れ、世界の人々とコミュニケーションを図りながら生活しようとする態度を育てる。
外国語
外国語による言語や文化を体験的に理解することを通して、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。
総合的な学習
児童の実態に合った課題に対する積極的、総合的な学習を通して、自己の生き方、他者との協調を通しながら問題解決に取り組もうとする心情・態度を育てる。
特別活動
学級活動 ・協力性・協調性・個性伸長・思慮反省・話し合いの仕方・自立心・明朗 児童会活動 ・実践的態度・愛校心・勤労奉仕・計画性・上級生の自覚・規則尊重・創意工夫・公平公正 クラブ活動 ・個性伸長・協力性・誠実明朗・努力・創意工夫・自立心 学校行事 ・豊かな体験活動・規律・協力性・責任・主体的参加態度 ・礼儀・尊敬感謝 ・社会的役割

その他の教育活動
 生命尊重・規則・責任・助け合い・思いやり・親切・礼儀・集団行動・礼儀・責任・向上心(休み時間)・生命尊重・友情・反省・節度節約・創意・進取・自由・責任・体力作り(愛校作業)・愛校心・勤労(給食指導)・礼儀・健康・正しい食事・責任・協力(清掃指導)・整理整頓・愛校心・責任・勤労・奉仕・助け合い・協力・係活動・異年齢集団活動(児童会活動、清掃、縦割り班清掃活動、集団登校)・特別な配慮を必要とする児童に対する理解

特色のある教育《読書活動の充実》
 読書活動を通して、様々な本に親しみながら、筆者の考えなど様々な思いを知り、日々の生活に役立てていこうとする心情や態度を育てる。

環境整備
 ○ 勤労の尊さを知り、愛校心を持って環境美化に努める態度を育てる。
 ・学級花壇・観察園・愛校作業
 ○ 掲示板および掲示資料の充実に努め、環境を通して道徳性を養う。
 ・作品コーナー・多目的ホールの活用。
 ○ 児童相互、児童と教師との望ましい人間関係の形成に務める。
 ・縦割班活動・教育相談

家庭・地域との連携
 ・家庭教育力の向上
 ・道徳的意識の向上
 ・礼儀・一貫した道徳教育
 ・基本的生活習慣(早寝 早起き 朝ご飯)

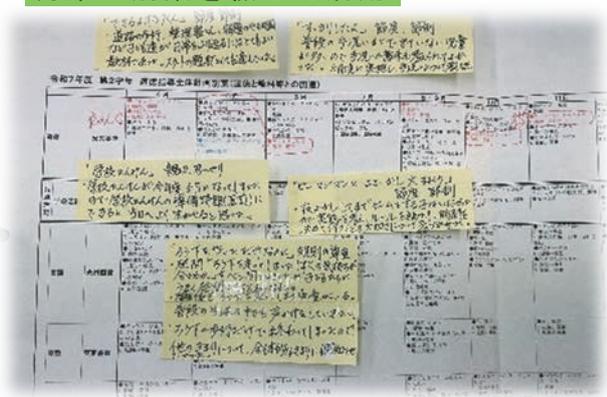
推進体制
 学校長の方針の下、道徳推進教師を中心とした全職員が参画する。道徳科の完全実施のための各教科における関連を考慮した取組や授業の工夫改善に取り組む。家庭や地域との連携、協力のもと道徳教育を機能的に推進する。

生徒指導
 ・基本的生活習慣
 ・道徳的実践・判断力
 ・相互理解・信頼感
 ・正しい価値観

〈今年度の主な取組〉

【資料】

月案に別業を綴じて活用



校内授業研究会の実施



指導案検討会

事後研究協議会

日々研修



短時間で

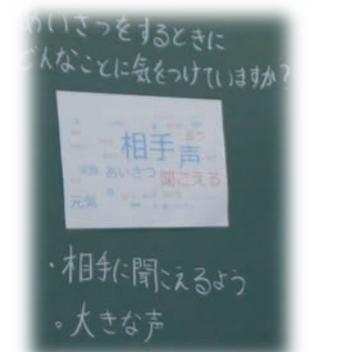
どんなことでも

道徳コーナー「ぽかぽかの木」の設置



げん木・やる木・こん木・ゆう木・ほん木の5つの木

道徳科の授業の工夫



事前アンケートによる導入



多面的・多角的に考えることができるトリオトーク



思考ツールの活用



考えを深める振り返り

ホームページや学校便りでの発信



「ふくしま道徳教育資料集」等の活用



資料集を活用した授業

語り部の会の方のお話

家庭・地域との連携を生かした取組



ゲストティーチャーの活用

ぼくたちのためにありがとう

年1回の道徳の授業参観

会津・南会津地区道徳教育推進校「喜多方市立塩川中学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	喜多方市立塩川中学校		
所在地	喜多方市塩川町字高道 1551		
校長名	五十嵐 清人		
教育目標	地域と連携し、地域に貢献する さわやか塩中生の育成		
学級及び児童 生徒数	学 級 数	1 1	
	児童(生徒)数	2 8 0 名	

2 研究テーマ

多様な価値観に触れ、多面的・多角的に考える生徒の育成
～自己を見つめ、他者との関わりを通じて、考えを深める道徳教育を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は、会津地区に位置し、生徒は学区内の4校以上の小学校から進学してくる。本校の生徒は、「さわやか塩中生」の学校目標の下、自分のもてる力を発揮するために努力を続けている。

本校では、一昨年度まで、道徳教育を現職教育のテーマとして、道徳科の授業に力をいれてきた。生徒のアンケートの結果から、生徒は自分の考えを発表できることから道徳科の授業が好きで、楽しいと答える生徒が多くいた。

そこで、今までの自分の考えや価値観を見つめ直し、さらに他者と関わりをもつ機会を意図的に設け、認め合うことの重要性を理解することができるようにするために、本テーマを設定した。生徒一人一人が自分の考えをもって相手に伝える。そして、相手の話を聴いて自分の考えを深めることで他者との関わりを深められるようにしていきたい。授業だけでなく、教育活動全体を通して、互いを認め合える関係性を構築し、より充実した学校生活を送れるように取り組んでいく。

4 研究計画

月日(曜日)	主な研究内容
4月30日(水)	○研究テーマ、研究内容、実態調査等の検討
5月22日(木)	○第1回校内研修全体協議会・教員アンケート実施
6月12日(木)	○研修委員会
6月20日(金)	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
6月27日(金)	○第2回校内研修全体協議会
	○第1回校内授業研究会(第1学年 菊地 康 教諭)
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
	福島県教育庁義務教育課 指 導 主 事 江花洋介
7月16日(水)	○授業参観・校内授業研究会
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
	福島県教育庁義務教育課 指 導 主 事 江花洋介
7月18日(金)	○第3回校内研修全体協議会
8月9日(土)	○東京学芸大学 上廣道徳教育アカデミー参加(3名)
9月19日(金)	○第2回校内授業研究会(第3学年 鈴木貴之 教諭)
	講 師：日本大学工学部 教 授 渡邊真魚 様
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
10月8日(水)	○第3回校内授業研究会(第1学年 菊地 康 教諭)
10月24日(金)	○第4回校内授業研究会(第2学年 山崎隆史 教諭)
	講 師：日本大学工学部 教 授 渡邊真魚 様
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
11月4日(火)	○第5回校内授業研究会(第2学年 山崎隆史 教諭 第3学年 鈴木貴之 教諭)
	講 師：日本大学工学部 教 授 渡邊真魚 様
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
11月14日(金)	○道徳講演会 講 師：日本大学工学部 教 授 渡邊真魚 様
11月26日(水)	○道徳地区別推進協議会【会津・南会津】
	講 師：日本大学工学部 教 授 渡邊真魚 様
	指導助言：喜多方市教育委員会学校教育課 学校経営アドバイザー 山岸 実 様
12月11日(木)	○第4回校内研修全体協議会

5 研究推進にあたって

【視点1】 道德教育の組織的取組について

① 道德教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

- 生徒や地域の実態、保護者・教師の願いを受け止めた道德教育全体計画を作成する。重点目標を達成するために、指導の重点を明確にし、各教科や特別活動等で生徒が意欲的に取り組めるように配慮する。
- 別葉の作成は、道德教育と各教科等との関連が明確になるように位置付ける。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

- 教育計画や別葉の拡大版を職員室に掲示し、全職員がいつでも確認できるようにする。

② 道德教育推進教師を中心とした組織的取組

- 道德教育推進教師がローテーション道德や互見授業を提案し、教職員全員で授業を実践する。
- 校外で行われる研修会に参加し、得られた情報を全職員で共有し、授業の改善や指導力の向上に生かす。

③ ローテーション道德を核とした授業改善

- 教師の専門性を高めるとともに、生徒の主体的な学びを引き出すため、全教職員がローテーションで道德科の授業を行う。
- 研修委員会を活用して、道德科の授業検討会を行う。
- 道德ノートに生徒が書いた考えに授業担当教師がコメントを書く。

【視点2】 自己を見つめ、深い学びを実現する道德科授業の工夫

① 自己を見つめるための工夫

- 導入で生徒の興味・関心を高めるような発問や調査結果を提示し、自分事として捉えられるようにする。
- 自分の考えを可視化させ、より自分の考えを明確にさせる。

② 他者の考えに触れさせる活動の工夫

- 生徒の考えを可視化することで、他者の考えに触れやすくする。
- 道德科の授業において、3～4人の小グループをつくり、他者の考えに触れやすくする。

③ 考えを深めるための発問の工夫

- 発問に対しての生徒の考えに問い返しやゆさぶりをかけ、より考えを深めさせる。

【視点3】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① ローテーション授業を行うにあたり、評価の視点と見取り方について確認する。
- ② 全学年共通の「道德ノート」を用い、生徒の学びを累積することで、生徒の学習状況や道德性に係る成長の様子を見取る。
- ③ 道德ノートに生徒が書いた考えに授業担当教師が生徒の学びや成長を認め、励ますようなコメントを書く。

【視点4】 「ふくしま道德教育資料集」等の活用について

- ① 「ふくしま道德教育資料集」を道德科の年間指導計画に位置付け、教材を年間1回実践する。
- ② 各クラスに「ふくしま道德教育資料集」を学級文庫として配置し、生徒自身が授業以外の場でも積極的に活用できるようにする。

【視点5】 家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① 授業参観で、道德科の授業を全クラスで実施する。
- ② ホームページ等で道德科の授業の様子や取組を発信する。
- ③ 地域の人材を生かし、対話型教育を実施する。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

家庭・地域とのつながりを通して、地域のために活躍できる生徒を育成するとともに、道徳教育を通して、地域に貢献していききたいと思う道徳性の育成を図る。

【概要】

- ・ 授業参観で保護者にも参観してもらって道徳科の授業をすべての学級で実施した。学校だよりやホームページ等で道徳科の授業の様子を発信し、学校と家庭・地域とのつながりを深めていく。
- ・ P T A主催の教育講演会で道徳教育についての講演会を行い、生徒だけでなく、保護者にも道徳教育の大切さを知る機会を設けた。
- ・ 地域の人材を生かし、対話型鑑賞教室を行ったり、道徳科の授業でゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域との関わりを意図的に設けた。



〈授業参観〉



〈教育講演会〉



〈ゲストティーチャーによる
道徳科の授業〉

【成果と課題】

- 授業参観の際、全クラスで道徳科の授業を実施したことで、保護者にも道徳科の授業の大切さについて、理解していただくことができた。
- ゲストティーチャー、対話型芸術鑑賞、地域ボランティアなど、地域との関わる機会を多く設定したことにより、地域への感謝の気持ちや地域に貢献しようという思いをもつことができ、郷土をさらに大切にしたいという心情を育むことができた。
- 道徳科の授業参観は、今年度は1回しか実施できなかったため、来年度以降は、複数回または、多くの教員で実施していきたい。
- 家庭・地域とのつながりを明記した別葉を生かしながら、ゲストティーチャーの活用や保護者との連携を計画的に進めていきたい。

7 成果と課題

- 教員全体で道徳教育についての研究を進め、事後研究などにも多くの教員が参加したことで、教師の道徳科の授業に対する意識が高まり、授業における指導方法の幅が広がった。
- ローテーション道徳を実施したことで、他の教師の指導方法を学ぶことができた。また、違った視点で教師と生徒の対話、生徒同士の対話をじっくり見ることができた。
- 3～4人のグループ活動を積極的に行ったことで、生徒たちがより意見交換を行うようになり、自分の考えとの共通点や相違点に気付くことができ、多面的・多角的な考えを引き出すことができた。
- 授業の振り返りができないときがあったため、振り返りの時間を十分に確保できるよう、発問の精選をさらにしていく必要がある。また、振り返りの仕方についても、全教員で「これまで」「この授業を通して」「これから」を統一していく必要がある。

令和7年度 道徳教育全体計画

喜多方市立塩川中学校

<p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣は身につけているが、携帯電話の使用依存による生活リズムの乱れや自律心の乏しさが見られる。 ○明るく前向きで活動的な生徒が多いが、相手を思いやった言動に欠けるときがある。 ○ボランティア活動等、指示されたことには熱心に取り組むが、自ら行動を起こすことはできない。 	<p>【 教育目標 】</p> <p>地域と連携し、地域に貢献する さわやか塩中生の育成 学力の向上 社会性の伸長 向上心の育成</p>	<p>【道徳教育の目標】</p> <p>第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる (平成29年改訂学習指導要領)</p>
---	--	--

<p>【教師・保護者の願い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会のルールを守り、正しい判断ができる生徒 ・相手の立場に立って考えられる生徒 ・節度ある行動のとれる生徒 ・奉仕の心をもった実行力のある生徒 	<p>【 道徳教育重点目標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え進んで行動する。 ・互いに理解し助け合う。 ・よく学び美しい心を養う。 	<p>【道徳教育の方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動全体を通して道徳教育を行う。 2. 全職員の共通理解、共通行動のもとに実践する。 3. 生徒・学校・地域の実態に根ざした教育をする。 4. 指導の重点化を図る。 5. 環境を整備しその浄化に努める。 6. 家庭や地域に協力を求め、連携をはかる。 7. 学級・学年・学校・生徒会等の諸行事活動を実践の場として十分に生かす。 8. 教師は全生徒に目を向け、心の通った指導に努める。 9. よりよい校風の樹立に生徒と教師が一体となって取り組む。
---	---	--

【各学年の重点目標】

<p>【第1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合い励まし合う態度を養う。 ・ものごとに積極的に参加する意欲を養う。 ・自然と親しむ心情を養う。 	<p>【第2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒相互が理解し信頼し合う態度を養う。 ・責任をもってやり抜こうとする実践意欲を養う。 ・自他の生命を大切にすることを養う。 	<p>【第3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に学ぶ謙虚な態度を養う。 ・自ら進んで奉仕しようとする実践意欲を養う。 ・いたわり励まし合う人間愛の精神を培う。
--	--	--

【意識化・意欲付けの場と実践の場】

<p>道徳科の時間</p> <p>道徳教育の要として、生徒の感じ方・考え方・ふるまい方を育てる。</p>	<p>教科</p> <p>各教科の目標を達成するとともに、もの見方・考え方・感じ方を育てる。</p>	<p>家庭・地域</p> <p>地域ボランティア活動などとおして、道徳的実践意欲を育てる。地域に開かれた学校を目指し、連携を深める。</p>	<p>特別活動等</p> <p>生徒の自主性を育て、様々な活動をする中で、みんなで考え・行い・充実感を味わう。</p>	<p>【道徳科の授業に おける指導の重点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ねらいを明確にして授業を組み立て、生徒の実態に応じた展開を工夫する。 2. 基本発問を十分に吟味し、思考する時間を確保することで主体的対話的で深い学びとなるようにする。 3. ローテーション授業で多様な人格とのふれあいの中で人間的な成長を期する。 4. 他教科、他領域との関係を意識して資料に奥行きを持たせる工夫で授業の充実を図る。 5. 生徒理解の基盤に立ち、望ましい人間関係を育成する。 6. 「ふくしま道徳資料集」を活用して、郷土愛を育てる。
---	---	---	--	---

【各教科との関連】		学校行事・学級活動 ・生徒会活動・各委員会・集会・学年・部活動・日常生活
国語	人生について自分なりの考えや感想を持ち、相手を大切に話すことができるようにする。	<p>【学校、学級環境の 充実・整備】</p> <p>生徒の道徳的な意識を高めるために、掲示物や展示等を工夫して、道徳的実践意欲を育む。</p>
社会	社会生活の基本を学び、社会の一員としてのあり方を養う。また世界の進展に尽くす態度を育てる。	
数学	創造的な知性と技能を育て、合理的に物事を処理する力を育てる。	
理科	科学的な考察・処理能力を養い、正しい自然観を育てる。	
音楽	人間性豊かな生徒・個性の伸長の育成をはかる。	
美術	美的情操・豊かな心を養う。	
保体	強健な身体と強い意志を養い、協力する態度を育て、健康安全に努めるようにする。	
技家	働く喜びを育て、ものを大切にする態度を育てる。	
英語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、世界の中の日本人としての自覚をもたせることで、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する態度を涵養し、また、コミュニケーションの実践を学ぶことで、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得させる。	

教育目標 地域と連携し、地域に貢献する さわやか塩中生の育成



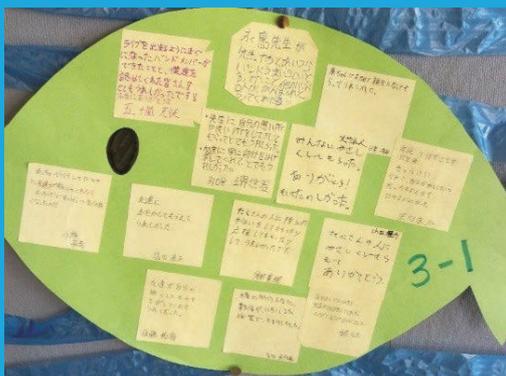
【地域清掃ボランティア】

クラスごとに清掃の場所を決め、地域を巡回し、ゴミを集めた。生徒の中には、側溝にまで目を向け、空き缶や牛乳パックなどのゴミを積極的に拾う姿が見られた。

また、これ以外にも、塩川町の「川の祭典」の翌日には、朝6時に集まり、祭りで出たゴミなどを拾う活動なども行っており、生徒自らの意思で参加し、自分たちの住む地域を少しでもきれいにしていこうという思いが高まっていた。

【ハイタッチあいさつ運動】

今年度より、生徒会主体で普段のあいさつ運動に加え、ハイタッチをしてあいさつをするという活動を行った。普段あいさつをするだけの生徒も笑顔で元気よくあいさつをすることができた。教育目標でもある「さわやかに」学校生活を送れるよう気持ちの良い1日をスタートしていた。



【ありがとうの川】

毎年12月に全校生で取り組んでおり、全生徒が学校生活での感謝の気持ちを書き、昇降口に掲示している。日常の感謝や特別な感謝など、生徒によって様々な感謝があり、見た人たちも心が温まり、温かい人間関係が培われている。

1 学校紹介



学校名	福島県立相馬総合高等学校
所在地	相馬市北飯淵字阿弥陀堂200
校長名	櫻田 渉
教育目標	○自ら学び、自ら考え、判断し、取り組む人間の育成 ○思いやりの心を持ち、社会形成に参画する人間の育成 ○心身ともに健康で、新しい社会を共創する活力に満ちた人間の育成
学級及び生徒数	学級数 14 生徒数 495名

2 研究テーマ

思いやりをもち、自己の在り方を見つめ、地域や社会の未来のために自ら考え、よりよく生きる生徒を求めて

3 研究テーマ設定の理由

本校は相馬東高校と新地高校が統合し、開校4年目を迎えている。探究活動を中心に、自ら問いを立て、地域課題解決学習に取り組んでいる。

総合学科の特長を生かし様々な学習活動に取り組む中、「思いやりをもち、他人の気持ちを尊重し、どのようにして自分の考えを伝えるか、相手の意見を受け取るか」が本校生徒の大きな課題であることを教職員一同が強く認識している。相馬市は地域と学校が連携した教育活動を推進しており、子どもの育成に加え、地域全体の活性化を目指している。

この度道徳教育推進校に指定されたことをきっかけに、道徳教育推進プロジェクトチームを立ち上げ、3年間で育てたい生徒像について検討を重ねた結果、上記の研究テーマを掲げるに至った。1年次の「産業社会と人間」において社会との関わりの中で人間としての生き方を見つめ、2・3年次の「総合的な探究の時間」では人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることへとつながる授業を展開し、「生徒が持つ知識、考え方、行動、価値観、なりたい大人像等」が変化していく姿を見ていきたい。また、学習による自己の変容を意識させ、生徒自身が自己成長を実感するために、学習前後での知識や考え方を比較したり、話し合いや発表の機会を設けたりすることが重要だと考える。

4 研究計画

月日(曜日)	主な研究内容	備考
4月16日(水)	SNS講習会	
5月8日(木)	講師：福島県警本部 生活安全部少年女性安全対策課 今野 桂子 様 「スムーズなコミュニケーションのために」	
5月13日(火)	講師：ライセンスアカデミー 山村 悦夫 様	
7月10日(木)	道徳教育の全体計画の教職員への提示と共有	
7月18日(金)	校内研修1(指導案検討会) 指導助言：福島県教育庁 義務教育課 指導主事 江花 洋介	
7月28日(月)	薬物乱用防止教室 講師：相馬警察署 生活安全課長 飯野 真 様	
8月5日(火)	先進校視察 福島県立湖南高等学校(1名)	
8月9日(土)	校内研修2(指導案検討会)	
8月29日(金)	指導助言：相双教育事務所 指導主事 星克 石橋 亮宏	
9月3日(水)	校外研修1 東京学芸大学(1名)	
9月8日(月)	校外研修2 郡山市立大槻中学校(4名)	
9月17日(金)	初任研地区別研修会(ふくしま道徳教育資料集の活用) 授業者：古川叶梧 1年2組(ホームルーム活動【2】) 指導助言：相双教育事務所 指導主事 石橋 亮宏	
10月17日(金)	道徳教育に関する校内研修 講演「高等学校における道徳授業の在り方」 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様	
	道徳教育地区別推進協議会 1年3組授業公開「大人インタビューの振り返り」 授業者：白川大智 1年3組(産業社会と人間) 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 様	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について

- ① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用
 - 〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉
 - 学校運営・経営ビジョンに示された重点目標にある「生徒一人一人が活躍できる教育の実践、地域と連携した学びの展開、防災・復興教育の推進」を念頭に置き、研究テーマにある生徒像を目指して研究を推進する。
 - 生徒の実態や課題を踏まえ、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の授業を中心に、対話を通じて協働的かつ主体的に学習活動に取り組む態度を育成する。
 - 〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉
 - 職員会議において道徳教育全体計画を共有し、道徳教育の重点目標及び各教科の教育内容を意識した上で全教師が計画的に授業を実践する。
 - 道徳教育が、教科のみならず特別活動、学校行事、課外活動、部活動等にも通じることを全教師に周知する。
- ② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
 - 道徳教育推進プロジェクトチームを中心に、組織的に道徳教育を推進している。道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、打ち合わせを定期的に行っている。教頭が総括を担当している。
- ③ 「産業社会と人間」を軸にした、自己指導能力の育成
 - 1年次の「産業社会と人間」の授業では、自己指導能力を育成することを目指している。道徳教育推進プロジェクトチーム、1年次担任・副担任・年次付、教科担任等、多数の教師が関わっている。

【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

- ① ペアやグループで考えを交える活動を意図的に設定したり、生徒の発言を他の生徒につながる発問をしたりすることを通して、自分の価値観に気づき、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ② 本時の内容に関わるアンケートから生徒の価値観を把握し、その結果を発問づくりに生かすことで、問題を自分事として捉えることができるようにする。
- ③ 振り返りの時間を確保し、「今までの自分」と「これからの自分」という視点を与えることで、自己を見つめ、考えを深めることができるようにする。

【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① 自己指導能力の育成を図る評価の工夫
 - ・ 授業の振り返り及び自己評価を継続して実施し、生徒が自分自身を俯瞰できるようにすることで、自己の在り方や生き方について考えさせる。
 - ・ 活動や教材を通して生徒が自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているかどうかを指導者側の自己評価の指標とする。
- ② 自己評価シート（振り返り）の活用と評価の工夫
 - ・ 自己評価シートの内容を精査し、どのように授業で見取っていくかを校内で検討した上で、授業者は適宜生徒の考えやその変容を取り上げる。
 - ・ 授業者は、発言や記述以外にも、表情やつぶやきから子どもの内面を見取り評価できる根拠を集める。

【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

- ① ホームルーム活動の時間に教材・資料として活用し、自分の住む地域のためにどのように貢献できるかを考える機会とする。
- ② 教材を通して学習したことを、日常生活と結びつけて考えさせることで、問題意識をもつことができるように配慮する。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① 12月に行われる中高合同探究発表会では、保護者や地域の方々はもとより、町内の幼稚園・小中学校の教員が参観することとなっている。この成果を発表することで、生徒が自ら考え主体的に行動する姿を地域の方々に発信する。
- ② 地域・社会との関わりの中で、対話を通じて協働しながら課題を解決していく力を身に付けるために、また、地域社会の一員としての自覚を持ち地域に貢献できるように、保護者との連携、地元企業との交流を通じて、コミュニケーション能力の育成や、道徳性を養うことにつなげる。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

- ① 将来社会の一員となる自覚をもち、他者と共生することについて考える機会を通して、地域に生きる様々な人々の人間性や人としての在り方を知り、人生をいかに生きるべきかを深く考える。
- ② 地域社会の人々との交流を通して、多様な考え方や感じ方と出会い、自分との関わりの中で主体的に考え、議論する。

【概要】

- ① 保護者や教師等身近な大人や、地域の方々などへの「大人インタビュー」を通して、地域における探究学習の視野を広げる一助とするとともに、様々な課題について周囲の人々と共に考え、共有しながら自己を見つめることで考えを深める。
- ② 中高連携による課題研究発表会は、中学生と高校生が互いの学習内容を知ることや、教育委員会、連携中学校、地元企業、学校評議員等の外部の方々にも評価していただくことを通して、自己を見つめ直し、道徳性を主体的に養う機会とする。

【成果と課題】

- 多様な世代・職業・価値観をもつ地域の人々との直接的な交流を通し、人生観や倫理観を深めることができた。特に「大人インタビュー」では、人々の具体的な生き方から学んだことを共有し、自分なりの価値観を形成できた。地域社会の課題や大人の考え方に触れることで、学習内容を自分事として捉え、多様な考え方に対する理解と、議論を通じた主体的な思考力を養うことができた。
- 専門家からの助言を受け、生徒が自己の探究活動や道徳的判断を客観的に見つめ直すことで、より社会性の高い視点や道徳性を主体的に身に付けることができた。
- 中学生と高校生が互いの学習内容を知るとは、中高の学びの連続性（接続性）を高め、将来の進路選択や高校での探究活動への動機付けとなった。
- 「大人インタビュー」が職業的な質疑応答に留まり「人間としての在り方生き方」を深く考えるまでには至らなかった。大人の価値観や苦勞、社会貢献意識に迫るための「問い」の設定を見直し、生徒が内省を深める振り返りの時間を確保していきたい。
- インタビューや発表会で得た学びが、その後の学校生活や人間としての在り方生き方に持続的に反映されたかということについては疑念が残る。学習直後だけでなく、数週間後、数ヶ月後にも、学んだこと（特に道徳性に関わる行為や価値観）を振り返る機会を設けることで、得られた学びを「自分事」として深く捉え直し具体的な行動目標に落とし込み、その実行度を自己評価させる機会を作っていきたい。

7 成果と課題

- 育成すべき生徒像を明確にし、総合学科必修の探究活動と道徳教育を関連させたことで、人間としての在り方・生き方の自覚を深める授業を実践することができた。
- 生徒の多面的・多角的な思考と自己の価値観への気づきを促すとともに、学習前後のアンケートで生徒の価値観を把握しながら発問を作ることで、生徒が課題を「自分事」として捉えることができた。
- 変容を生徒自身が実感できるように、学習前後の自分の考えを比較する場を設定することで、内面的な変容を捉えさせることができた。
- 中高合同探究発表会の実施を通して、生徒が地域社会の一員としての自覚や貢献意欲を高め、道徳的判断力を養うことができた。
- 「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」、さらに各教科等と相互に関連付け、道徳的な資質・能力が系統的に育成されるためのカリキュラムデザインの検証と深化が必要である。
- 道徳教育が、教科のみならず各教師の具体的な指導計画や実践にどの程度反映されているかを確認し、そのための仕組みをより強化する必要がある。



〈各教科等でも価値観の形成を意識〉

令和7年度 道徳教育全体計画

福島県立相馬総合高等学校

生徒の実態 地域・保護者の要望	スクールミッション	推進体制
<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末の学習環境や総合学科の特色を活かし、一人ひとりが自己の成長に努めている。 学力差の拡大、多様化が進んでおり、個に合った指導が必要とされている。 SNSの普及により自己表現や友人とのやりとり、望ましい人間関係の構築に苦慮する生徒が見受けられる。 保護者は学力向上と安心安全な学習環境を求めている。 地域は様々な機会を生徒を支援してくれており、地域活性化を望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校訓「誠実」「自律」「共生」「創造」のもと、相双地区のキャリア指導推進校として文理教養、スポーツ、芸術、生活福祉、産業ビジネスの5つの系列を持つ総合学科の高校 防災教育や震災の伝承活動を通して、地域で活躍できる力や思いやりの心をもった、新しい社会を共創する活力に満ちた人材を育成する学校 専門性を高める5つの系列の学びに加え、防災・復興や未来のまちづくりに関わる地域の方々や専門家と連携し、地域を学びのフィールドとした学習を推進し、地域社会の新たな発展を地域と共に創造する学校 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育推進プロジェクトチームを結成し、企画・立案・運営等に当たる。 教務部および探究図書部が教科・学年・各部と連携をとりながら年間計画及び目標を作成する。具体的な活動内容は教科担当者・HR担任及び各部担当者が立案する。 調査・広報は教務部が担当する。

道徳教育の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> 自律の精神を重んじ、自分で考え、判断し、実行した結果に責任を持つ生徒の育成 思いやりを持ち、多様な人々と協力・協働しながら物事に取り組む生徒の育成 勤労と生命の尊さ、人権の意義を理解し、社会に貢献しようとする生徒の育成



各教科・科目、産業社会と人間、総合的な探究の時間、特別活動における教育内容
<p>【国語科】 ○国語教育で養った理解力と表現力によって他者との良好な関係を構築するとともに、文学作品を通して養った思考力と想像力によって道徳的心情を育み、豊かな人生に寄与する。</p> <p>【地理歴史科・公民科】 ○現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につける。</p> <p>【数学科】 ○数学で学んだことを生かし、世の中の様々な事象を数学的な見方・思考で処理する良さを知り、より良い人生につなげられるようにする。</p> <p>【理科】 ○自然の事象・現象について理解を深めることを通して、生命の尊重や自然との関わり方について考察を深めさせる。</p> <p>【保健体育科】 ○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保する力を身につける。</p> <p>【芸術科】 ○芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、美しいものや崇高なものを尊重することで、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことで道徳性の基盤の育成に繋げる。</p> <p>【外国語科】 ○英語による言語活動や読解活動を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。</p> <p>【家庭科】 ○家庭福祉に関する学習を通して、生命の尊厳・異性の尊重・他者との共生・SDGSなどについて考察を深めさせる。</p> <p>【商業科・情報科】 ○職業人として必要な知識と倫理観を育て、他者との関わりをとおして自己の役割を認識し、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養わせる。 情報モラルを身に付け、情報機器や情報通信ネットワークの正しい活用法について考察を深めさせる。</p> <p>【産業社会と人間、総合的な探究の時間】 ○「自分を見つめること」「社会に目を向けること」「将来の目標を叶えるための科目を選択すること」「将来像を描くこと」「より良い将来設計をするためのコミュニケーション能力を育てること」「防災に対する意識を高め知識を深めること」の6つの目標をもち、諸活動に取り組んでいく。 ○産業社会と人間で得たスキルを基に、総合的な探究の時間でよりよく課題を解決する力（自分で学ぶ力）を身に付け、自己の在り方や生き方をより良くし、社会に貢献できる人間を育成する。</p> <p>【特別活動】 ○ホームルーム活動を通して、自他の個性や立場を尊重する態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団行動を行おうとする態度の育成を図る。 ○生徒会活動や学校行事を通して、課題を見いだし、これを自主的に取り上げ、他と協力して課題解決していく自発的、自治的な姿勢を身に付けさせる。</p>

生徒指導との関連	家庭・地域との連携
<p>○道徳教育を充実させることで、生徒一人一人が自己を見つめ直し、よりよい自己の在り方生き方について考え、豊かな高校生活を送ることが期待できる。</p> <p>○校外生活において、本校生の自覚及び高校生としての責任を持った行動ができる生徒の育成につなげる。</p>	<p>○HPや一斉メール、配付文書などにより、本校の取組を家庭や地域に発信する。</p> <p>○保護者の学校評価アンケートのうち、道徳教育につながる評価・コメントを抽出し、具体的な課題の設定や教育方法の改善に活用する。</p>

伊達小学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和7年11月28日（金） 第3校時
 授業者：伊達市立伊達小学校 教諭 佐藤志帆

授業テーマ	登場人物がとった行動について自分との関わりで考えることを通して、親切な行為のよさに気づき、身近にいる人たちに温かい心で接し、相手の気持ちを考えて親切にしようとする道徳的心情を育てる授業
-------	--

1 主題名 ほんとうのおもいやり B親切、思いやり

2 教材名 ぼくのはな さいたけど（出典：新編 あたらしいどうとく1 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

低学年の内容項目「親切、思いやり」には、「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」と示されている。相手の気持ちを自分のことに置き換えて考え、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることが、思いやりである。親切や援助といった具体的な行為をすることである。また、単に手を差し伸べるだけでなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為として表れる。身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。また、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにすることが大切である。

(2) 児童の実態（子ども観）

本学級の児童は、友達に対して優しく接することが大切だと考えている。友達が転んだり怪我をしたりすると、そばに寄り添い声をかけ、友達がお茶や牛乳などをこぼした時にはティッシュを出して片付けを進んで手伝うなど、友達を気遣う姿や助け合いの姿が見られる。しかし、発達の特質から自分中心の考えが多く、強い言口調や言葉で自分がしたことを相手に伝えて傷つけてしまったり、わねなかつた教師に伝えるなど、見返りを求めたりする姿が見られる。また相手手を思いやった行動をおせいかいととらてしまうことがある。このような児童に、親切にすることのよさを感じさせたい。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

母の誕生祝いにと子ぐまのトトが育てていた花を、もぐらのモイラが病気の母親のために摘んでしまう。トトはモイラとモイラの母親のことを思って、残った2本の花のうち、1本だけ取り、もう1本はモイラに残してあげることにしたという内容である。お母さんにあげるはずの花をモイラのために「一つのおこしおくとよ」と言っただけで、トトに自我関与し考えていく。具体的には、「自分だったらどうするか」を考えさせ、三色カードを使って、「残す」「迷う」「残さない」の三つの中から自分の考えを明らかにし、花を一本残す行動をとったトトへ自我関与ができるようにする。温かい心で人に接することの気持ちよさや、相手のことを考えて行動することの大切さ、相手の喜びが自分の喜びになることについて考えさせ、価値にせまられるようにコーディネートをしていきたい。

4 本時のねらい

お母さんのために育てた花をモイラのために一つ残したトトの行動について自分との関わりで考える活動を通して、親切な行為のよさに気づき、身近にいる人たちに温かい心で接し、相手の気持ちを考えて親切にしようとする道徳的心情を育てる。

5 実際の板書



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価の視点
<p>1 本時の学習テーマをつかむ。 (1) 学校生活の様子(写真)から問題意識をもつ。 ・教科書を落としたときに拾ってあげた。 ・水をこぼしたときに、一緒に床をふいてくれた。 (2) 学習テーマをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ありがとうといわれなくても、どうしてみんなは人にやさしくできるのかな。</p> </div>	5	<p>○ 普段の学校生活の中で親切と思える行動をとっている児童の写真を提示することで、本時の学習への方向付けを図る。</p> <p>○ 児童の親切にした経験について「どうして」と問い返すことで、無意識に親切にしている自分に気付き、親切にすることについて問題意識をもつことができるようにする。</p>
<p>2 教材文を読んで考える。</p> <p>○ モイラがお花をとっていたことに気付いたとき、トトはどう思っていたかな。 ・悲しい。悔しい。 ・怒っている。</p> <p>◎ トトは「一つのこしておくよ」と言ったけど、みんながトトだったらどうするかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>残す(赤)</p> </div> <p>・お母さんにも喜んでほしいけど、モイラにも喜んでほしい。 ・二つあるから、一つずつ分けたい。 ・モイラもかわいそう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>迷う(黄)</p> </div> <p>・お母さんに一つだけになるのはいやだな。 ・お母さん一つだけでは喜んでくれないよね。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>残さない(青)</p> </div> <p>・お母さんのために育てた花だから、モイラにあげたくない。 ・お母さんにあげる花が一つだけはかわいそう。二つあげたい。 ・お母さんに喜んでほしい。</p> <p>○ お母さんは何が嬉しかったのかな。 ・トトが育てた花をくれたこと。 ・お母さんだけではなく、トトが周りの人を喜ばせてあげたこと。 ・トトが相手の気持ちを考えられる優しい子に育てくれたこと。</p>	2 5	<p>○ 教材文を読む前に登場人物を紹介するとともに、あらすじを簡単に説明することで、話の内容を理解しやすくする。</p> <p>○ 教材提示を紙芝居で行い、児童が理解しやすいよう、ゆっくりと読み聞かせる。</p> <p>○ 三色カードを使うことで、自分の立場を明確にして話し合うことができるようにする。 (赤…残す 黄…迷う 青…残さない)</p> <p>○ 「迷う」「残さない」という思いに触れることで、人間の心の弱さについて考えることができるようにする。</p> <p>○ 児童の考えを共有する際、理由を聞いたり、板書をしたりすることで、いろいろな考えに触れ、考え方は多様であるという他者理解につなげられるようにする。</p> <p>※ トトがお花を1つ残した行動について、自分の考えと友達の考えを比べ多面的・多角的に考えているか。(発言)</p> <p>○ トトがあげたお花のおかげでモイラとモイラのお母さんが喜んでくれたことを知って嬉しくなったトトのお母さんの気持ちを考えることで、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気付くことができるようにする。</p>
<p>3 学習を振り返り、自己を見つめる。</p> <p>(1) これまでの自分を振り返る。 ・親切なことはしていたけど、相手の気持ちを考えていなかった。 ・相手のことを考えた行動は、相手を幸せな気持ちにさせると思う。</p> <p>(2) 教師の説話を聞く。</p>	1 5	<p>○ これまでの自分を振り返り、ワークシートに書いたり、書いたことを発表したりすることで、思いやりについて考えられるようにする。</p> <p>※ これまでの自分の生活を見つめ、振り返りながら本当の思いやりについて考えているか。(記述・発言)</p> <p>○ 親切にされて嬉しかったことについて話し、本当の思いやりについて考えを深められるようにする。</p>

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「主題の重視と中心発問の吟味」について

- 児童は、思いやることや親切にすることが大事であることは理解している。今回の授業では、「ありがとう」と言ってもらわなくても、褒められなくても、相手の気持ちを考えた行動をしようという心情を育てたいと考え、教科書に示されていた「あたたかいところ」ではなく、「ほんとうのおもいやり」という主題名に変更した。どのような授業にしていくか考え、授業者の思いを込めて主題名を決めたことで、指導の意図を明確にすることができた。
- 中心発問は「みんながトトくんだったらどうするかな」という登場人物への自我関与の形で行った。登場人物と自分を重ねて考えることで、他人事ではなく自分事として相手を思いやることについて考えを深めることができた。
- 主題名にこだわって授業を組み立てたことで指導の意図は明確になったが、児童の話合いを教師の目指すところまでもっていくことは難しかった。深い学びにつながる児童の考えを見取るところまで考えていきたい。

(2) 「教師のコーディネート」について

- 道徳科の授業で中心発問をする際、「三色カード」を活用してきた。本時では、三色の意味を「(赤) 残す」「(黄) 迷う」「(青) 残さない」とした。毎回「三色カード」で自分の立ち位置を決めてから話し合ってきたことで、児童は話合いの仕方に慣れ、友達の考えを聞き、考えが変わって色を変える時には理由を話すこともできるようになってきた。時には教師自身も参加しながら、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにコーディネートしてきた。
- 「青の人が～と言っているけど、赤の人はどうかな」など児童の発言を聞いて、それをつなげようとしたが、揺さぶりや問い返しが少なかった。児童の葛藤や迷いを引き出せるような、心揺さぶる発問や問い返しは、どのようなにすればよいか考えていきたい。



〈三色カード〉

(3) 「自己を見つめることができる発問の工夫」について

- 振り返りでは「今までの自分は、相手に対して思いやりの気持ちをもって生活できていましたか」と投げかけ、「心のものさし」を活用して振り返ることで、児童は自己をしっかりと見つめ、自分の考えを示すことができていた。
- できたこと、できなかったこと、その時の気持ちなど、具体的な体験と結び付けて考えることで、これまでの自分の生活を見つめ、考えを深めることができていた。



〈振り返りの様子〉

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 毎回、同じワークシートを活用して自己の振り返りを行った。初めはできなかったことを書くことに戸惑う児童も見られたが、教師の説話や学級の雰囲気づくりにより、できなかったことも素直に振り返る児童が増えてきた。ワークシートには、担任がコメントを書き、それを累積することで評価の材料としている。
- 内容項目によっては、振り返りを書くことができない児童もいる。振り返りの時に声を掛け、やりとりを通して、文章にまとめたり文章にできない思いを汲み取ったりすることで評価につなげていきたい。また書き始めるヒントとして、「この間こんなことあったね」など教師が見取った学校生活における児童の様子を伝えることも有効であると考える。教育活動全体を通して、普段の児童の様子を見取れることを意識していきたい。

授業テーマ	人間は生き方を変えられるのか、変えられるならば、生き方を変えるものは何か、について、真剣に自分事として考える道徳的態度を育てる授業
-------	---

- 1 主題名 生き方を変えるものって何だろう D よりよく生きる喜び
- 2 教材名 銀色のシャープペンシル（出典：中学生の道徳1 あかつき教育図書）
- 3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学生の時期は、人間が、悪いことはわかっているにもかかわらずそれを認めずに人のせいにして自分を正当化しようとする弱さや醜さをもつと同時に、「このままではいけない」と自分と戦おうとする強さや気高さを併せもつことを理解できるようになってくる。自分のこれまでの振る舞いに現れる弱さや醜さに気づいたときに、目をそらさずに向き合うことが、弱さを乗り越えるチャンスとなる。このままの自分ではいたくない、本当はよりよく生きたいと願う良心の声に耳を傾け、自分を奮い立たせられるかがわかることが、よりよく生きる喜びへのターニングポイントとなる。

(2)生徒の実態（子ども観）

中学校生活に慣れ、学習や部活にしっかりと取り組み、多くの活動にもクラスメートと協力できる学級である。しかし、普段の生活で、言い訳をしておまかせしたり、他人のせいにして自分の間違いに気づいても向き合おうとしなかったりしてしまうことがある。また、自分の弱さや醜さに向き合った経験は少ないと思われる。

(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

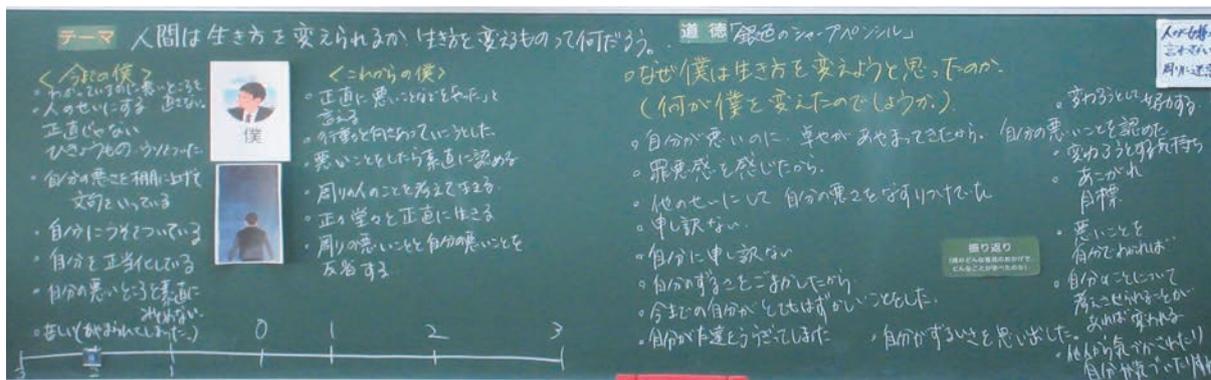
拾ったシャープペンシルを勝手に自分のものにしてしまった「僕」は、自己を正当化させるために次々と嘘を重ねていく。何も知らない卓也が誠実に非を認め、謝罪の電話をくれたことをきっかけに、僕が自らの「ずるさ」に向き合い、葛藤を経た後に正直に謝ろうとする姿に、生徒個々が自分事として深く考え共感できる尊さを感じる。僕の心の変化の場面に焦点を当て、僕の今までとこれからの変化を想像させる過程での気づきについて学びを共有させることで、きっかけを生かすことができるか否かの自分自身の在り方、生き方の重要性について深く考える工夫をした。

交流等での考える時間を十分にとるために、教材は朝の読書タイムにて黙読させておき、導入時にはあらすじのみの確認とする。そして、考えの焦点化を図るために、「僕は思いっきり深呼吸した。そして、ゆっくり向きを変えると、卓也の家に向かって歩き出した。」という部分から展開を図る。

4 本時のねらい

自分をごまかしたり、言い訳やずるい行動をしたりしてきた「僕」の変化に思いを留め、その理由や要因を考えることを通して、自分の弱さや醜さから目を背けずに向き合うことで、それらを乗り越えてよりよく生きたいという思いが生まれていることに気づき、今の自分自身を見つめ、よりよい生き方をしていこうとする道徳的態度を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価の視点
<p>1 資料のあらすじを確認し、学習テーマをつかむ。</p> <p>○ 「僕」は、拾ったシャープペンを自分のものとうそをついてしまいます。しかし、「僕」は、今までの自分を改め、謝罪に向かいます。そして、その「僕」のエピソードから、どうすれば人間は生き方を変えられるのか、について考えてみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>人間は生き方を変えられるのか。生き方を変えるものって何だろう。</p> </div>	3	<p>○ あらすじを簡単に確認する。</p> <p>○ 課題意識をもたせるために、本時のテーマを提示する。</p>
<p>2 資料をもとに考える。</p> <p>(1)「僕」の生き方に思いを巡らせる。</p> <p>○ 今までの僕はどのような生き方だったのでしょうか。そして、これからの僕はどのように生きているのかを考えて書いてみましょう。 (今までの僕)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うそをつく ・ ずるい ・ 人のせいになっている ・ 悪いことを認めることができない <p>(これからの僕)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正直に生きる ・ 自分のまちがいを認める ・ うそをつかない ・ 人のせいにしない <p>○ 今の自分はどちらに近いだろう。タブレット端末の数直線上に表してみよう。</p> <p>◎ なぜ僕は生き方を変えようと思ったのでしょうか。(何が僕を変えたのでしょうか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うそをついた自分が嫌だった ・ 自分の気持ちにうそはつけない ・ 卓也が悪くないのに謝ってきたから ・ 合唱練習でずるい自分を思い出したから、このままではいけないと思った ・ 人のせいになっている自分が恥ずかしい <p>(2) テーマにせまる。</p> <p>○ 自分も生き方を変えられると思いますか。</p>	<p>7</p> <p>3</p> <p>1 2</p> <p>1 0</p>	<p>○ 考えの焦点化を図るために、「僕は思いつき深呼吸した。そして、ゆっくり向きを変えると、卓也の家に向かって歩き出した。」という場面をクローズアップした後に発問する。</p> <p>○ 「今までの僕」と「これからの僕」を同時進行で考えさせるためにワークシートを用いる。</p> <p>○ 同じような考えが多いことが予想される。机間指導をしながら、計画指名の見当をつけたい。</p> <p>○ 相互の学びを体験させたいことから、教師が誘導することは控える。</p> <p>○ これからの僕の意見については、適宜、どうしてそう思ったかを聴く。</p> <p>○ 振り返りの助けとするために、並べて板書する。</p> <p>○ 今の自分と向き合う時間をとることがねらいなので、ここでの深追いはしない。</p> <p>○ 卓也の電話はきっかけにすぎず、卓也の誠実な心や素直な心に触れたことで自分を見つめ直すことができたことをおさえさせたい。そのために、単語のつぶやきを拾い、なぜそう思ったかを丁寧に聴いていく。</p> <p>※ 他の意見を聞くことで、なぜ変えようと思ったのかについて、多面的多角的に考えているか。(発表)</p> <p>○ 生き方を変えたきっかけを考えさせたうえで、自分の生き方に引きよせて考えさせる。</p> <p>○ 単語のつぶやきを拾い、なぜそう思ったかを丁寧に聴くことで、自分の生き方に引き寄せられるように言葉を選ぶ。</p>
<p>3 本時の学びを振り返る</p> <p>○ 今日は誰のどんな意見のおかげで、どんなことが学べたかをゆっくり思い出して書いてみましょう。その後何人かに発表してもらいます。</p>	1 5	<p>○ 友達のおかげで学びが広がることを実感できるように「誰のどんな意見のおかげで」を意識して発表させる。</p> <p>○ 机間指導を通して、テーマにふれて書いている生徒を2～3名発表させる。</p> <p>○ 発表者の生徒などへの拍手を促す。</p> <p>※ 授業を振り返りながら、他から学んだことについて考えているか。(記述、発言)</p>

7 考察

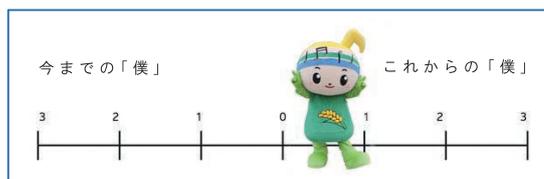
自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「自我関与を促し、生徒が自分事として学びに向かう工夫」について

○ 教材のどこに着目し生徒に何を考えさせるかに主眼を置き、テーマ（ねらい）を熟考した。教材文の初めから順を追って「僕」の心の動きについて考えるより、葛藤を乗り越える前と後の心の変化に着目した方が「僕」の生き方の変化を印象づけられるとの考えから、テーマを「人間は生き方を変えられるか。（変えられるならば）生き方を変えるものは何か」とした。授業ではワークシートを用いて「今までの僕」の姿と「これからの僕」の姿を考えさせたことで対比の効果が生まれ、「これからの僕」について、「正直に生きる」「うそはつかない」「人のせいにならずに素直に反省できる」など、理想の姿が多く語られた。

○ 「あなたの今は、『今までの僕』と『これからの僕』のどのあたりか」と問い、タブレット端末上の思考ツールを使って考えさせた。教師のみが思考ツールの記入結果を見ることができるようにしたことで、安心して今の自分自身を見つめる姿が見られた。

● 「これからの僕」について、どうしてそう思ったかの意見を振り返りの助けとするために板書したが、次々と意見が多く出たため、時間を費やしすぎてしまった。



<思考ツールの数直線>



<交流の様子>

(2) 授業の終末の振り返りについて

○ 「テーマについて、今日の授業を通して、誰のどんな発言のおかげで、どのようなことを学べたのか。」と問い、ワークシートに記入することを積み重ねてきたことで、気になる発言をうなずきながら聴いたり、メモをしたりする生徒が増えた。

また、記入の時間を十分に確保したことで、生徒は1時間の授業を振り返り、言葉を選んで記述するようになった。じっくりと自分と向き合い、多面的・多角的な考えに発展させることで自己の生き方を深める一助となった。

● 振り返りとして、記入と発表の時間を15分設定していたが、思いの外、挙手発表が多く、時間が確保できなかった。教材を事前に読ませておくなど、タイムマネジメントの工夫が必要である。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

○ 「今日の授業を通して、誰のどんな発言のおかげで、どのようなことを学べたのか。」をワークシートに記入したことで、次の観点で評価に生かすことができた。

- ・「自己評価として」：ワークシートを累積し、生徒自身が自分の成長を振り返る。
- ・「生徒同士で」：相互承認活動として、記入を読み合い、互いにコメントを伝える。
- ・「教師から生徒へ」：生徒の学びを肯定的に受け止め、具体的な言葉でフィードバックする。
- ・「教師間で」：ワークシートを読み合い、生徒理解と自身の指導力向上の気づきとする。

● 長期的な蓄積を見越しての成長カード（ポートフォリオ）など、1年を通して累積できる仕組みづくりが必要である。

● 課題解決的な内容、感動的な内容など、教材の特徴に応じた評価方法の研究・研鑽を積む必要がある。

矢吹町立三神小学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和7年10月21日（火）第4校時

授業者：矢吹町三神小学校 教諭 木村 美和子

授業テーマ	主人公の気持ちを役割演技で考える活動を通して、困っている人を「何とかしたい」と思う気持ちに共感し、相手の喜びが自分の喜びにつながることに気づき、身近な人に親切にしようとする道徳的心情を育てる授業
-------	---

1 主題名 やさしい心 B親切、思いやり

2 教材名 とくべつなたからもの(出典:小学どうとくゆたかなこころ2年 光文書院)

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について(価値観)

本主題は、低学年の内容項目B(7)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」をねらいとしている。困っている人を見ると、「何とかしたい」「助けたい」という心がわいてくる。この相手の気持ちを自分のことに置き換えて推し量り、相手によかれと思う気持ちが思いやりであり、この心が様々な行動となって表れるのが親切である。このような相手のことを親身に考えようとする心情を育てたい。

(2)児童の実態(子ども観)

本学級は、児童数19名の学級である。学校生活において、同学年や異学年の友達との関わりの中で、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになっており、相手に対して思いやりの心を持ち、親切にすることが大切であることは理解している。また、道徳科の授業においても、思いやりや親切な行動のよさについて指導しており、学校生活においても困っている友達がいると、助けようとする姿が多く見られる。しかし、相手が困っていることに気付かなかったり、自己中心的な部分も多く、相手の気持ちまで考えずに行動したりすることも多々ある。

(3)教材及び指導について(教材観及び指導観)

本教材は、くまが困っているねずみの子に出会い、自分のできることを一生懸命に考えて実行するという話である。自分が拾い集めた宝物を捨て、そのかばんにねずみの子を入れて助け出すくまの姿。くまが自分のために捨てた宝物の中から一つのどんぐりを拾い、ねずみの子がお礼を言ってそのどんぐりをくまに差し出す場面。そして、「これはとくべつなたからもの」と喜ぶくまの姿などから、親切、思いやりのよさを十分に感じることができる教材である。

指導にあたっては、導入で、「周りの人に優しくしている人を見たことはありますか。」「優しくする人は、どんな気持ちになって優しくするのだろうか。」の事前アンケートの結果を提示し、問題意識を持たせる。ねずみの子を助ける時のくまの気持ちについて役割演技を通して考えることで、困っているねずみの子を放っておけなかったくまの心に気付かせる。また、助けた後のくまの気持ちを考えることで、親切にすることで得る心地よさや清々しい気持ちに共感させたい。更に、なぜ「特別な宝物」になったのかを考えさせることで、親切な行為がもたらす互いの喜びや温かい関係についても気付かせ、相手の立場に立って親切にしようとする道徳的心情を育てたい。

4 本時のねらい

困っているねずみを助けるくまの気持ちを考える活動を通して、困っている人を「何とかしたい」と思う気持ちに共感し、相手の喜びが自分の喜びにつながることに気づき、身近な人に親切にしようとする道徳的心情を育てる。

5 板書計画(実際の板書)



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価の視点
<p>1 事前アンケートの結果から、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 周りの人に優しくしている人を見たことがありますか。 ○ 優しくする人はどんな気持ちになって優しくするのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っているから助けてあげよう。 ・ 助けないとかわいそう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">やさしくする人は、どんな気もちなのかな。</div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童が回答した事前アンケートの結果を視覚的に分かりやすく表すことで、学級全体の傾向を児童が捉えることができるようにする。 ○ 「優しくする人はどんな気持ちになって優しくしているのか」を共有し、問題意識を高めることができるようにする。
<p>2 教材文を読んで考える。</p> <p>(1)「とくべつなたからもの」の話を聞く。</p> <p>(2) くまの気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ママに作ってもらったかばんがぴかぴかのどんぐりでいっぱいになっているのを見たくまは、どんな気持ちだったのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ママにかばんを作ってもらってうれしい。 ・ たくさんどんぐりが集められてよかった。 ◎ くまは、どんな気持ちになって「ええい。」と宝物を捨てたのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宝物も捨てたくないけど、ねずみくんを助きたい。 ・ 助けなくちゃ、かわいそう。 ・ ねずみを助けるには宝物を捨てるしかない。 <ul style="list-style-type: none"> ○ くまは、どうして「一つでもこれはとくべつなたからものなんだ。」と思えたのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ねずみくんが持ってきてくれたたった1つの宝物だから。 ・ ねずみくんのありがたうの気持ちがこもったどんぐりだから。 ・ ねずみくんのごめんねという気持ちがこもっているから。 	<p>30 (5)</p> <p>(5)</p> <p>(10)</p> <p>(10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 範読に入る前に、登場人物を確認し、2枚目までの挿絵を提示することで内容に関心を持たせる。 ○ ママに作ってもらったかばんにどんぐりが入っていることに対するくまの喜びに共感させられるように、教師が作ったかばんを提示し、くまの気持ちを引き出すようにする。 ○ くまが助けたときの状況を確認し、ねずみをどんなふうに助けたか押さえる。 ○ くまが「ええい。」と宝物を捨てる前に、どんな気持ちになったのか役割演技をしながら考える。その際、教科書にない心の声を付け足して話してもよいことを伝える。 ○ 全体の話し合いでは、自分の宝物も大事だということに共感しつつ、宝物を捨ててまで、ねずみを何とかしたいというくまの思いやりの心に気付かせる。 ○ 助けた後のくまの気持ちについても押さえる。 ※ 親切にすることのよさが分かり、友達の考えと比べ、多面的・多角的に考えているか。(発言・表情) ○ 1つのどんぐりは、ねずみが持ってきたどんぐりであることを確認する。 ○ 1つのどんぐりは初めの宝物と何が違うのか考えさせることで、特別の意味について考えられるようにする。 ○ 1つのどんぐりをそっと握り、くまに差し出したねずみの気持ちやそれをももらったくまの気持ちを考え、ノートにまとめさせ、親切にすると相手だけではなく、自分もいい気持ちになることに気付くことができるようにする。
<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>(1) これまでの自分を振り返り、自分の生活を見つめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 迷ったけど、優しくできたことはあったかな。その時どんな気持ちになったかな。 ○ 優しくしようと思い、できなかったことはあったかな。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの経験を振り返り、親切な行為の後の心情に気付き、ノートにまとめ、生活の中で実践しようとする意欲につなげることができるようにする。 ※ 自分の生活を見つめ、振り返り、親切にすることの心地よさに気付き、考えを深めているか。(記述・発言)

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「自己を見つめるための工夫」について

- 導入において、事前アンケートの結果を提示することで、本時の学習内容と自己を重ねて考えさせ、課題把握へとスムーズにつなげることができた。
- 教材文に入る前に、話の内容を挿絵で簡単に確認し、視点を与えることにより、登場人物の気持ちを考えることに焦点化することができた。
- 役割演技でくまの気持ちに焦点を当てて考えさせることはできたが、展開に時間がかかってしまい、振り返りの時間を十分に取ることができなかった。学習活動をより精選すると共に、自己を振り返る時間を確保していきたい。



〈役割演技で気持ちを考える〉

(2) 「多面的、多角的に考えることができる話し合い活動の工夫」について

- 全員がくまの役割演技を行い、くまの気持ちをトリオトークで考えさせたことで、発表することが難しい児童も発言することができた。さらにその後、全体で話し合うことで、くまが大切な宝物を捨ててまでもねずみを助けたい気持ちに気付くことができた。
- 役割演技によって、ねずみを助けたくまの気持ちを考えさせた。ママに作ってもらったかばん、お面、ねずみが落ちた穴などの具体物を実際に用意し、その時の状況や気持ちをイメージしやすくしたことで、くまの気持ちを考えさせるのに効果的であった。
- トリオトークの際に、役割演技をした児童の様子から児童同士が考えたことについて自由に話をさせてもよかった。教師が関わりすぎてしまい、児童の自由な発言を妨げてしまった。



〈トリオトークで考える〉

(3) 「考えを深めることができる発問の工夫」について

- 児童の発言に対し、「それはどういうことかな」「○○君の言っていること分かるかな」等の問い返しを行い、更なる発言を促したことで、考えを深めたり、一人の考えを多くの児童へ広げたりすることができた。
- 話し合いの中で、「穴に落ちているねずみをそのままにしていたら、死んでしまう。」と捉えてしまう児童が多かった。そのため、『宝物を捨てる』か『ねずみを助けるか』の心の葛藤で、くまの思いやりの気持ちを引き出したかった。しかし、児童は、『もの』よりも『1つの命』が大切だからねずみを助ける」という考えになってしまい、「生命の尊さ」について深く考え始める子どもの姿が見られた。「じゃあ、命が関わっていなかったら、助けないのかな」等と教師が問い返しをし、子どもの考えを大切にしながら話し合いの軌道修正を図ることができればよかった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 授業の中での発言やノート、ワークシートへの記述を中心に評価をしてきた。その中で、児童一人一人の学びや成長を認めながら、受容的、共感的な姿勢で受け止めるようにすることを大切にしてきた。他教科ではなかなか発言できなかった児童も、道徳の時間は自信を持って自分の考えを発言できるようになってきた。また、授業で学んだ道徳的価値の高まりが日常生活において見られたときは、必ず称賛するようにし、道徳性の高まりを児童自身が実感できるようにしてきた。
- 毎時間、振り返りの時間が短くなってしまおうという反省がある。振り返りの時間の確保を意識していきたい。

6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
<p>1 法やきまりについての意義を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ きまりは何のためにあるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の身をまもるもの。 ・トラブルが起きないため。 ・ みんなが気持ちよく生活するため。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人によって法やきまりに関する考え方が違うことを捉えられるようにする。
<p>2 教材「二通の手紙」を読み、簡単に内容を振り返る。</p> <p>3 教師の話の聞き、自分だったらどうするかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入園時間が数分過ぎて入場門が閉まった後に来た客に対し、自分ならどのように対応するか色カードで意思表示する。 <p>4 「元さん」はどんな人だろうか。ペアインタビュー(ホットシーティング)を用いて体験的な活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで役割を決め架空のインタビューをする。 ○ 全体で行って意見を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ動物園にいられたのか。 ・ 子どもが見つからず、事務所の中で待っている時はどんなことを思っていた？ ・ 動物園のきまりはなんのためにあるの？ ○ 役割演技をしてみてどうだったか答える。 <p>5 ◎ 二通の手紙を見比べた元さんが、この年になって初めて考えさせられたこととは、どんなことだろうか。道徳ノートへ自分の考えを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がルールを破ったせいで子ども達を危険な目に遭わせてしまったから。 	8 3 1 5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人が主体的に考えるように青色と赤色のカードを利用する。開ける人は青色カード、開けない人は赤色カードとする。(人間理解) ○ なぜそのように選択したのかを理由を聞き、多角的な考えに触れることができるようにする。 ○ 教師が役割演技の模範をし、ねらいから外れた発問を生徒がしないよう事前に説明する。 ○ 元さんのその時の思いや人柄が伝わってくるようなインタビューをする。 ○ 自分の考えをふりかえることができるように、生徒へ揺さぶりをかける。(他者理解) ○ 多角的に考えるために、子ども達が無事発見された後の元さんと2通の手紙をもらった後の元さんとを比較する。 ○ より物語を自分事として深く考えることができるように、ペア→全体で共有し、元さんの立場や背景を明確にする。 ※ 2つの場面の元さんの思いを比較することで、きまりについて、多面的・多角的に考えているか。(観察・発言) ○ 班で共有し、その後、教師が意図的に班を選び、全体で意見交換する。その後、その意見を聴き改めてどのように考えたのか発表することができるようにする。 ○ 適宜問い返しをする。「結果が良ければきまりを破ってもよいのか」「きまりはなぜ厳しくつくられているのか」
<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ この教材を通してきまりについてどのようなことを感じたか道徳ノートに記入する。 ○ ノートに書いたことを発表する。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの笑顔や夢、幸福こそ元さんが大切にしていたことであり、それを守るためにきまりがある二通の手紙がなくなつたものであることに気付くことができるようにする。(価値理解) ※ 思いやりの心ときまりを守ることの大切さについて自分自身を見つめ考えているか。(記述)

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「自己を見つめるための工夫」について

- はじめに法やきまりの意義について考えさせることで、本時の内容について、テーマや「元さん」の行いをもとにしながら、道徳的価値の理解につなげることができた。
- ペアで役割演技を行うことで、自分の考えをより明確にし、「元さん」の思いについて、考えさせることができた。
- カードを使って自分の考えを提示する場面では、机の上に置いたままではなく、頭上に上げさせることで、自分の意思表示を全体に共有することができた。



〈ペアインタビュー
(ホットシーティング)〉

(2) 「他者の考えに触れさせる活動の工夫」について

- カードを用いて、考えを可視化させたことで、自分と他者との考えに気づき、他者理解につなげることができた。
- ペアでの活動の後に全体でホットシーティングを用い、体験的な活動を行うことで、自分の考えを明確にするだけでなく、多様な考えに触れ、さらに自分の考えを深めることにつなげることができた。
- 1人の生徒だけがホットシートに座るのではなく、複数の生徒がホットシーティングを行い、他者の考えに触れる機会を意図的に設けることで、多面的・多角的に考えることができた。
- 時間があるのであれば、複数の生徒が「元さん」の役を行うと、多くの考えに触れることができたと考える。

(3) 「考えを深めるための発問の工夫」について

- 「元さん」の思いやりときまりの大切さを対比し考えさせることで、多面的・多角的な考えにつながり、生徒の考えが深まった。はじめは、「自分が責任をとれば、きまりを破っても仕方ない」「姉弟が喜んでくれたなら良かった」と考えていた生徒も、発問による揺さぶりによって、やはり「どんなことがあってもきまりを守らなければならない」という考えをもち、道徳的価値を深めていくことができた。
- 問い返しの内容が道徳的価値を自分事として捉えることにつながらなかった。さらに発問による問い返しの精選が必要である。



〈ホットシーティング〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- ノートの記述のみの評価ではなく、ペアや集団での生徒の関わりを教師が見取り、ひとりひとりのよさを価値づけられるように意識してきた。
- まとめとして、ノートに記述させた後、教師が励ますコメントを残すことで、生徒自身がこれからの生活をよりよくしていこうという気持ちを高めることにつながった。
- 授業の中で、振り返りの時間を十分に確保できないことがあった。一人一人が十分に振り返りできるよう、発問の仕方やグループ活動などでの時間の配分を工夫していく必要がある。全教員で道徳科の授業をローテーションで行っていくからこそこの課題であると感じた。
- 蓄積された振り返りを今後どのように活用し、どう評価していくかが大きな課題となる。来年度以降、評価の視点について、全体でのさらなる共有が必要である。

相馬総合高等学校 第1学年「産業社会と人間」指導の実際と考察

日時 令和7年10月17日(金) 第3・4校時

授業者 第1学年 白川大智 太田和花 鈴木智恵 渡邊陸
古川叶梧 関根真穂 菊池あかね 佐々木実優
倉戸公大 永岡久里子 石山博恵

授業テーマ	地域の職業人にインタビューを行い、内容を振り返ることで、自身の職業選択に役立てるとともに、他者の生き方を見つめ、人間としての在り方生き方について考えることができる授業
-------	---

1 単元名 大人インタビュー

2 単元の目標

- (1) 職業に関する知識や勤労の意義について理解するとともに、社会と関わる概念を形成し、将来を見据えた選択や行動ができる。【知識及び技能】
- (2) インタビューを通して情報を集め、回答を整理・分析し、自分と比較しながら在り方生き方を考察し、それらをまとめ、表現することができる。【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 自分の価値観の変容を捉え、生涯にわたって在り方生き方を探究し続ける態度や、社会に積極的に寄与しようとする。【学びに向かう力・人間性等】

3 単元設定の理由

(1) 教科及び単元について

「産業社会と人間」は総合学科の必修科目として1年次に実施され、1学期は「自分を知る」「他者を知る」をテーマに、自分を紹介する「自分のトリセツ」や「ノートテイク」「アサーティブトレーニング」などを通して、相互理解やコミュニケーション能力を育成した。また、「プレ大人インタビュー」で身近な大人の職業選択や人生の経験を学んだ。2学期の「大人インタビュー」では、職業選択の理由、心構え、困難への対処、東日本大震災の経験などを聞き、地域で働く大人の生き方を知ることで、自分の将来像や地域で生きる意味を考えられるようにしている。3学期はその学びを基に人生設計を行う「ライフプラン」につなげ、人間としての在り方・生き方について考えを深める。

(2) 生徒の実態について

本校の生徒は自ら科目を選択しているが、将来を見据えた選択や興味・関心による選択など多様である。地域貢献活動に積極的な生徒がいる一方、職業理解が不十分で進路に迷う生徒も少なくない。2学年の探究活動では地域課題に取り組む生徒もいるが、多くは校内の同世代との関わりにとどまっている。卒業後は他県進学が多いものの「将来は地元に戻りたい」という思いも見られる。1学年には明るく素直で積極的にコミュニケーションをとる生徒が多く、「産業社会と人間」や探究の授業を通して、地域の大人との交流や震災・復興の学びを深めることで、職業観だけでなく人としての生き方や地域で生きる意味を考えられるようにしていきたい。

(3) 教材及び指導について(教材観及び指導観)

まず情報共有を行い、その後に改めて地域の大人の生き方について考えていく。東日本大震災の被害を乗り越え、復興を目指してきた大人たちが働く上や生きていく上で大切にしていることを考えることで、自分の生き方の軸となるものは何か、改めて考えることができるようにする。なお、振り返りを共有したいため、1学年全体で同時に授業を行い、ICT機器を活用してオンライン形式を取り入れる。

4 中学校道徳科の内容項目との関連

「D よりよく生きる喜び」

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

5 本時のねらい

地域の職業人にインタビューを行い、内容を振り返ることで、自身の職業選択に役立てるとともに、他者の生き方を見つめ、人間としての在り方生き方について考えることができる。

6 学習指導過程（45分×2コマ）

学習活動・内容（・予想される生徒の反応）	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
1 本時の学習テーマをつかむ。 相双地域で働く大人のかっこよいところは？	7	○ 単元の目的に立ち返りながら大人インタビューを振り返ることで、相双地区で働く人々の思いや魅力に焦点化し、本時の問いを見いだすことができるようにする。
2 職業ごとに情報を共有・整理する。 ○「なぜそこがかっこよいと思ったのか」を考える。 ・震災等の困難に立ち向かっているから ・失敗しても成長しているから 等	20	○ 生徒が取り上げたエピソードに対し、なぜそこに魅力を感じたのか問い返すことで、インタビューでは表面化しなかった内面的な魅力まで考察できるようにする。
3 異業種間で、情報を共有・整理する。 (1) 異なる業種間で情報を共有する。 (2) 他班の情報を持ち帰り、共有する。	18	○ 表面的なキーワードだけでなく、根拠となる具体的なエピソードを踏まえて共有するよう助言する。
4 相双地域で働く大人のかっこいいところについて話し合う。 ・「やりがい」を感じている人は多いけれど、どこにやりがいを感じているかは職業によって違う ・困難に立ち向かう、という点では共通しているね 等	15	○ 共通するキーワードについて、他班の挙げた理由やエピソードにも触れ、そのキーワードを多面的・多角的な視点から捉えられるようにする。 ※ 自分の班と他班の比較をとおして、自分たちなりに考えた「相双地域で働く大人のかっこよいところ」をまとめているか。 (ワークシート記述)
5 他学級と情報を共有する。 (1) 各クラス1班程度、相双地域で働く大人のかっこいいところを発表し合う。 (2) 探究図書部主任より「おもひの木」について紹介し、問いかける。 ○ 相双地域で働く大人たちの「思い」の根っこには何があると思うか。 ・あきらめない心 ・みんなのために働く ・困難があってもチャレンジ ○ あなた自身が大切にしたい軸は何か。	25	○ 教室により業種の偏りがあることに配慮し、より多様な業種のかっこよさについて視野を広げることができるようにする。 (オンラインで他教室とつなぐ) ○ 教室を超えて共有された大人のかっこよさについて、それらの背景にある共通性に着目できるようにする。また、学年内における少数意見に焦点化し、新たな価値観を見いだすことができるよう配慮する。 ※ これまでの体験を踏まえながら、自分の言葉で大切にしたい軸が語られているか。 (発言・発表)
6 本時の内容を振り返る。 ○ 班内で書いたことを共有する。	5	○ 自分を再び見つめ直し、自己の在り方生き方を探究し続けたいという意欲が喚起されるよう配慮する。

7 板書計画（スクリーンに表示）

「相双地域で働く大人のカッコいいところ」は？

【予想される反応】

- ・人のために働く
- ・震災などの困難に立ち向かっている
- ・難しいと思ってあきらめない
- ・失敗しても成長している

人のために働く	震災などの困難に立ち向かっている	難しいと思ってもあきらめない
失敗しても成長している	〇〇さん (相馬市役所)	誰でも出来ることも誰よりがんばる
行事にも全かご取り組んでいる	誰に對しても公平に接する	何があっても常に笑顔と能くはない

自分自身が大切にしていきたい「軸」は？

【予想される反応】

- ・何があってもあきらめない
- ・みんなのために働く
- ・困難があってもチャレンジする

8 考察

自己を見つめ、深い学びを実践する視点から

(1) 「自己を見つめる場の設定」について

- 相双地区で働く大人の「かっこよさ」を探るという学習課題に対し、マンダラチャートを活用することで、具体的かつ、多様な捉え方につなげることができた。
- インタビューの振り返りの部分に時間がかかり、これから自分自身が大切にしていきたい「軸」について考える時間を十分に確保することができなかった。



〈マンダラチャート作成の様子〉

(2) 「深い学びを実践する場の設定」について

- 教員がグループワークにおいて「深める・まとめる・広げる」の三つを意識しながら話し合いのファシリテーションをすることによって内面のよさに着目して思考の深化を図ることができた。また、同時にインタビューした生徒にしかわからないその人自身のオリジナリティに着目するよう言葉かけをすることによってより多様な意見が形成された。
- まず実際の人間と自分の中の既存の価値観を結び付け、次に自分自身のこれからの生き方について考える活動を段階的に設定した。授業の後半ではワールドカフェ形式で他の班の意見を聞いたり業種の異なる他クラスの意見を聞いたりする過程で多面的・多角的な意見に触れることができた。視野を広げたうえで内省する時間を設けることで「相双地域で働く大人のかっこよいところ」と自分自身が大切にしていきたい「軸」の有機的なつながりを感じながら考えを深めることができた。
- 「大人インタビュー」において失敗したエピソードを質問していた班があったが、そこからかっこよさを見いだす班が少なかった。より多様な意見の形成という観点で教員がもっと失敗した中にあるかっこよさにも着目するように言葉かけをするべきであった。



〈ワールドカフェの様子〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 他者との意見交換はあくまで自分の思考を深めるための材料であることを強調した上で自分自身が大切にしていきたい「軸」について考えるように指導した。このことによってどの価値観に重きを置くかは生徒個人に委ねることができたと考える。生徒は「周りの人から支えてもらっていることを忘れず、感謝の気持ちを大切にしたい」や「他人に優しく、自分にちょっと厳しくしたい」など様々な観点から「軸」を考え出していた。
- 振り返りの際に「今までの自分」と「これからの自分」という視点を与え、今後の自分の生き方の軸になる部分を考える時間を設けたことで、子どもたちは相双地区の働く大人たちの生き方から、明日からの生活に生かせる学びへとつなげることができた。
- 時間の都合上全ての生徒が考えた「軸」についてファシリテーションをすることができなかった。教員の生徒に対する言葉かけをさらに工夫しながら思考の整理や価値の再解釈を行い、生徒自身が学んだことに価値を見いだせるようにしていきたい。

伊達小学校第5学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和7年11月10日（月）第3校時
授業者：伊達市立伊達小学校 教諭 門馬経宏

授業テーマ	辛い状況を乗り越えたときの気持ちを考え、自己の振り返りをするこ とで、仲間と協力し合い、よりよい学校をつくろうとする道徳的心情を 育てる授業
-------	--

- 1 主題名 学校の一員として Cよりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 教材名 ぼくたちの学校（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

高学年の「よりよい学校生活・集団生活」の内容項目は、「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること」である。高学年の一員として係活動や児童会、クラブ、異年齢集団といった下級生のために取り組んでいる活動が、学校を支える大切な活動だということを感じ、さらに仲間と協力し合って、よりよい学校をつくりたいという思いを高めることが重要である。

(2) 児童の実態（子ども観）

4月に高学年となった児童は、係活動の他に委員会活動も行うようになり、10月になった現在も、気持ちを新たに活動している。2学期に入ってから委員会活動では、活動に慣れ、がんばっているという振り返りがある反面、37%の児童から「うっかり当番日を忘れてしまったことがある」「遅れていたら活動が終わっていたことがあった」などの反省があげられていた。集団の一員としての自覚や学校生活をより豊かなものにしていこうとする意欲は高まっているものの、その具現に向けて一歩を踏み出せないもどかしさや迷いを感じていると考えられる。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

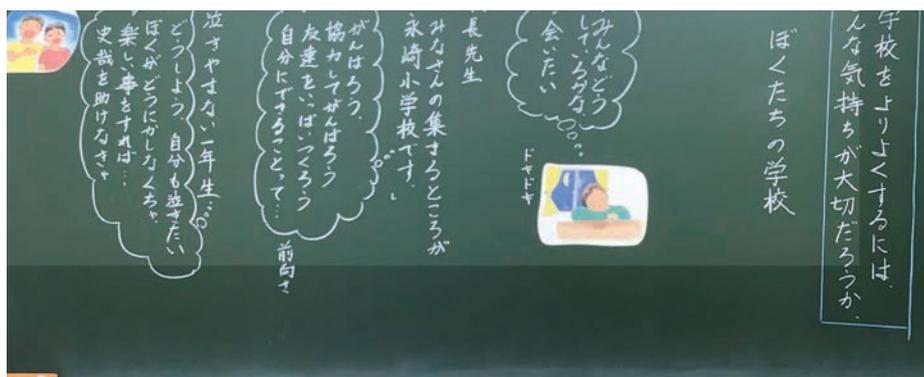
本教材は、地震や津波によって学校が壊れてしまい、学校に通えなくなってしまう不安や、友達と会えない寂しさを抱えた子ども達の姿が描かれている。様々な人々の助けを受けて間借りした学校に通えるようになったものの、慣れない環境での生活に泣き出す下級生を目の前にして、6年生の自分のできることをひたむきに考え、校歌を歌うことや学校を思う意味に気付いていく話である。登場人物の思いや役割、一人一人がよりよい学校をつくっていくという思いをもつことのよさに気付くことができる教材である。

本時では、導入で提示する事前アンケートの結果をきっかけにして、仮設校舎の生活を振り返ることで、ねらいとする価値への方向付けを図る。展開では、震災により一変してしまった生活で、常にストレスを抱えている主人公が、始業式での校長先生の話やバスの中で校歌を歌った時に感じた気持ちを考えることで、みんなでも協力し合って母校と呼ばれるよりよい学校をつくっていくという思いをもつことができるようにする。

4 本時のねらい

学校や居住地が被災し、しずんだ雰囲気の中、励まし合い、協力して乗り越えていく主人公の気持ちを考える活動を通して、仲間と協力し合って自分達でよりよい学校をつくろうとする道徳的心情を育てる。

5 実際の板書



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価の視点
<p>1 本時の学習テーマをつかむ</p> <p>(1) 高学年として学校のためにしていることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会活動 ・ 下級生と休み時間に遊ぶ ・ 学校行事の係をがんばる ・ あいさつを忘れない <p>(2) 学習テーマをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学校をよりよくするためには、 どんな気持ちが必要なのだろう。</p> </div>	10	<p>○ アンケートの結果を伝え、子どもの回答を掲示し、理由や経験について問いかけ、自分や友達の取みについて話し合う。</p> <p>○ 日々の取組を称賛しつつ、「どんな気持ちを込めているのか」「いつも気持ちを込めているのか」と問うことで本時のねらいとする価値への方向付けを図ることができるようにする。</p>
<p>2 教材文を読み、話し合う。</p> <p>○ 校長先生の話聞いた時の史哉はどんな気持ちなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分だって辛い。 ・ みんなのために何かしたい。 ・ 永崎小のためにできることは。 ・ どうすればいいかわからない。 <p>◎ 泣き止まない下級生を前にした時史哉とゆうはどんな気持ちなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困っている史哉を助けてたい。 ・ 一年生を泣き止ませたい。 ・ 全力で力を合わせるとうれしくなる。 <p>○ 季節が変わっても、バスの中で校歌を歌っている史哉はどんな気持ちなのか。</p>	25	<p>○ 教材文を読む前に、被災した永崎小学校の状況や登場人物達が置かれている環境を説明し、不安感や孤独感を想像することができるようにする。</p> <p>○ 校長先生の言葉を聞いた史哉は、不安と期待が入り交じった心境がありながらも前向きな気持ちになってきたことに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 高学年として何とかしたいと必死になっている史哉の心情と、史哉を助けてみんなの気持ちを一つにしようとするゆうの気持ちを考えることで、一人一人ができることをやっというと思う大切さに気付くことができるようにする。</p> <p>※ よりよい学校生活をつくりあげるために大切な思いについて、友達の考えをきっかけに、自分の考えを深めているか。(つぶやき・表情・記述・発表)</p> <p>○ 季節が変わっても毎日校歌を歌って登下校する史哉の姿から、学校や子ども達の様子、校歌を歌い続ける理由を話し合う。その中で、よりよい学校をつくろうとする前向きな思いについて考えることができるようにする。</p>
<p>3 学習を振り返り、自己を見つめる。</p> <p>(1) これまでの自分を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学校のために取り組んできたことと気持ちを振り返りましょう。 ○ どんな気持ちを大切にしたいですか。 <p>(2) 教師の説話を聞く。</p>	10	<p>○ アンケート結果を振り返り、「これまでの生活で行ってきたことと気持ちはどうだったか」と問いかけ考える時間を確保する。</p> <p>※ これまでの自分の生活や経験を振り返りながら、これからの学校生活で大切にしたい気持ちについて考えているか。(記述・発表)</p> <p>○ 教師の説話により、本時の学びをこれからの生活につなげることができるようにする。</p>

「ふくしま道徳教育資料集」等の活用の視点から

(1) 「主題の重視と中心発問の吟味」について

- 高学年として何とか場を収めようと焦る主人公の気持ちと、困っている主人公を助けようとする友人の気持ちを考えることで、一人一人ができることをやっていこうとする気持ちの大切さに気付くことができた。
- 中心発問で考えることを主題名と関連付けることで、本教材を通して考えることが明確になり発問の精選につながった。教材について考えていく中で、よりよい学校をつくるために自分自身の役割を自覚することの大切さに気付く児童の姿が見られた。また、みんなのために、学校のために自分に何ができるのかを考えて実践することが、校風（伝統）を引き継いでいくことになるということを実感できたようであった。
- 一読では教材の内容を理解できない児童が多かったため、中心発問で道徳的価値について一人一人の考えを深めることが難しかった。東日本大震災を扱う教材については、背景等、丁寧に説明することで、児童が登場人物に共感できるような工夫が必要であると感じた。
- 協力し合ってよりよい学校をつくることについての考えを深めるために、中心発問に対する児童の反応を予想し、揺さぶりや問い返しを準備しておく必要があった。

(2) 「教師のコーディネート工夫」について

- 泣き止まない1年生を前にした主人公の思いについて、ワークシートに書かれた児童の考えを見取り、多様な考え方に触れさせるために意図的指名を行った。その際、「自分だって泣きたい」という考えを共有してから、「上級生として自分が何とかしなければ」という考えを取り上げることで、本時でねらう道徳的価値に迫ることができるようにした。
- 児童の発言を促すための補助発問が誘導的になってしまい、十分に多様な考えを引き出すことができなかった。友達の考えと自分の考えを客観視できる発問、ペアや小グループによる話合いの工夫が必要だった。

(3) 「自己を見つめることができる発問の工夫」について

- 自己を見つめる場面において、導入で提示したアンケート結果にもう一度触れ、これまでの自分がどうだったかをじっくり振り返ったことで、これからの学校生活で大切にしたい気持ちを考えることができた。



〈自己の振り返り〉

〈児童の振り返り〉

- 委員会や係などをなまけるのは上級生としてふさわしくないから、下級生のお手本となってまねしてほしいことをやる。だからなまけたりしない。
- 伊達小の子どもはあいさつが上手だと思ってほしいから、これからも登下校の時、地域の人に自分からあいさつをしたい。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- 自己の振り返りをワークシートに記述し累積することで、一人一人の考えや思いを見取れるようにした。また、振り返りにコメントを書くことで、児童のよりよく生きようとする思いを支えられるようにした。
- 文章表現の苦手な児童のために、8段階からなる振り返りメーターで視覚的に表せるようにしたが、児童の思いを見取ることは難しかった。

大槻中学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和7年11月10日（月） 第3校時
 授業者：郡山市立大槻中学校 教諭 永峯里恵子

授業テーマ	思いやりの連鎖が広がっていった実話の登場人物たちに思いを馳せることを通して、思いやりを行動で示すことの素晴らしさを実感し、自らもその思いを言動に表していこうとする道徳的実践意欲を育てる授業
-------	--

1 主題名 思いを形に B 思いやり、感謝

2 教材名 命のおにぎり（出典：ふくしま道徳教育資料集 第三集）

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学校の段階では、単に思いやりや感謝が大切であることだけではなく、相手の立場や気持ちに対する配慮、そして、感謝の対象の広がりについても理解を深めることが求められる。そこで、潤いのある人間関係を築く上で思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えることが、自分と友人、家族などの身近な人間関係だけでなく、見知らぬ人間同士の心の絆をも強くするということを実感するとともに思いを行動に表すことが、よりよく生きていく上でとても大切である。

(2)生徒の実態（子ども観）

文化祭など、さまざまな学校行事を通して協力して活動する機会を重ねる中で、生徒たちは互いの個性や持ち味を理解し合い、学級内における自分の居場所を見いだしつつある。相手への配慮が足りないがための自分本位な言動がなくなっているものの、欠席した生徒の代わりに係の仕事を進めるなど、互いに補い合う姿が多く見られるようになってきている。こうした思いやりのある行動に気づいて感謝の気持ちを伝えることや、人の気持ちは時と場合によって変化することを理解し、互いの心情を思いやる経験を積むことが今後さらに求められる。

(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、2014年2月16日に発生した大雪による国道の大渋滞の際に、原発事故の影響で仮設住宅に避難していた飯館村の住民たちが、立ち往生している車の運転手たちを見て、約300個のおにぎりを手作りし、雪をかき分けながら一つ一つ配って回ったという実話である。車内に長時間閉じ込められたドライバーの中に、空腹で意識を失いかけていた糖尿病患者がいて「あのおにぎりでも命を救われた」と感謝したことから「命のおにぎり」と新聞で報じられた。

この教材は、困っている他者への思いだけでなく、思いやりの連鎖が社会を温かくする力を持つことなど、目に見えない思いにも考えを広げられる力を持つ。

指導にあたっては、「米は富山県からの支援米だった」「広島県で紙芝居が作られた」「道徳の教科書に載った」などの行動を起こした人物への思いを想像させることで、思いやりの広がりのすばらしさを実感させたい。その後、『命のおにぎり』の話は、あなたにどんな思いを届けてくれたのでしょうか。」という発問で、生徒の考えを深めさせ、「日本には受けた恩を別の誰かに渡すという美德、『恩送り』の精神がある」ことを紹介して、生徒自身も「恩送り」に担い手であることの自覚化を図りたい。

4 本時のねらい

思いやりの連鎖が広がっていった実話の登場人物たちの思いを考える活動を通して、思いやりを行動で示すことの素晴らしさを実感し、自らもその思いを言動に表していこうとする道徳的実践意欲を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
<p>1 教材の概要を聞き、テーマを共有する。</p> <p>(1)「命のおにぎり」の概要と状況を話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思いを形にすることであなたの周りはどんな風に変化するでしょう</p> </div>	5	<p>○ 状況理解の助けとするために、渋滞時の写真を大型TVで見せながら、概要だけでなく飯舘村の人々の当時の状況についても補足説明をする。</p> <p>○ 思考の分散をさせず、教材へ引き込むねらいから、教師が疑問に思った事としてテーマを提示する。</p>
<p>2 教材を読んで考える。</p> <p>(1) 「命のおにぎり」を読む。</p> <p>(2) 登場人物の思いを想像する。</p> <p>○ 「おにぎりを届ける」までにどんな思いがあったと想像しますか。友達と意見交換して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ずっと停まっていて、お腹すいてないかな。 ・ 自分が多くの人に助けってもらったから、なにかできることはないかなと思った。 ・ 助けってもらったので恩返しできることはないかと思った。 ・ 最初から計画していたわけじゃないんじゃないかな。 ・ 数人で始めたことが広がっていたのかも。 <p>(3) テーマにせまる</p> <p>◎ 「命のおにぎり」の話は、あなたにどんな思いを届けてくれたのでしょうか。友達と対話して、自分にはない発見があったら紹介してください。</p> <p>○ 「日本には受けた恩を別の誰かに渡すという「恩送り」の精神」があります。あなたもすでに「恩送り」をしていますか。見つけてみて下さい。</p>	<p>32 (5)</p> <p>(14)</p> <p>(8)</p> <p>(5)</p>	<p>○ 内容理解の共有を図るために、生徒の様子を観察し、場合によって注釈を交えて範読する。</p> <p>○ 意見交換をしやすくするため、席を立っての自由対話とする。</p> <p>○ 生徒の想像力を刺激するために、状況について追発問での気づきを促す。そして、計画されていたことではなく、誰かの思いつきに賛同する人々の思いが、大きな力となったことに思いをめぐらせる。</p> <p>○ 対話が進まなそうな場合は、生徒の気づきを促すために補助発問等で、生徒に考える視点を与える。 (補助発問) 「避難当初は、炊き出しをしていた」 「先生は、渋滞を知っても、おにぎりを作ろうってすぐには行動できないかも・・・。」 「恩返しと思っても、自分たちも雪で大変だったし、300個作るって大変だよな。」</p> <p>○ 意見交換をしやすくするため、席を立っての自由対話とする。</p> <p>○ 個々の感性を相互に広げるために、理由も含めて自由に発表させる。</p> <p>○ 個々の気づきを広げるためにつぶやきを拾う。</p> <p>○ 発問の前に、追加の逸話「広島県で紙芝居が作られた」「道徳の教科書に載った」等を紹介し、納得解へ導く。</p> <p>※ 友達の考えを聴くことで、テーマについて多面的・多角的に考えているか。(発言)</p>
<p>3 本時の学びを振り返る。</p> <p>○ テーマについて、誰のどんな意見のおかげで、どんなことが学べたかをゆっくり思い出して書いてみましょう。時間は10分取ります。その後何人かに発表してもらいます。</p>	13	<p>○ 考えたことを発表させる。</p> <p>○ 自分の意見が級友のためになっていることを実感し、自己有用感がもてるようにするために、発表者と名前の挙がった生徒の両方への拍手を促す。</p> <p>※ テーマを自分事として捉え、考えを深めているか。(ワークシート・発言)</p>

7 考察

「ふくしま道徳教育資料集」等の活用の視点から

(1) 「自我関与を促し、生徒が自分事として学びに向かう工夫」について

- 教材のどこに着目し、生徒に何を考えさせるかを主眼に置き、テーマ（ねらい）を熟考することから授業を構想した。おにぎりをもたらした側の心情に焦点を当ててではなく、渋滞に気づいた飯舘村の方々がどのような思いを抱き、その思いがどのように行動へとつながったのかに着目することで、生徒自身が自分事として学びに向かえるのではないかと考えた。そのため、テーマは、「思いを形にすることであなたの周りにはどんな風に変化するか」とした。そして、状況理解を深め、登場人物の思いに寄り添うための方法としてロールプレイを取り入れた。活動の初めは言葉に詰まり困惑する様子が見られたが、状況理解が進むにつれて「何かできることあるかな」「そう言えば、もらったお米があったよね」「恩返ししたい」といった言葉を紡ぐ姿が見られ、登場人物の立場に寄り添いながら考えを深めていることが伝わってきた。



＜ロールプレイの様子＞

- 生徒の活発な話し合いが見られた。ワークシートに記入する時間と意見交換の時間で自分と向き合う時間を十分にとるためにも、生徒が簡潔に状況理解する方法や指示の出し方を熟考したい。

(2) 授業の終末の振り返りについて

- 「恩送り」を紹介し、身近な例として「いいね」を集めた学級掲示を示したことで、生徒は、自分たちが日々あたり前に行っていた行為のよさに気づき、自信を深めていた。



＜学級の掲示物を示す様子＞

- 定着してきた「誰のどんな意見のおかげで、どんなことが学べましたか」という振り返りに十分な時間を確保したことで、生徒は自分と向き合ってじっくりと考えを整理することができた。その結果、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めている姿が見られた。その後の発表では、発表者だけでなく名前が挙がった生徒も価値付けることで、自分の意見が級友の学びに役立っていることを実感し、自己有用感の高まりにつながった。
- 一見メモのような短い言葉の板書が、生徒の振り返りに生かされる場面も見られたため、今後は生徒のつぶやきも拾って板書していきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 自由対話の学習形態を取り入れたことで、生徒は安心して話し易くなり、活発な意見交換が行われた。友達の考えに触れる中で、自分の考えを深める姿が見られ、その成果が交流時の発言や振り返りの記述に表れていた。
- 発表が苦手な生徒であっても、十分な振り返りの時間を確保したことで、友達の考えを受け入れ、自分の生き方に生かそうとする記述が多く見られた。



＜自由対話の様子＞

- 東日本大震災を経験しない生徒たちが、語り継ぐ者としての責任を自覚できるようにするため、3月に「震災 Week」として震災に関する道徳の授業や集会を絶やさずに行っていく必要がある。

矢吹町立三神小学校第6学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和7年10月21日（火）第5校時
 授業者：矢吹町立三神小学校 教諭 米倉 紘之

授業テーマ	マナーを守る人の思いについて話し合う活動を通して、社会の一員としての自覚をもち、みんなが住みやすいよりよい社会をつくろうという道徳的実践意欲を育てる授業
-------	--

- 1 主題名 よりよい社会にするためには C 規則の尊重
- 2 教材名 外国からのメッセージ（出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集）
- 3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、高学年の内容項目C「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」をねらいとしている。規則は人が集団で生活する上で不可欠なものである。しかし児童の成長段階として、「規則は守るもの」という意識はあっても、そこに「自他の権利のため」「社会のため」という目的意識はまだ十分に育っていない。互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切という理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。

(2)児童の実態（子ども観）

本学級は児童数18名の学級である。最高学年となり、学校の規則についてはよく理解している。ロッカーの整理や整列など、言われなくても自主的に行う姿が見られ、規則が既に習慣化しているものもある。一方で6年生となり、学校全体のために行動することも多いが、その場合「これは6年生がやるもの」という意識で行うことが多く、「学校という社会のため」という思いをもって進んで取り組める児童は多くない。

(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

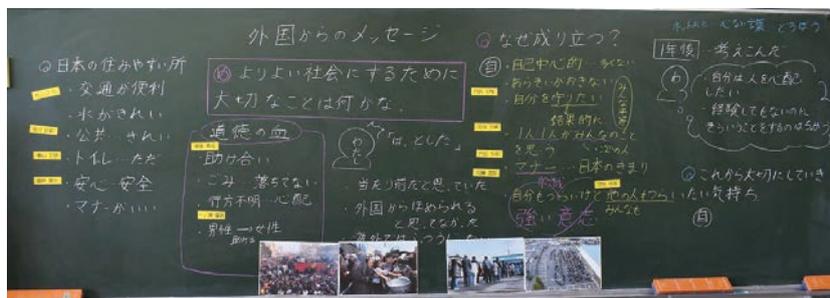
本教材は、被災した日本人の人々が冷静に落ち着いて行動していたことが外国でニュースに取り上げられたことから、自分達にとって当たり前となっている道徳性を再認識することができる。非常時においても人間らしく生きていくために何が大切なのかを考えさせるのに適した教材である。また、教材の終末には、避難地域での窃盗事件や福島県への誹謗中傷など、自分のことしか考えていない事例も取り上げられており、人間の弱さについても考えさせられる内容になっている。

指導に当たっては、これらの教材を通して、自分の権利ばかりを考えるのではなく、相手のことを考えることによってみんなが気持ちよく生活できるということに気付かせたい。また、より良い社会が何によって支えられているかについて考えることを通して、ルールやマナー、公德を守る原動力となる「みんなのために」という強い意志に気付かせていきたい。さらに、当たり前のように行っている「よりよい社会にするための行動」について、そこにある思いに目を向け、日本人として受け継がれてきた行動を受け継いでいこうとする意欲を高めていきたい。

4 本時のねらい

震災後にマナーを守る日本人の思いについて話し合う活動を通して、社会の一員としての自覚をもち、みんなが住みやすいよりよい社会をつくろうという道徳的実践意欲を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
<p>1 国のランキングから、日本の良さを考え、課題をつかむ。</p> <p>○ 日本という社会で住みやすいと感じるところはどこかな。</p> <p>・優しい人が多い。 ・安全。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>よりよい社会にするために大切なことは何か。</p> </div>	5	<p>○ 「世界最高の国ランキング」を紹介し、日本が2位であることを伝える。</p> <p>○ 世界2位になっている日本はどう住みやすいか意見を出し合う。ただし、海外に行ったことのある児童はほとんどいないため、「分からない」という意見も出てくると思われる。その意見を取り上げ、めあてにつなげていく。</p>
<p>2 教材文を読み、よりよい社会を作る人々のもつ心について考える。</p> <p>○ 『道徳の血』とはどんなものだったかな。</p> <p>・落ち着いた行動や冷静さ。</p> <p>・ご飯を受け取る時に整列して笑顔で「ありがとう」と言っていた。</p> <p>○ 「日本人の中には『道徳』という血が流れているのだと思う。」と言われて「わたし」がはっとしたのはどうしてかな。</p> <p>・当たり前のことだと思ったから。</p> <p>・驚かれることだと思っていたから。</p> <p>◎ どうして日本ではそうしたことが成り立つのかな。</p> <p>・自分のことだけでなく相手のことを考えているから。</p> <p>・みんながみんなのことを考えて行動しているから。</p> <p>○ 一年半後の考え込んでしまった「わたし」は、どうありたいと思っていたのかな。</p> <p>・ずっと続いてきた道徳の血を大切にしたい。</p> <p>・自分も道徳の血が流れる一人として、誇れる行動をしたい。</p>	<p>25</p> <p>(5)</p> <p>(5)</p> <p>(10)</p> <p>(5)</p>	<p>○ 震災の話題であることをおさえる。</p> <p>○ 教材文を読む前に、『道徳の血』という言葉の提示し、それがどのようなものか考えながら読むよう声をかける。</p> <p>○ まず『道徳の血』につながる行為を引き出し、それを支える心について考えるための足掛かりにする。</p> <p>○ 「はっとした」理由を考えることを通じて、教材文の「わたし」に共感しながら、自分達にとって当たり前のように感じる行為が、外国からは称賛されるようなことだったと気付けるようにする。</p> <p>○ 外国で物資に殺到する写真を提示して日本と比較し、なぜ日本のような社会が成立するかを考えることにより、一人一人が社会の一員として公德を守っていることに気付けるようにする。</p> <p>○ 自分達も震災の被害者で苦しい状況の中なのに、「マナーを守るのはなぜか」とゆさぶることで、マナーを守るための原動力となる強い意志について考え、価値理解に繋げたい。</p> <p>○ 個別に考えを書き、それをもとにトリオトークを行うことで多様な意見を出し合いながら多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>※ 当たり前に行っている行為について、その原動力となる強い意志に気付き、自分事として考えているか。(発言・記述)</p> <p>○ 「どうありたいか」を問うことで、「わたし」の思いについて考えることができるようにする。</p>
<p>3 自己の生活を振り返り、学んだことをまとめる。</p> <p>○ これからの自分達の生活でどんなことを心がけていきたいかな。</p> <p>○ 教師の説話を聞く。</p>	<p>15</p> <p>(10)</p> <p>(5)</p>	<p>○ これからの自分に目を向けて考えることで実践意欲につなげられるようにする。また、十分に書く時間を確保する。</p> <p>※ 社会の一員としての自覚をもち、みんなが住みやすいよりよい社会をつくらうという意欲を高めているか。(記述・発言)</p> <p>○ 今の6年生が当たり前を守っていることを紹介し、自分たちにも『道徳』の血が流れていることを伝える。</p>

「ふくしま道德教育資料集」等の活用の視点から

(1) 「自己を見つめ、深い学びを実現する道德科授業の工夫」について

- 終末の振り返りにおいて、「～の時は〇〇したい」といった行為の面ばかりにならないよう、「心がけたいこと」という心の中の思いについて問いかけた。それにより児童のノートの振り返りには表面的な行為ではない内面の言葉が多く見られた。
- 教材文についての発問が多く、自分の生活を振り返る時間が十分に確保できなかった。
- 今回は振り返りをした後に、担任から6年生の『道德の血』がながれている姿を紹介したが、その順番を逆にした方が「これから大切にしたい」という心を引き出せたかもしれないと感じた。



〈ノートへのふりかえり〉

(2) 「多面的・多角的に考えることができる話し合い活動の工夫」について

- 日本人の心について、自分の考えを書いた後にトリオトークを行うことで、複数の意見に触れて考えを深めることができた。似ている意見に共感し自信をもてたことが、全体共有の場での積極的な発言につながった。また、自分と違う意見に触れることで考えを深めることもできた。
- 日本人の心のよさについて考えたことに加え、泥棒や原発の誹謗中傷についても触れることで、人間の心の弱さについても捉えることができた。心の弱さについて、ただ否定するのではなく、なぜその行動をしてしまうのかを考えたことで、児童は道徳的価値を理解し、多面的・多角的に考えることができた。ふくしま道德教育資料集の「外国からのメッセージ」が、日本人の良さだけでなく、問題提起も取り上げていたからこそ、児童の多様な意見を引き出すことができた。



〈トリオトークで考える〉

- 写真資料は、戦争と災害という質の異なる内容であり、比較するのであれば災害の様子の写真がよかった。また、読み物教材に加えて、導入のランキングや写真教材といった複数の教材を用いたことで、児童の視点が「国際理解」や「生命尊重」、「思いやり」など、様々な価値項目へ広がりすぎてしまった。



〈ふくしま道德資料集の活用〉

(3) 「考えを深めることができる発問の工夫」について

- 以前の授業で、「マナーを守るのは当たり前」という意見は出ていたため、「なぜ日本ではマナーを守ることが当たり前という考えが成り立つのか」を主発問にした。それにより、相手のことを大切にする日本人の強い意志に気付くことができた。
- 教材文に関する最後の発問で、「どうありたいと思っていたか」という発問にすることで、本時のねらいである道徳的実践意欲に焦点化することができた。本学級は自分の思いを素直に表出することを苦手とする児童もいるが、教材の主人公に自分を重ねて考えることで、前向きな思いを一人一人がもつことができた。
- 教師が子どもに考えさせたい思いが多く、発問が多くなってしまった。そのため、一つ一つの発問に対する考える時間も短くなってしまった。何を中心に取り上げるかを吟味し、発問をより精選できるようにしたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 机間指導で児童の意見を受け止め励まし自信をもたせ、さらに問い返ししながら考えが深められるよう声をかけてきた。ノートへの記述コメントを返したことで、自分の思いを詳しく表現できるようになってきた。
- 導入の内容が終末の振り返りとつながっていなかったため、本時の中での児童の変化を捉えられなかった。終末とつながりのある導入の発問を取り入れるとよかった。

喜多方市立塩川中学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日時：令和7年10月8日（水）第5校時

授業者：喜多方市立塩川中学校 教諭 菊地 康

授業テーマ	どんなときでも、人は互いを思いやり、支え合いながら生活していることに気づき、身の回りの人々を思いやり、行動しようとする態度を育てる授業
-------	---

1 主題名 人の思いやりと感謝 B 思いやり、感謝

2 教材名 500人の大家族（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、思いやりの心をもって人と接すると共に、家族などの支えや多くの人の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝することである。中学生の時期は、思いやりや感謝は大切だと理解はできるが、支えられることをありがたいと思いつつも疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝える難しさを感じたりする時期でもある。だからこそ、相手の立場や気持ちに対する配慮や感謝の対象の広がりについて考えを深めていく必要がある。特に、思いやりの心と感謝の気持ちを素直に伝えようとする心を育てることで、日常生活だけでなく、東日本大震災のような非常時にも思いやりや感謝が広がると考えられる。

(2) 生徒の実態（生徒観）

本学級は、積極性がある生徒は少ないが、穏やかで他者を受け入れることができ、学習意欲も高い。積極的に発言しない生徒も、指名されれば自分の考えを述べるができる。全体としては和やかな雰囲気の中で道徳科の授業に取り組んでいる。さらに、友人を思いやる気持ちがあり、授業や係活動も協力して行うことができる。一方で、相手の気持ちに気づけず、嫌な思いをさせてしまう場面も見られる。思いやりの心と感謝の気持ちをつなげられるような心情や態度を育てていきたい。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、被害が少なかった会津の温泉旅館が東日本大震災の翌日から、浜通りの被災者を無償で受け入れた話である。原発事故もあり、多くの被災者が避難してくる中、主人公は兄と共に、父親の決断に不安をもっていた。しかし、同じ福島県に住む者が被災の大小に関わらず、相手を思いやりながら生きていく姿を目の当たりにし、自分もまた支えられている存在であることに気がつくのである。この教材では、父の決意を受け入れる主人公や兄の心情の変化から、思いやりの心が感謝の心につながっていくことを意識させたい。

4 本時のねらい

わたしと兄、父親の心情の変化に触れることで誰かへの思いやりの心が感謝につながり、生きる喜びにまでつながっていくことに気づかせ、身の回りの人々を思いやり、行動しようとする道徳的態度を育てる。

5 板書計画（実際の板書）

The board plan is a handwritten document on a chalkboard background. It features several sections of text and small illustrations of people. The main title is '人の思いやりと感謝' (Empathy and Gratitude). The text is organized into columns and sections, with arrows indicating a flow of thought. Key phrases include '見ず知らずの人を助けたことは?' (What are the things you helped unknown people with?), '被災した人ばかりじゃないぞ。自分たちも支えられている。' (It's not just people who were hit by disaster. We are also being supported.), and '「思いやり」と「感謝」とつながるにはどうすればいいか?' (How can 'empathy' and 'gratitude' be connected?). There are also smaller questions like '会話がきっかけだったのは?' (Was it the conversation that was the trigger?) and '兄と目が合ったとき私はどんな気持ち?' (What was my feeling when I met my brother's eyes?). The board is filled with handwritten notes, some in red and blue ink, and small drawings of a girl and a boy.

6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価の視点
<p>1 見ず知らずの人を助けたことがあるかを想起し、主題への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 落とし物を拾ってあげた。 ・ バスの中で席を譲ってあげた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <p>思いやりや感謝をつなぐには。</p> </div>	3	<p>○ 日常生活における場面を想起させ、本時のねらいとする価値への方向付けを図る。</p>
<p>2 範読を聞いて、教材について話し合う。</p> <p>(1) 登場人物を整理する。</p> <p>(2) ホットシーティング(ペアインタビュー)を活用して、父親と兄の思いについて考えさせる。</p> <p>(3) 父親の意見と兄の意見のどちらに近いかを考える。</p> <p>〈父の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜通りの人がかわいそう ・ 困ったときはお互い様 <p>〈兄の意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旅館がつぶれたら自分たちはどうすればいいの？ ・ どうしてそこまでするの？ <p>(4) 私の気持ちを揺り動かしたのは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おばあさん ・ 父の考え ・ 父と兄の会話 <p>◎ 兄と目が合ったとき、私はどんな気持ちになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私もがんばる ・ お互いがんばろう ・ 兄を見習いたい ・ みんなで乗り切ろう 	30	<p>○ 実際の津波による被害や避難した方々を受け入れた旅館の映像を見せ、父や兄の立場などについて考える。</p> <p>○ ペアで、被災者を無料で受け入れることについて、父親と兄の両方の立場からお互いの思いについて考えることができるようにする。</p> <p>○ 父の意見と兄の意見のどちらに近いかわかるように黒板の数直線上にネームプレートを貼り、他の人の考えと自分の考えを比較して考えることができるようにする。</p> <p>○ 友達の考えを聞き、自分の考えとの類似や相違を認めながら自分の考えをまとめることができるようにする。</p> <p>○ 兄の行動について、考えを共有することによって、多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>○ 意見を共有し合い、多面的・多角的な考えをもつことができるようにする。</p> <p>※ 自分と異なる立場や感じ方、考え方から多面的・多角的に考えているか。 (発表、観察)</p>
<p>3 自分たちの生活を振り返り、思いやりをつなぐにはどうしたらいいかを考える。</p> <p>(1) 見ず知らずの人に親切にしてどう思ったか話を聞く。</p> <p>(2) 「つなぐ」とはどういうことか話し合う。</p>	10	<p>○ 意見を尊重し合いながら、互いの考えを伝えたり、聞いたりするようにさせる。</p>
<p>4 今日の授業を振り返る。</p> <p>○ 自分自身の「思いやり」や「感謝」について考えを深める。</p>	7	<p>○ 今日の授業を振り返り、自分の考えの変化について振り返らせる。</p> <p>※ 今までの自分の生活を振り返りながら相手の立場や気持ちを考えたり、思いやりや感謝の大切さについて、自分の考えを深めたりしているか。 (ワークシート)</p>

7 考察

「ふくしま道徳教育資料集」等の活用の視点から

(1) 「自己を見つめるための工夫」について

- はじめにテーマを決めたことで生徒たちは、テーマに沿って、本時の内容について考えることができ、「思いやり」と「感謝」がどのようにつながっていくのかを考えることができた。
- ペアインタビュー（ホットシーティング）を行う際に、「父親」だけでなく、「兄」の思いにも触れることで、それぞれの思いを知り、自分の今までの行動を見つめるようにした。
- 父親の意見と兄の意見のどちらに近いかネームプレートを使って可視化することで、自分の考えに理由をもち、多面的・多角的に考えることができた。
- 自分の考えをもち、話を聞き合うことはできたが、事後研究会では、相手の考えに対して自分の考えを伝え合うなど、議論する場をもつとよいという意見もあった。今後は、相手の考えに対する自分の考えを述べられるように、問い返しや揺さぶりなどのコーディネートをしていきたい。

(2) 「他者の考えに触れさせる活動の工夫」について

- ペアでの活動で役割をお互いに演じることで、自分との考えの違いに触れ、自分の考えをさらに深めることができた。
- 他者の考えに触れさせる機会が少なかった。ペアインタビュー（ホットシーティング）後に全体でのホットシーティングを行うなど、全体での意見の交換の場があってもよかった。
- 父、兄だけでなく、見ている私について考えることにより、それぞれの立場における気持ちの変化にも気づき、より多面的・多角的な考えをもつことにつながるできると考える。



〈ペアインタビュー
（ホットシーティング）〉

(3) 「考えを深めるための発問の工夫」について

- ペアインタビュー（ホットシーティング）をする中で、他者の意見に触れ、多様な考えを理解する機会を得ることで、私の葛藤や行動の理由などをより深く理解させることができた。さらに、普段の言動についても取り上げることで、自分の行動を振り返らせることができた。
- 振り返りの時間を十分に確保したことで、本時の学びとこれまでの自分についてじっくり振り返ることができた。ペアやグループで振り返りを共有することで、さらに多様な考えにも触れることができた。
- 父や兄の意見を全体で共有する際に、問い返しを行うことで、本時のテーマをより深く考えさせることができたと考える。今後は、生徒の意見を予測しながら、テーマに向かって、どのように授業をコーディネートしていくかを考えていく必要がある。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 考えを可視化させることで、生徒の考えを共有すること以外にも、変容を見取ることもでき、評価に生かすことができた。
- 自分の考えを表現することが苦手な生徒については、授業の中で表出される姿にも着目して評価していく必要がある。

相馬総合高等学校第1学年 ホームルーム活動(2) 指導の実際と考察

日時：令和 7年 9月 3日(水) 第4校時
授業者：福島県立相馬総合高等学校 教諭 古川叶梧

授業テーマ	災害デマをテーマに、災害時の緊迫した状況下において善悪を判断できる思考力、他者を思いやる心を育み行動できる授業
-------	---

1 題材名 災害時の行動の在り方

2 題材について

(1) 生徒の実態

入学から5か月が経過し、生徒たちは学校生活にも慣れ、学級集団としてのまとまりも見られるようになってきた。授業での発言やグループ活動にやや消極的になる場面もあるものの、多くの生徒は日々の課題に主体的に取り組み、自分なりの解決策を考えようとする姿勢が育っている。一方で、自分の言動が相手に与える影響を深く考えず、思ったことをそのまま口にしたり、軽率に行動に移してしまったりする姿もみられる。特に、インターネット上でのコミュニケーションが増えている現在では、相手の表情や気持ちが見えにくい分、誤解やトラブルにつながりやすいという難しさもある。

(2) 題材設定の理由について

学校の重点目標には、「命の尊さを学ばせ防災意識を高め、震災の記憶継承と情報発信を通じて主体的に行動できる人材を育成する」と掲げられており、震災の記憶を風化させないため、防災訓練など学校全体で取り組んでいる。しかし、震災から14年が経過し、現在在籍している生徒は震災当時、幼かったこともあり、当時の記憶はほぼない世代である。

そこで今回は「ふくしま道徳教育資料集 第I集 生きぬく・いのち」内の「チェーンメール」を教材として取り扱う。まずは、本教材を活用して震災当時何が起こっていたのかを知ることから始めたい。そして、その知識をもとに、災害発生に生ずるデマなどがなぜ流されてしまうのか、どういう混乱を起こすのかということを考えることができるようにしたい。一連の活動を通して、生徒が、誠実に行動すること、他者を思いやることについて、深く考えることができるように、中学校道徳の内容項目「A自主、自律、自由と責任」「B思いやり、感謝」との関連を図りながら、生徒一人一人の意思決定につなげることをねらいとしている。

また、チェーンメールを送った送信者と、そのメールを受け取った受信者側の両方の立場から考えることで、多面的・多角的に事象を捉えながら、情報社会の中で自分たちが正しく行動するために、SNSの利用を自分事として捉え、判断していけるような姿を求めていく。

3 題材の評価の観点と評価の規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	自己の生活上の課題の改善に向けて主体的に取り組むことの意義や適切な意思決定を行い、実践し続けていくために必要な知識、行動の仕方を身に付けようとする。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見だし、多様な視点から課題の解決方法を探ることで、自ら意思決定する。	他者への尊重と思いやりを深めてお互いのよさを生かす関係をつくり、他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。

4 本時のねらい

災害時の緊迫した状況を想定し、自分事として捉え、自分自身の行動や他者へ働きかける行動について実践を通して考え、他者を思いやる心と善悪を判断する思考力を基に意思決定することができる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習指導過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
<p>1 能登半島の「助けてリツイート」を見て、心情メーターを活用し、考え、発表する。</p> <p>(1) ※「心の数直線」を使用し、班で善意か悪意かを表現する。</p> <p>(2) 全体で共有する。</p> <p>(3) 「本当の住所だったら」という条件を踏まえて、もう一度「心の数直線」を使用し、班で善意か悪意かを表現する。</p> <p>(4) 全体で共有する。</p>	8	<p>○ 記憶に新しい能登半島での震災時に、実際に拡散された虚偽の情報を提示し、これが非常変災時に送られてきたらどう思うか問いかける。そうすることで、非常時には冷静な判断が難しい場合があることに気付くことができるようにする。</p> <p>○ 生徒にとって身近なSNS上での事案を提示することで、自分の身にも起こりうることであり意識することができるようにする。</p>
<p>2 本文を通読する。</p> <p>3 親友のヤスシは善意でチェーンメールを送ったのか、悪意で送ったのか「心の数直線」を活用し、考え、発表する。</p> <p>4 以下の発問について考え、発表もしくは実践する。</p> <p>◎ 自分が実際に送られてきたら、どのような行動をとるか。</p> <p>○ 家族や親族に、同じようなチェーンメールが届き、そのメールを拡散しようしていたら、どのような声かけをするか。</p>	4 15 15	<p>○ 生徒の善意と判断した理由、悪意と判断した理由それぞれを板書する。</p> <p>○ 「心の数直線」を用いることで、多様な意見を可視化できるようにする。</p> <p>○ 生徒は、チェーンメールを想像することが難しいため、チェーンメールと本質的に似ている能登半島地震の「助けてリツイート」を提示する。</p> <p>○ 「心の数直線」において、なぜ反対意見にも数字を残したのかを問いかける。そうすることで、反対の立場からも本事象を捉えることができるようにする。</p> <p>※ 情報の送り手と受け手の両方の立場から行動の内容を考えているか。(発言・発表)</p>
<p>5 本時の内容を振り返り、「他者を思いやる気持ち」、「情報モラル」を踏まえて、自分ルールを1つ考え、発表する。</p>	8	<p>※ 自分の生活と関わって、自分ルールを決めているか。(ワークシート記述)</p> <p>○ 緊迫した状況下で、善悪を判断する難しさを踏まえ、どの情報でも必ず「確認」することの大切さを伝える。</p>

※ 「心の数直線」 熊本市教育センター ICT支援室

<https://www.kumamoto-kmm.ed.jp/kyouzai/web/Heart-meter3/>

「ふくしま道徳教育資料集」等の活用の視点から

(1) 「教材を自分事として捉える工夫」について

- 「チェーンメール」を知らない世代ということもあり、生徒が身近に感じられるように、SNSでのデマを一つの例として取り上げた。その結果、生徒は本教材を自分事として捉えることができた。また、「心の数直線」という学習ツールを活用することで、生徒自身が視覚的に善悪を表現することができた。
- 生徒は東日本大震災当時、1歳または2歳であり、当時の記憶が乏しい。そのため、教師が震災当時の経験を語ることで、生徒が教材の内容を理解するための手助けとなった。



＜心の数直線を活用している場面＞

- 道徳の観点から、生徒自ら意思決定をしていくことが大切である。本時の学習活動では、情報モラルに重点を置き過ぎてしまったことで「情報を取り扱う時は確認が必要」という一つの考えに誘導してしまった。生徒が主体となって、合意形成・意思決定できるようにするために、グループでの意見交流や発表の時間を多く取る必要がある。



＜心の数直線＞

(2) 「今後の生活に活かす振り返り」について

- 「明日から実践できる自分ルール」を考えることで、学んだことをそのままにするのではなく、すぐに行動に移すことができた。
- 生徒が考えた自分ルールの内容は、「情報を鵜呑みにしない」や「必ず正しい情報かを確認する」といった情報モラルの観点からのものが多かった。

＜生徒の自分ルール＞より

- ・あやしいメールや情報が流れてきたら、鵜呑みにせず、しっかりと考えてから行動する。
- ・どれだけ緊迫した状況においても、冷静さを失わない。まず、これが必ず正しいと思うのではなく、疑い、正しいと思うのであれば行動したいと思いました。

- 本時のねらいとして、「情報モラルの知識定着」と「情報の善悪を適切に判断できる思考力・判断力の育成」が挙げられる。生徒の自分ルールから「情報モラル」の知識はある程度定着できた一方で、「情報の善悪を適切に判断できる思考力・判断力の育成」ができていないことが分かった。そのため、「情報の善悪を適切に判断できる思考力・判断力の育成」ができるような声かけをしていく必要がある。

子ども一人一人を受け止め、認め励ます評価の視点から

- 話合いの時間では、情報の授業で学習した「ブレインストーミング」を意識して意見交流を行った。「批判禁止」「自由奔放」「結合便乗」というルールのもと班全員が一つの問いに対して、活発に意見交流を行うことができた。
- 班によっては、話合いが進まない班も複数存在してしまった。そのため、机間指導による適切な声かけや、生徒の特性を活かした班づくりの工夫をする必要があった。



＜グループで意見交流をしている場面＞

【Q&A】

道徳科の教育課程Q&A



学習指導要領 Q & A [特別の教科 道徳] (小・中)

1 なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わることを、変わらないことを教えてほしい。

「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)については、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から他教科に先駆けて先行実施された。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の5点が挙げられる。

(1) 目標の明確化

⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己(人間)の生き方についての考えを深める学習を通して」

(2) 体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善

⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

(3) 多様な指導方法の工夫

⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

(4) 魅力的な教材の開発や活用の工夫

⇒地域教材の積極的な開発と活用

(5) 評価

⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

2 道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画(ロードマップ)を明確に描くことができるのかが、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

- 「重点目標」「指導の重点化」(重点とする内容項目の設定)を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。
- 「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。
- 別業をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしているか。
- 評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

3 道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができると」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任が授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

4 教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法34条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」(中学校にも準用)さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第2条には、「教科書」とは、「…学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材…」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

5 道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「…道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。…地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」(県教委発行)及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあっては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳WEB版(文部科学省)」「小(中)学校道徳読み物資料集(文部科学省)」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

6 学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道徳教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（WEB版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

7 自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

8 「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

『特別の教科 道徳』の指導方法と評価について（報告）平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の3つが示された。これらは「考え、議論する道徳」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

9 複式学級における道徳科の授業をどうつくりゃよいか分からない。どのように計画を立案すればよいか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 第1節 内容構成の考え方（3）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。これらを踏まえると、「特別の教科 道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の3例が想定される。

- A 学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
- B 2年間分をそれぞれ第1年次（A年度）と第2年次（B年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
- C 2年間分の学習内容について、A年度は○学年の教材を主に、B年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（A年度は○学年の教科書給与、B年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。

なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。

さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10 複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせる弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。

（例）3・4学年（複式学級）において、5月第2週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想

- 導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
- 展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせる実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
- 展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。

この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。

なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

11 特別支援学校における道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。
さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということの意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおりに取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第130条第2項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第5章 特別の教科 道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、3つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

12 「大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第5章 第2節 道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大きくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

13 評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ABC」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大きくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないのか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにABCを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- といった2点を重視して評価を実施することが大切である。

15 道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の5点を確認しておきたい。

- (1) 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- (2) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- (3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。
- (4) 学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること
- (5) 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要があること。

16 道徳科の教育課程編成上、「これだけは …」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成29年3月）・第3章特別の教科道徳・第3指導計画の作成と内容の取扱いの1には、「…第2に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年19項目・中学年20項目・高学年22項目、中学校22項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17 教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にさせていただきたい。

[学習指導要領等]

- 小(中)学校学習指導要領 平成29年3月31日 文部科学省(文部科学省HP)
- 小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月文部科学省(文部科学省HP)

[通知等]

- 学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(28教義第846号 平成28年8月10日付)

[報告書・広報誌等]

- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(文部科学省HP)
- 福島県道徳教育推進報告書(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のとびら(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のかけ橋(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳の礎(福島県教育庁義務教育課HP)

[動画等]

- 道徳教育アーカイブ(<https://doutoku.mext.go.jp>)
- 校内研修シリーズ「道徳教育」(独立行政法人教職員支援機構HP)
- 福島県版「道徳教育アーカイブ」(福島県教育庁義務教育課HP)

令和8年2月16日 印刷

令和8年2月24日 発行

福島県教育委員会

◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆



第Ⅰ集
生きぬく・いのち



第Ⅱ集
敬愛・つながる思い



第Ⅲ集
郷土愛・ふくしまの未来へ

【小学校版】



【中学校版】



【高等学校版】



道徳教育リーフレット 「道徳のとびら」



「モラル・エッセイ」コンテスト 優秀作品集



福島県教育委員会

この冊子の電子版が、福島県版「道徳教育アーカイブ」よりダウンロードできます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoku57.html>

